“暮らしつづける”想いが叶うまち　かわにし

平成３０年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　川西市社会福祉協議会

目　　次

平成３０年度　事業報告

平成３０年度事業の総括報告 …… 1
平成３０年度重点事業項目の内容と実績 …… 2
A　法人運営事業 …… 3
B　地域福祉事業
B1　地域福祉活動推進事業 …… 8
B2　ボランティア活動センター事業 …… 17
B3　日常生活自立支援事業 …… 25
B4　成年後見支援センター事業 …… 28
B5　民生委員児童委員協議会連合会事業 …… 32
B6　共同募金配分金事業 …… 34
B7　基金事業 …… 37
B8　資金貸付事業 …… 39
B9　善意銀行事業 …… 41
C　介護保険事業　訪問介護事業 …… 42
D　自立支援事業
D1　居宅介護事業
D2　重度訪問介護事業
D3　同行援護事業
D4　移動支援事業
E　障がい者相談支援事業 …… 47
F　障がい者施設
F1　小戸作業所 …… 52
F2　川西作業所 …… 56
F3　ひまわり荘 …… 59
G　障がい児施設
G1　川西さくら園 …… 61
G2　さくらんぼ …… 68
H　養護老人ホーム　満寿荘 …… 71
I　老人デイサービス
I1　緑台デイサービスセンター …… 76
I2　久代デイサービスセンター …… 79
J　老人福祉センター
J1　一の鳥居老人福祉センター …… 82
J2　緑台老人福祉センター …… 85
J3　久代老人福祉センター …… 88
K　子育て支援
K1　久代児童センター …… 91
K2　ファミリーサポートセンター …… 93

平成３０年度事業の総括報告

平成３０年は、世相を表す漢字に「災」が選ばれるほど災害の多い年となり、６月には大阪府北部地震、７月の西日本の豪雨災害、９月には台風２１号により大きな被害が各地で出るなど、自然災害の恐ろしさを痛感する一年でした。災害時はもちろんのこと、日頃から住民同士のつながりを大切に、お互いが支え合い、安心して暮らせる福祉のまちづくりに取り組む大切さを改めて感じました。

そのような中、７月には、西日本豪雨で大きな被害があった岡山県倉敷市真備町に災害ボランティアバスを運行し、ボランティアなど２１名が被災者宅を訪問し、家財の運び出しと家の中の掃除などの災害支援活動を行いました。

また、昨年４月は、地域で共に生きることができる地域共生社会の実現に向けた社会福祉法の改正が行われ、地域福祉の推進に「国及び地方公共団体」が位置づけられ、そして「地域生活課題」を把握し、連携して解決していくために市町村ごとに「地域包括支援体制」の整備が求められるようになりました。

さて、本会の事務局は昨年９月、ふれあいプラザから新たにキセラ川西プラザ福祉棟１階に移転し、事務所や相談室の他、民生委員児童委員協議会などの福祉関連団体事務所が確保されました。２階には、川西市ボランティア連絡協議会の拠点が確保され、ボランティア活動が活発に展開されました。

そして、１１月には、キセラホールにおいて、第６７回兵庫県社会福祉大会が開催され､兵庫県下から福祉関係者など約１，０００名の参加により開催されました。記念講演では、川西市名誉市民の古田敦也さんが、「ともにつながり支え合う」をテーマとして、ユーモラスな経験談により盛況に終わりました。

また、成年後見支援センターの取り組みでは、市民後見人養成講座修了生の中から１名が、新たに市民後見人として受任され、これまでの１名に加え、２名の市民後見人に対し本会は、監督人として活動の相談や助言などのサポートを行いました。

介護保険によるデイサービスセンター事業につきましては、大きな見直しを行い、これまで市の指定管理施設として長年運営してきました緑台デイサービスセンターと久代デイサービスセンターを、市内の事業者数と利用者状況を勘案し、公的施設として一定の目的を達成したことから、市の方針により平成３１年３月末をもって廃止しました。

平成３０年度　川西市社会福祉協議会　重点事業項目の内容と実績

重点事業項目		取　組　み　内　容　と　実　績
1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	第４次川西市地域福祉推進計画の重点事業である連携強化型相談窓口機能整備については、本会のコミュニティワーカー（地区担当職員）と権利擁護支援担当職員が連携し、さらに、地域包括支援センター職員や民生委員・児童委員などと連携し、生活課題を抱える人（世帯）を早期に発見し支援するための相談窓口機能の役割を関係者に理解を求めるなど機能の整備に取り組みました。
2	地区福祉委員会エリアごとの第２層協議体の運営支援と地域の支え合い体制の構築	生活支援コーディネーターを新たに１名配置し、１４地区福祉委員会（コミュニティ）エリアごとの第２層協議体の設置及び運営の支援を行いました。 そして、１４地区において、「人材の確保」、「財源の確保」、「拠点の確保」、「移動手段の確保」という４つの共通課題を把握し、市レベルの第１層協議体に報告しました。
3	地域の生活・福祉課題の解決をめざした「社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）」の設立	社会福祉法人の地域における公益的な取組については、高齢者分野や障がい者分野、児童分野など、市内１５法人が加入した川西市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットかわにし）を９月に設立しました。 そして、情報交換会の開催や今後の地域貢献活動などの検討を行いました。
4	第４次川西市地域福祉推進計画・地区福祉計画に基づいた事業の推進	５カ年計画である第４次川西市地域福祉推進計画・地区福祉計画の初年度となりました。 「福祉デザインひろばづくりの推進」や「各活動における人材発掘と育成」、「社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備」など計画に掲げた重点事業や各種事業を関係機関や団体、関係者等と連携し取り組みました。
5	法令遵守を徹底した組織体制の強化をめざした改善計画の推進	平成２８年２月に行われた阪神北県民局の監査を踏まえた法令遵守体制を確立するための改善計画の一環として、施設や事業において内部監査を継続して実施しました。 施設は、満寿荘、久代デイサービスセンター、小戸作業所、川西作業所、ひまわり荘、川西さくら園の６施設と事業では、日常生活自立支援事業、福祉用具貸出事業、すこやかサービスセンター事業、障がい児（者）地域生活就業支援センター、さくらんぼの５事業について実施し改善に努めました。

A	法人運営事業	決算科目	法人運営事業

主な事業内容・成果

組織や経営の基盤強化のために、理事・監事・評議員合同研修を開催し、社会福祉法人制度改革に伴い、求められるそれぞれの役割について学びました。

法令遵守の確立をめざし、内部監査を本部事業にまで広げるとともに、会計にかかる研修を実施し、会計規程に基づく処理の再確認ができました。

市内に事業所をもつ社会福祉法人に呼びかけ、連絡協議会を設立し、社会福祉法人による連携・協働事業を推進するための基盤が整いました。

第4次川西市地域福祉推進計画に基づいた事業の点検評価を行い、次年度の計画に反映しました。

今後の課題

① 理事・監事・評議員を対象とした研修を継続実施し、法人運営や事業推進に携わっていただき、組織強化や事業の活性化をめざします。

② 法令遵守体制の確立をめざし、内部監査による個々の課題解決とともに、法人全体として業務の見直しや時間外縮減等について、取り組む必要があります。

③ 法人連絡協議会の活動が、地域の福祉課題の解決につながるよう働きかけが必要です。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	112,478,095	113,650,865	1,172,770
会費収入	9,542,841	9,552,982	10,141
経常経費補助金収入	89,830,051	84,540,663	△ 5,289,388
投資有価証券売却収入	8,000,000	0	△ 8,000,000
その他	5,105,203	19,557,220	14,452,017
（支　　出）	120,601,700	105,879,700	△ 14,722,000
人件費	84,824,376	77,023,150	△ 7,801,226
事業費	619,244	1,116,046	496,802
事務費	7,147,364	14,820,453	7,673,089
積立資産支出	9,391,929	2,569,574	△ 6,822,355
拠点区分間繰入金支出	9,095,947	8,160,337	△ 935,610
その他	9,522,840	2,190,140	△ 7,332,700

当期資金収支差額	△ 8,123,605	7,771,165	15,894,770
前期末資金収支残高	1,211,021	△ 6,912,584	△ 8,123,605
当期末支払資金残高	△ 6,912,584	858,581	7,771,165

主な増減理由

① 経常経費補助金収入は、退職一時金支給額の減

② 投資有価証券売却収入は、売却対象がなかったことによる減

③ その他収入は、移転に伴う会館建設積立資産の取崩に伴う増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2－1
（1）	理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目	⑤

・ 研修を通して、社協事業又その推進における理事会、評議員会の役割について理解をさらに深め、組織運営の基盤強化につなげます。

【実績と成果】

・ 理事・監事・評議員合同研修を開催し、社会福祉法人制度改革に伴い、理事・監事・評議員に求められる役割について学ぶとともに、各選出団体との連携・協働につながるようパイプ役としての役割についても認識を深めていただいた。

理事・監事・評議員合同研修会（理事8人、監事1人、評議員20人参加）

開催日　平成31年2月22日

内　容　社会福祉を取り巻く情勢と社会福祉法人制度改革に伴う理事・監事・評議員の役割について

講　師　社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会　地域福祉部長　岩木久敏 氏

2	福祉情報の受発信	活動項目	2－2
(1)	福祉情報の受発信に対する取組みの強化	取組項目	①

・ 住民が求める福祉情報を届けられるように、住民のニーズを把握し、情報の内容や発信の方法等の充実に努めます。

【実績と成果】

・ ホームページや広報紙の内容について修正を加えるとともに、福祉情報に対する住民ニーズの把握方法について検討会議を開きました。

(2)	社協職員一人ひとりの情報発進力向上のための取組み	取組項目	②

・ 職員の誰もが、社協全体の動きを把握できる仕組みづくりを行い、住民に有効な情報が発信できるように努めます。

【実績と成果】

・ 毎月行われる所属長会での情報をまとめ、各所属で共有するようにしました。また、パソコンの内部ネットワークを通じ各所属の情報を発信するようになりました。

(3)	ホームページや広報紙、情報紙等の充実	取組項目	③

・ 現在発行している広報紙等をさらに読みやすく、情報が適切に伝わるように、レイアウトの工夫など内容の充実を図ります。また、身近なところで情報が得られるよう、設置場所等についても検討します。

【実績と成果】

・ ホームページは、携帯やスマホでも見やすいレイアウトにするとともに、広報紙は、地域の活動や住民の声を紹介し、より地域住民の身近な情報を提供できるような紙面作りを行いました。

3	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2－4
(1)	各種自主財源のあり方検討	取組項目	①

・ 社協の貴重な自主財源である会員会費や共同募金、善意銀行などが減少傾向にある中で、「寄付による地域福祉財源の確保」のあり方を一体的に検討します。

【実績と成果】

・ 会員会費、善意銀行並びに歳末たすけあい募金は、前年度より増加しましたが、共同募金は、減少しました。

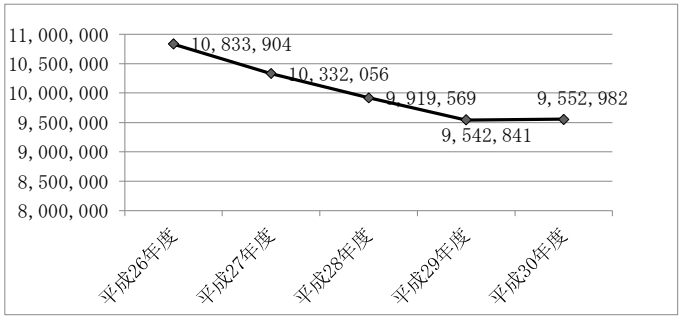
・ 自主財源の確保に向けて、広報等で工夫をしていますが、取組方法を見直し、引き続き検討をしていく必要があります。

①会員会費実績

・地区福祉委員会別会員会費集計表　（単位：円）

地区名	金額	地区名	金額	地区名	金額
久代小	494,762	明峰小	952,867	けやき坂小	110,452
加茂小	649,150	多田	376,570	東谷	529,350
川西小	750,330	多田東	497,250	大和	1,407,048
桜小	253,100	ｸﾞﾘｰﾝﾊｲﾂ	1,799,370	北陵	301,332
北小	425,743	清和台	900,158	その他	105,500
				合計	9,552,982

・年度別会員会費の推移　（単位：円）

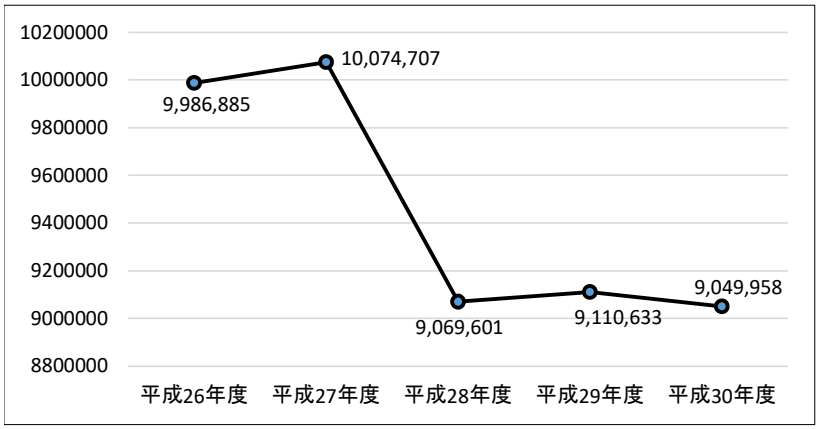


②川西市共同募金委員会への協力

・共同募金実績　（単位：円）

広域目標額(円)	地域目標額(円)	目標額計(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了日
2,761,000	6,579,000	9,340,000	9,049,958	96.9	平成30年12月31日

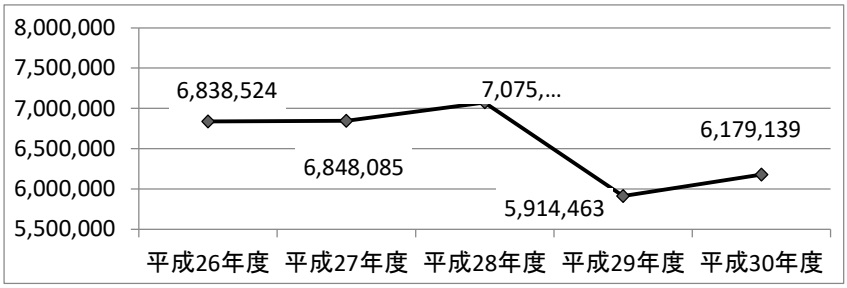
・共同募金年度別推移表　（単位：円）



・歳末たすけあい運動持ち寄り金実績

目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了年月日
7,000,000	6,179,139	88.3	平成30年12月31日

・歳末たすけあい持ち寄り金年度別推移表　（単位：円）



（2）	新たな収益事業の検討	取組項目	②

・ 新たな福祉事業の開発や現事業の拡充のためには、安定した自主財源の確保が必要となります。新たな自主財源確保のために、横断的な職員の参加のもとに検討を行います。

【実績と成果】

・ 収益事業の検討に向け、各部署から職員が参加し、次年度より検討の場をもつことになりました。

4	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
（1）	職員の資質向上	取組項目	②

・ 研修計画に則った研修を行い、各職員の専門性をさらに高めるとともに、総合的、横断的な支援が行えるように、職員間の連携を強化します。

【実績と成果】

・ 施設では年間計画に則り研修を実施しました。法人においては法令遵守やハラスメントなどの研修を行うとともうに、法人の研修方針を定めた職員研修実施要綱を制定しました。

5	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3－3
(1)	市内の社会福祉法人との連携	取組項目	③

・ 社会福祉法の改正に伴い義務化された「地域における公益的な取組」を進めるために、市内の社会福祉法人による連絡協議会を組織し、それぞれの専門性を活かした取組みをめざします。

【実績と成果】

・ 市内に事業所をもつ社会福祉法人15法人により、「川西市社会福祉法人連絡協議会」を設立しました。また、本年度事業として、次年度からの具体的な地域公益活動の実施につながるよう、情報交換会を開催し、法人相互に理解を深めるとともに、次年度事業に向けた、意見交換を行いました。

(2)	地域福祉推進に資する施策の提言	取組項目	⑥

・ 市域における地域福祉が、さらに推進されるように研究と工夫を重ね、川西市へ施策提言を行います。

【実績と成果】

・ 平成31年度新規・拡充事業として、地域だけでは解決できない多様化・複雑化した生活課題に対し、川西市等の多様な機関と連携を図り、包括的な総合相談支援体制の構築に向け計画書を川西市に提出しました。

その他

事業項目	①第4次地域福祉推進計画の進行管理

・ 地域福祉推進計画に基づき、事業が推進されるように点検・評価を行います。

【実績と成果】

・ 推進計画の進行管理を行うために、進捗状況点検表を作成し、それぞれの事業ごとに、進捗状況の点検を行いました。また、点検結果を次年度の事業計画の作成に活かしました。

事業項目	②法令遵守体制の確立

・ さらなる法令遵守体制の確立をめざし、改善計画を推進します。

【実績と成果】

・ 今年度は、施設に加え、法人本部事業（福祉用具貸出事業、日常生活自立支援事業等）についても内部監査を実施しました。また、会計処理及び契約手続きについて会計責任者（契約担当者）と会計職員を対象に2回内部研修を実施しました。
時間外勤務の多い、川西さくら園、さくらんぼの時間外縮減に向けて職員との話し合いを継続的に実施しました。

事業項目	③阪神7市1町社協会長・理事長会の幹事社協としての取組

・ 阪神7市1町の幹事社協として、会運営に携わるとともに、相互の情報交換や共通の課題を集約し、県へ提言などを行います。

【実績と成果】

・ 年間3回の会議を開き、各社協の抱える課題について情報交換するとともに、それらに基づいた兵庫県への提言をまとめました。

事業項目	④兵庫県社会福祉大会の開催

・ 兵庫県社会福祉大会（平成30年度川西市で開催）を兵庫県、兵庫県社会福祉協議会、川西市とともに開催します。

【実績と成果】

・ 11月20日に川西市キセラホールにて、兵庫県社会福祉大会を開催しました。大会は、式典と記念講演の2部構成で行い、会場はほぼ満席となり好評を博しました。

事業項目	⑤理事会等の開催状況

理事会の開催

（開催日）	（内容）
・平成30年 6月12日	理事候補者選定の承認、評議員選任候補者の推薦、役員等の報酬等に関する規程の一部改正、平成29年度事業報告・決算、定時評議員会の招集等
・平成30年 8月20日	定款の一部変更、評議員候補者の推薦、兵庫県阪神北県民局提出の改善計画の平成30年6月の遂行状況の報告、会長及び常務理事の職務執行状況の報告等
・平成30年10月22日	７月豪雨災害被災地への対応報告、台風21号・24号にかかる被害・対応報告、社会福祉法人連絡協議会設立にかかる報告、緑台及び久代デイサービスセンターの状況と緑台老人福祉センターの報告、兵庫県社会福祉大会報告等
・平成30年12月21日	兵庫県阪神北県民局提出の改善計画の平成30年11月遂行状況の報告、会長及び常務理事の職務執行状況の報告、兵庫県社会福祉大会の結果報告、川西市社会福祉法人連絡協議会役員会報告
・平成31年 3月27日	平成30年度補正予算（第１回）、職員就業規則の一部改正、嘱託員就業規程の一部改正、臨時職員就業規程の一部改正、再雇用職員就業規程の一部改正、職員給与規程の一部改正、平成31年度事業計画・予算、定款の一部変更、経理規程の一部改正、評議員会の招集、理事候補者選定の承認、福祉サービスの苦情解決に係る第三者委員の選任、施設長等の選任、久代デイサービスセンター利用料等の回収不能に伴う債権放棄等

評議員会の開催

（開催日）	（内容）
・平成30年 6月28日	理事の選任、役員等の報酬等に関する規程の一部改正、平成29年度事業報告・決算、兵庫県阪神北県民局提出の改善計画にかかる平成29年度の取組
・文書同意	定款の一部変更
・平成31年 3月29日	平成30年度補正予算（第１回）、平成31年度事業計画・予算、定款の一部変更、理事の選任、久代デイサービスセンター利用料等の回収不能に伴う債権放棄等

監査の実施

（開催日）	（内容）
・平成30年 5月30日	平成29年度事業及び社会福祉事業区分会計決算に関する監査

正副会長会の開催

・毎月1日(原則)及び3月に臨時正副会長会を計13回開催し、社協経営等についての課題協議や事業実施状況報告等を行いました。また、12月に顧問との懇談会を開催しました。

B1	地域福祉事業	決算科目	地域福祉活動推進事業

主な事業内容・成果

地区福祉委員会の役員会、連絡会など各種会議や主催事業、支え合いの地域づくりを進めるための協議の場づくりと参画を通して地域課題を把握し、ネットワークの構築など課題解決に向けた地域福祉活動の推進に取り組みました。

また、ボランティア部会の運営支援にも重点的に取り組み、ボランティアコーディネーターとの連携を図り、生活支援体制整備の推進に努めました。

今後の課題

地域福祉の担い手の高齢化が顕著であり、将来を見据えた人材の発掘と養成、新たな仕組みづくりが大きな課題です。

一層の地域住民との協働、関係機関や行政との連携が求められており、生活支援コーディネーターの体制強化が必要です。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	53,048,938	56,780,208	3,731,270
経常経費補助金収入	36,961,279	33,386,147	△ 3,575,132
受託金収入	0	7,644,301	7,644,301
その他	16,087,659	15,749,760	△ 337,899
（支　　出）	53,686,111	57,267,574	3,581,463
人件費	35,488,984	39,500,004	4,011,020
事業費	2,668,700	2,783,946	115,246
事務費	374,834	505,634	130,800
助成金支出	6,660,435	6,163,893	△ 496,542
その他	8,493,158	8,314,097	△ 179,061
予備費	0	0	0

当期資金収支差額	△ 637,173	△ 487,366	149,807
前期末資金収支残高	3,327,559	2,690,386	△ 637,173
当期末支払資金残高	2,690,386	2,203,020	△ 487,366

主な増減理由

① 人件費は、新規受託事業に伴う増

② 助成金支出は、拠点整備助成金の終了に伴う減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	福祉デザインひろばづくりの推進	活動項目	1－1
（1）	住民主体の「福祉デザインひろば」づくりの推進	取組項目	①

・ コミュニティワーカー（地区担当職員）による地区福祉委員会へのサポート体制を強化し、より深く地域と関わることで、小学校区ごとの「福祉デザインひろばづくり」を支援します。

【実績と成果】

・ コミュニティワーカー（地区担当職員）の地域支援活動状況

活動内容	件数	内容の詳細
活動支援	82　件	ふれあいサロン・コミュニティカフェなどの居場所活動の支援、各部会活動への支援等
会議への参加	200　件	地区福祉員会定例理事会、役員会等への参加
広報・啓発	11　件	地域福祉活動に関する説明や講義等
相談対応、調整	1　件	活動に関する相談対応、調整等

・「福祉デザインひろばづくり」実施状況（図①）

活動内容			実施地区	延べ活動回数	延べ参加者数
1. 福祉ネットワーク会議の開催			13 地区	30 回	873 人
2. 住民座談会・懇談会の開催			2 地区	6 回	119 人
3. 講座・研修会等の開催			14 地区	154 回	6,662 人
	内訳	①福祉委員対象	14 地区	50 回	1,506 人
		②地域住民対象	12 地区	42 回	1,914 人
		③認知症サポーター養成講座	12 地区	62 回	3,242 人
4. サロン・コミュニティカフェの開催(誰もが参加可)			14 地区	1,180 回	36,664 人
	内訳	①ふれあいサロン	13 地区	882 回	23,362 人
		②コミュニティカフェ	8 地区	298 回	13,302 人
5. 子育てサロンの開催			13 地区	284 回	5,369 人
6. 地域住民交流事業			14 地区	264 回	23,130 人
	内訳	① 会食会・給食会	7 地区	60 回	2,247 人
		② ①以外の三世代交流事業など	13 地区	105 回	19,143 人
		③ ①②以外の障がい者との交流会など	8 地区	99 回	1,740 人
7. 地区相談事業			13 地区	延べ相談日数 1,000 日	延べ相談件数 750 件
8. 広報紙の発行			単独 10 地区 合同 4 地区	発行回数 74 回	発行部数（1回） 84,249 部
9. 助けあい支えあい			14 地区	306 回	6,819 人
	内訳	①認知症とその家族を主たる対象としたカフェやサロンなどの開催	7 地区	82 回	1,604 人
		②障がい者やその家族を主たる対象としたカフェやサロンなどの開催	3 地区	48 回	612 人
		③ひとり暮らし高齢者のつどいの開催	12 地区	19 回	1,388 人
		④ひとり暮らし高齢者の会の育成・支援	4 地区	17 回	495 人
		⑤介護予防に関する事業（認知症予防含む）の開催支援	11 地区	140 回	2,720 人
10. その他の事業 （認知症行方不明者SOS訓練など）			8 地区	200 回	5,198 人

ボランティア部会数	部会員数	活動回数	延べ活動者数
14地区	564 人	2,861 回	3,692 人

（2）	地域のニーズに合わせたふれあい交流事業の推進～ふれあい～	取組項目	②

・ 地区福祉委員会とともに様々な地域のニーズに合わせたふれあい・交流の場づくりを進め、住民同士の顔の見える関係づくりを広めます。

【実績と成果】

・ 地区福祉委員会の定例会議等へ参加し、地域のニーズに合ったふれあい・交流の場について地区福祉委員会とともに検討し、事業の推進に取り組みました。
※地域住民交流事業の実施状況は、図①の活動内容6を参照。

・ 地域福祉活動器材の貸し出しを通じて、地区福祉委員会や自治会などが主催する地域交流事業の開催を支援しました。

＜地域福祉活動器材の貸し出し状況＞

福祉活動器材	貸出団体・グループ数(延べ)
わた菓子機、ポップコーン製造機、テント、疑似体験セット、サンタ衣装、餅つきセット、拍子木セット、プロジェクター、スクリーン、カプラ、ソフトブロック	71団体・グループ

(3)	地区相談窓口の実施支援～支えあい～	取組項目	③

・ 地域における窓口相談員研修や関係機関への取り次ぎなどを通して、身近に気軽で相談できる窓口の充実を支援します。

【実績と成果】

※地区相談窓口事業の実施状況は、図①の活動内容7を参照。

＜地区相談窓口研修会の開催状況＞

開催地区　　3 地区

参加者　　164 人

(4)	小学校区単位でのネットワークづくり～つながりあい～	取組項目	④

・ 概ね小学校区単位で、地域住民や関係団体などが連携を深め、地域課題を共有し、解決に向けた協働による具体的取組みが進むように、福祉ネットワーク会議の開催や課題解決に向けて支援します。

【実績と成果】

・ 地区内の多様な団体・事業者等に対して福祉ネットワーク会議への参加を呼びかけたことにより、参加団体が増え、小学校区単位でのネットワークづくりを推進しました。

参加団体数　　92 団体

(5)	子育て支援の推進	取組項目	⑤

・ 子育てサロンの運営支援に加え、地域の様々な福祉活動を通して当事者の声を把握し、ふれあいや支えあいによる地域の子育て環境の向上を図ります。

【実績と成果】

・ 子育てサロンへ出向いたり、主任児童委員と連携することにより、当事者の声の把握に努めました。

・ 活動遊具の貸し出しを通して、まちの子育てひろばや子ども会などの活動を支援しました。

活動遊具の貸し出し状況　　20 件

(6)	地区福祉委員会事業へのより幅広い住民の参画推進	取組項目	⑥

・ アンケートや住民座談会の実施、本会を構成する関係団体などとの協議を通して、住民の意見を反映し、地区福祉委員会事業に多くの住民が参画できる仕組みをつくります。

【実績と成果】

・ コミュニティ推進組織や自治会との協議の場を通して、地区福祉委員会事業に対する住民の意見やニーズの把握が促進されました。

2	普段も災害時も助け合えるつながりづくり	活動項目	1－3
(1)	関係団体との定期的な協議・検討	取組項目	①

・ 普段の地域福祉活動を通したつながりを活かし、ボランティア活動センターと連携し、対応について協議・検討を行い、情報共有体制の整備・充実を図ります。

【実績と成果】

・ 災害時における対応について、情報共有体制の整備・充実を図るため、本年度に起こった豪雨災害の発災後、全地区への聞き取りを行うなどし、災害時の助け合い等の課題把握に取り組みました。

3	地域資源の開発（生活支援体制整備事業の推進）	活動項目	1－4
（1）	ニーズに応じた地域福祉資源の開発	取組項目	①

・ 地域診断などを活用し、今ある地域資源を発掘するとともに必要に応じて新たな資源を開発します。

【実績と成果】

・ 福祉ネットワーク会議、第2層協議体などを通して地域資源を発掘するとともに、足りない資源については地区福祉委員会等に対して開発支援を行いました。

ふれあいサロン・コミュニティカフェ等、居場所の新規開設数　　1 箇所

（2）	身近なエリアでの見守り・支えあい活動の推進	取組項目	②

・ 地域ケア個別会議などで個別ニーズを把握し共有することにより、より小さなエリアで見守りや支えあい活動が推進されるよう取り組みます。

【実績と成果】

・ 地域包括支援センターが主催する地域ケア会議へ地区福祉委員会とともに参加し、身近なエリアでの見守り・支えあい活動が推進されるよう取り組みました。地域ケア会議へは参加できていない地区も多くあり、より多く参加できるよう体制整備が課題です。

見守りネットワーク実施地区数　　14 地区
（認知症行方不明者SOSネットワーク含む）

（3）	地域におけるコーディネーター機能の強化	取組項目	③

・ 地域包括ケアシステムの構築を通して、地域共生社会の実現をめざし、コミュニティワーカー（地区担当職員）が地域におけるコーディネーターの役割を果たします。

【実績と成果】

・ 新たに生活支援コーディネーター（第2層）を1名配置し、地域におけるコーディネーター機能の強化を図りました。

生活支援コーディネーター（第2層）の配置　　1　名

（4）	協議の場の充実	取組項目	④

・ 地域における既存の会議を整理し、住民主体の会議と専門職などが主導する会議との連携がとれるよう協議の場の充実を図ります。

【実績と成果】

・ コミュニティワーカーが生活支援コーディネーター（第2層）の役割も担い、地区福祉委員会だけでなくコミュニティ推進組織との協議の場を設け、今年度より始まった小学校区ごとの協議の場（第2層協議体）の設置と運営支援を行いました。これらの取組みを通して、4つの共通課題（人材の確保、財源の確保、拠点の確保、移動手段の確保）を把握し、市レベルの第1層協議体につなげました。

第2層協議体設置地区数　　13 地区
（内訳）　平成30年度に設置した地区　　13 地区
設置支援の実施　　42 件　（設置に至った地区のみ）
地域福祉に関する協議の場への運営支援　　31 件

4	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2－1
（1）	人材確保に向けた検討の場づくり	取組項目	①

・ 地区のニーズに沿った人材確保に向けて、抜本的な取り組みの見直しを行うために、ボランティア活動センター、コミュニティワーカー（地区担当職員）、地区福祉委員会、川西市ボランティア連絡協議会、ボランティアグループ、川西市などが参画する検討の場に参画します。

【実績と成果】

・ 地区福祉委員会連絡会や各地区の福祉ネットワーク会議で議題とするなど、人材確保に向けた検討の場づくりに取り組みました。

（2）	理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目	⑤

・ 地区福祉委員が自ら講師を担うなど、地域住民同士で、ともに高めあう研修を企画します。

【実績と成果】

地区福祉委員研修の開催状況

内　容	開催地区数	参加者
福祉委員新任研修	2	44
社協活動福祉委員研修	1	80
地区相談窓口員研修	3	164
ボランティア関連研修	1	20
地域福祉市民フォーラム※	14	173

※民生委員との兼務者は集計から除く

5	福祉情報の受発信	活動項目	2－2
（1）	地区福祉委員会などと連動した福祉情報の発信	取組項目	④

・ お互いの情報の受発信がより効果のあるように各地区福祉委員会などと本会が連携して取り組みます。

【実績と成果】

・ 地区福祉委員会の各種会議や福祉ネットワーク会議を通して、効果的な福祉情報の受発信に取り組みました。

6	福祉教育の推進並びに学習機会の提供	活動項目	2－3
（1）	地区福祉委員会と連携した研修会などの開催	取組項目	③

・ 地域福祉活動が、より小地域でも広がりを見せるよう、ボランティアコーディネーターと連携して、研修会などを開催します。

【実績と成果】

・ 福祉委員会と公民館が共催する福祉講座などにおいて、ボランティアコーディネーターとの連携を図り、ボランティア活動センターの出前講座を活用するなど、小地域福祉活動が広がるような講座を開催しました。

7	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2－4
（1）	地域関係団体などと連携・協働した広報活動	取組項目	③

・ 地区福祉委員会やコミュニティ組織、関係団体などの各広報媒体に、本会や地域福祉活動への理解が深まるような記事を掲載できるよう働きかけを行います。

【実績と成果】

・ 地区福祉委員会が発行する広報紙に、地域福祉活動への理解が深まるような記事が掲載されるよう働きかけました。

※地区福祉委員会の広報紙発行状況は、図①の活動内容8を参照。

（2）	各種助成金の情報発信と支援	取組項目	④

・ 地区福祉委員会や関係団体などにおける民間財団からの助成金の活用について、ボランティアコーディネーターと連携しタイムリーな情報発信に努めるとともに、申請に係る支援を行います。

【実績と成果】

・ 地区福祉委員会に対し、民間財団からの助成金の募集について、タイムリーな情報発信に努めると共に申請に係る支援を行いました。

・ 平成31年度社協ひだまり基金・共同募金事業を実施し、新たな地域福祉事業を行う2団体に対して助成を内定しました。

＜公開プレゼンテーション、選考委員会の開催＞

開催日	内容	場所
平成31年 2月22日（金）	公開プレゼンテーション 申請団体 2団体によるプレゼンテーション	キセラ川西プラザ
	選考委員会(非公開) 選考委員7名による審議	

＜助成実績＞

No.	申請団体名	助成金申請の目的	助成金額
1	アロマプリズム	■アロマハンドマッサージを通した福祉を知るきっかけづくり 市内の高齢者施設の利用者や、子育て支援サークルの保護者などを対象としたアロマハンドマッサージを施術する活動を通して、ボランティアの育成と幅広い世代に対して福祉を知るきっかけをつくり、地域福祉活動者の裾野を広げる。	270,000　円
2	Medical＊ コンシェルジュ	■健康教育を通した人がつながる拠点づくり 医療、福祉などメンバーの多様な専門性を活かしたり外部の専門職とコラボし、多様な世代に対してセミナーや相談室を開催することにより、健康教育を切り口とした人が緩くつながる拠点をつくり、地域のヘルスリテラシーと地域福祉の向上を目指す。	270,000　円
合計			540,000　円

※ 平成31年度に実施する事業に対する助成

8	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3－1
（1）	地域福祉活動の推進を通したニーズ把握	取組項目	①

・ 地区相談窓口や心配ごと相談などの様々な相談窓口に加え、カフェやサロンなどの地域福祉活動及び福祉ネットワーク会議を通じて、地域のニーズや生活課題の把握に取り組みます。

【実績と成果】

・ 地区の様々な相談窓口や活動との連携や福祉ネットワーク会議への参加を通じて、地域のニーズや生活課題の把握に努めました。

＜心配ごと相談所実施の状況＞

・相談日　　毎週月曜日、木曜日（年末年始は、祝日は休み）　92回
　　午後1時30分～4時

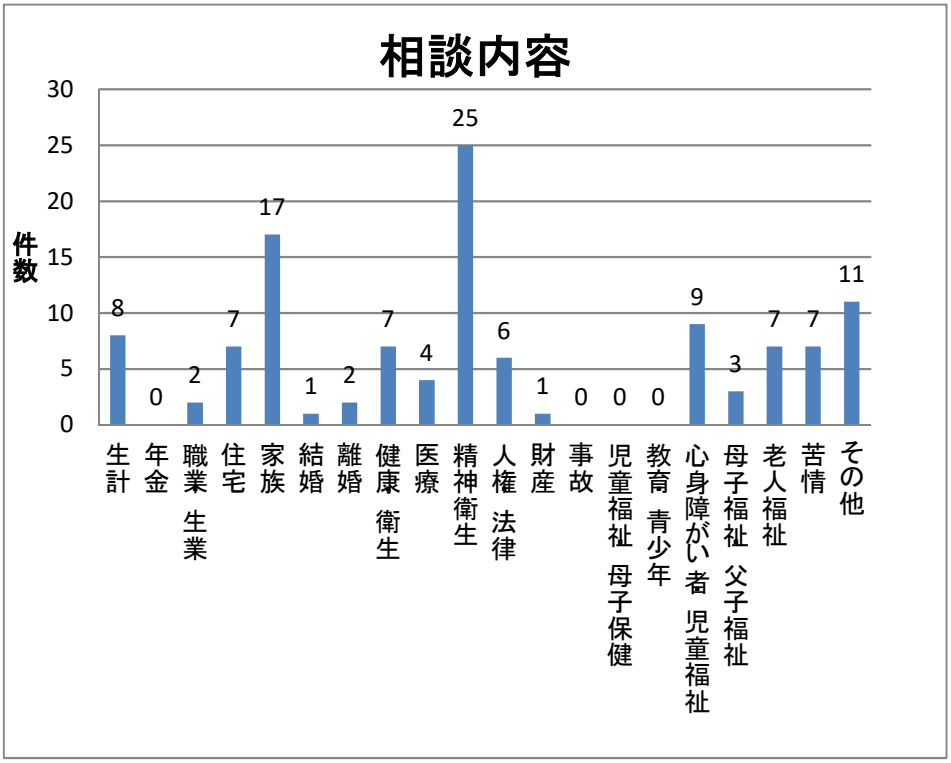
・相談場所　月曜日・・・川西市役所1階　福祉部相談室
　　木曜日・・・ふれあいプラザ3階相談室（9月20日まで）
　　キセラ川西プラザ福祉棟1階相談室（9月27日から）

・相談員　　15名（民生委員児童委員）

・相談件数　60件
　　来所・・・17件　　電話・・・43件
　　月曜日・・・22件　　木曜日・・・38件

・相談内容（1件の相談に複数の相談内容を含む）

（単位：件）



・連携、つなぎ先
　・市役所（生活相談課、生活支援課、人権推進課、介護保険課、医療助成・年金課）・・・12件
　・地域包括支援センター・・・2件
　・その他の機関（ハローワーク等）・・・6件

【実績と成果】

・ 専門的な相談や他機関を紹介する必要がある場合は市役所の法律相談や地域包括支援センター、社会福祉協議会総合相談窓口等と連携し、対応しました。
また、地域包括支援センターとケース会議等で情報を共有しました。

（2）	“我が事”と捉える意識と受援力の醸成	取組項目	②

・ 地区福祉委員会役員会への参画や相談窓口員研修の開催などの地域支援を通して、地域の課題を“我が事”と捉える意識の醸成や支援の手を求める受援力を高めていく土壌づくりを推進します。

【実績と成果】
・ 会議や事業等への参加　362 件
・ 相談窓口員研修会での講義　2 件

（3）	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③

・ 地域における様々な資源や関係機関とのネットワークをより強化し、切れ目のない包括的な支援体制づくりを進めます。

【実績と成果】
・ 福祉ネットワーク会議などを通して関係機関とのネットワーク強化を図り、切れ目のない包括的な支援体制づくりを進めました。

（4）	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④

・ 多様化・複雑化した課題に対し、関係機関や地域住民と連携しながら、個別のニーズを捉えて必要なコーディネートを行い、支援に取り組むための連携強化型相談窓口機能を整備します。

【実績と成果】
・ 個別ケースを通して、市社協内や市との連携のあり方を検討し、連携強化型相談窓口機能の整備をめざしました。

9	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
（1）	総合相談支援体制の強化	取組項目	①

・ 地区担当職員と権利擁護担当職員が中心となり、各担当部署と連携しながら、地域に出向き、様々な課題を把握し、受け止め、解決に向けた支援を行う、包括的な総合相談支援体制の強化を図ります。

【実績と成果】
・ 権利擁護担当職員と協働してケースにあたるなど、市社協内における包括的な総合相談支援体制の強化を図りました。

10	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3－3
（1）	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①

・ 見守り協力事業者ネットワークなどへの参画を通して、福祉分野以外の団体、NPO、企業などと協働・連携し、支援の輪が広がるよう取り組みます。

【実績と成果】
・ 見守り協力事業者ネットワーク連絡会（市事業）に参加し、ネットワークの強化に努めました。

（2）	自治会やコミュニティ組織への支援	取組項目	②

・ 川西市の各所管の地域担当との定期的な情報交換会への参画を通し、自治会やコミュニティ組織が抱える地域課題の把握や共有化、役割分担を図るなかで、解決に向けた支援を本会のネットワークを活かし取り組みます。

【実績と成果】
・ 川西市地域福祉課と参画協働課、介護保険課、市社協の4者で情報交換会を開催し、自治会やコミュニティ組織に関する情報共有に努めました。

（3）	包括的・総合相談支援体制における連携	取組項目	⑤

・ コミュニティソーシャルワーク機能を発揮するとともに、川西市と連携して、複合化した地域の生活課題への包括的な支援に取り組みます。

【実績と成果】

・ 民生委員や福祉委員などから受理した相談に対し、川西市と連携して包括的な支援に取り組みました。

その他	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②

・ 車いすを無料又は定額で貸し出すことで、在宅生活を支援しました。

【実績と成果】

・ 車いす保有、貸し出し台数

保有台数	42 台
貸出人数（延べ）	159 人
貸出台数（延べ）	184 台
貸出期間（延べ）	9，437 日

B2	地域福祉事業	決算科目	ボランティア活動センター事業

主な事業内容・成果

ボランティアグループの登録や助成金基準を見直し、キセラ川西プラザに活動拠点が移転した後も、ボランティア活動が推進されるよう取り組みました。

また、地区ボランティア部会の運営支援等を行うなかで、自立に向けた運営が行えるよう提案等を行いました。

人材確保と育成においては、出前講座の開催に取り組み、活動への意識も高めることに努め、こうした取り組みを通してボランティア間のつながりを醸成し、災害時の被災地支援を行いました。

今後の課題

地域での出前講座等の開催を通したきっかけづくりの場の提供や活動へのコーディネート機能を充実していくことで、地域福祉活動の担い手の確保・育成をさらに図る必要があります。

また、災害時の迅速な対応に向け、法人内の組織的な対応のマニュアル化を図る必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	27,824,635	29,716,405	1,891,770
経常経費補助金収入	12,298,000	14,158,000	1,860,000
寄付金収入	81,535	133,634	52,099
その他	15,445,100	15,424,771	△ 20,329
（支　　出）	27,684,566	29,473,333	1,788,767
人件費	10,190,910	11,746,117	1,555,207
事業費	2,171,233	2,435,568	264,335
事務費	176,544	116,514	△ 60,030
助成金支出	37,000	37,000	0
その他	15,108,879	15,138,134	29,255
予備費	0	0	0

当期資金収支差額	140,069	243,072	103,003
前期末資金収支残高	224,344	364,413	140,069
当期末支払資金残高	364,413	607,485	243,072

主な増減理由

① 人件費は、配置職員の変更等による増
② 事業費は、講座回数等の充実による増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

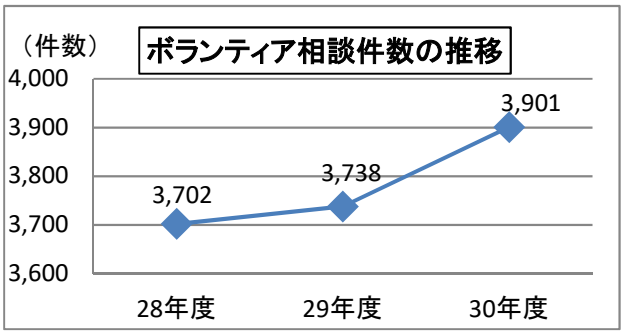
1	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1－2
（1）	ボランティア活動センターの機能強化	取組項目	①

・依頼者と活動者の双方が継続した関係を築けるように、ボランティア活動センターのコーディネート機能を強化します。また、複合的なニーズに対する課題解決もボランティア活動だけに留まらず、市や関係団体と連携して取り組みます。

【実績と成果】

・相談内容件数　（単位：件数）

活動希望	情報提供	ニーズ
78	89	437
共済	器材	悩み
508	72	13
連絡・報告	講座	提案
2,468	211	4
苦情	その他	合計
1	20	3,901



・ボランティア相談者別件数内訳　（単位：件数）

市民	施設・団体	行政	企業	合計
493	2,659	650	99	3,901

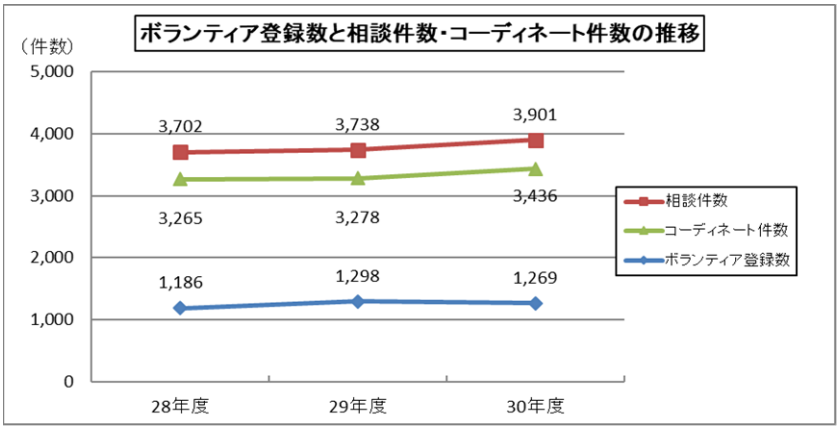
・ 種類別ボランティア活動状況　（単位：人）

車イス	手引き	要約筆記	保育	点訳	生活支援	体験学習	傾聴	音訳
11	5	30	87	75	166	39	364	160

施設	その他	合計	延べ活動人数
1,097	892	2,926	10,811

・ ボランティア活動センター登録状況（平成30年度末現在登録者）

種別	人数	内訳	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上
個人登録	242 名		1 名	146 名	95 名
グループ登録	1,027 名		26 名	416 名	585 名
合計	1,269 名		27 名	562 名	680 名

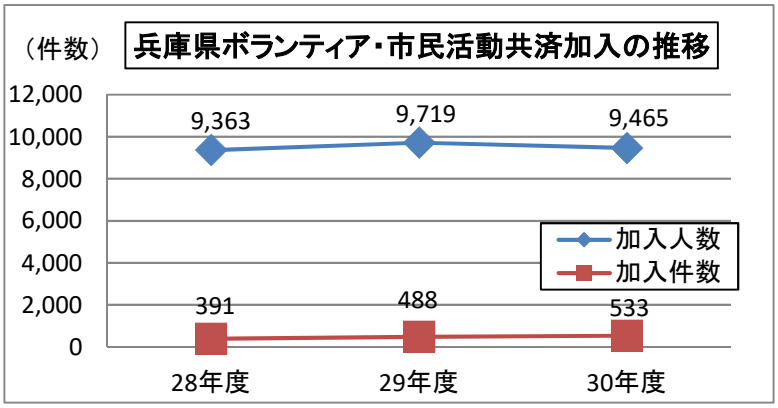


・ ボランティア活動センター運営委員会の開催

開催日	場所	内容
平成31年3月6日（水）	キセラ川西プラザ	平成30年度活動報告
		平成31年度事業計画（案）について
		キセラ川西プラザについて

・ ボランティア・市民活動災害共済（保険）の取り扱い

	市民活動		天災型		行事用保険		移送	
加入件数と人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
	374 件	4,893 名	4 件	5 名	150 件	4,555 名	5 件	12 名
事故件数	16 件		0 件		0 件		0 件	



・ 福祉器材の貸し出し状況

器材名	カニタイプ及び点字板	高齢者疑似体験セット	車イス	合計
回数	1	2	35	38

・ ボランティア活動拠点の活用
キセラ川西プラザへ移転後、月始めの平日２日間において、入居団体の共用会議室優先予約の事務取りまとめを実施し、ボランティア活動拠点として有効活用されるよう支援しました。

（2）	ボランティアグループなどへの支援	取組項目	②

・ 川西市ボランティア連絡協議会（以下、V連という。）代表者会議や、ボランティア活動相談などへの参画を通して情報共有を図るとともに活動支援に取り組みます。

【実績と成果】
・ V連会議・活動などへの参画

開催日	場所	内容
平成30年4月20日（金）	ふれあいプラザ	V連定期総会
平成30年4月20日（金）	ふれあいプラザほか	V連代表者会議
ほか9回		
平成30年11月16日（金）	キセラ川西プラザ	V連臨時総会
平成30年5月21日（月） ほか3回	市役所ほか	低炭素型複合施設に係る 説明・検討の場への参画
平成30年7月31日（火）	川西能勢口駅周辺	平成30年7月豪雨災害義援金街頭募金

（3）	地区ボランティア部会への支援	取組項目	③

・ 地区ボランティア部会の定例会などに参画するとともに、活動を身近に感じる講座や研修会を地域と協働で開催することで、担い手の掘り起こしを行います。

【実績と成果】
・ 地区ボランティア部会の定例会などへの参画を通して、活動におけるリスクマネジメントや財源への提案をするとともに、第2層協議体では、有償ボランティアのしくみづくりに関わり支援しました。

2	普段も災害時も助け合えるつながりづくり	活動項目	1－3
（1）	関係団体との定期的な協議・検討	取組項目	①

・ 川西市や川西青年会議所など関係団体と災害時における定期的な検討や協議を行い、情報共有体制の整備・充実や役割の明確化を図り、包括的な支援に取り組みます。
また、川西市地域防災計画における提言を定期的に行います。

【実績と成果】
・ 川西青年会議所（災害時相互協力協定締結団体）との定期連絡会

日時	平成30年5月18日（金）11時～12時
内容	災害ボランティアセンターマニュアル改訂への意見聴取 災害時における緊急連絡網について　等

・ 川西市防災会議においてボランティアの視点から地域防災計画への提案を行いました。

（2）	災害支援におけるネットワークづくり	取組項目	②

・ 地区福祉委員会をはじめ関係団体とのネットワークを深めていくなかで、災害時相互協力協定を締結するなど、支援の網の目を細かくし、迅速な支援活動につなげます。

【実績と成果】
・ 福祉ネットワーク会議等への参画を通して、災害時の対応における課題を把握するとともに、必要に応じ助言、提言を行いました。

（3）	防災意識向上のための学びの場の開催	取組項目	③

・ 本会広報紙などで、避難所運営ゲームHUGや救急救命などの災害時の対応に関する学びの場の開催を自治会や高校などに周知するとともに、川西市防災訓練への参加などを呼びかけ、防災意識が高まるよう取り組みます。

【実績と成果】

・ かわにし防災士会と連携し、災害ボランティア研修会（避難所運営ゲームHUGなど）を2回開催し、地域の防災意識が高まるよう取り組みました。

（4）	災害ボランティアセンターの設置と運営	取組項目	④

・ 災害ボランティアセンターマニュアル改訂を行うことで、状況に応じた被災世帯の支援を柔軟に行える体制を整備するとともに、法人内の災害時の組織的な対応のマニュアル化に取り組みます。

【実績と成果】

・ 災害時のボランティアによる支援体制を図るため、川西市ボランティア連絡協議会や地区福祉委員会等関係団体への意見収集に留まり、災害ボランティアセンターマニュアルの改訂には至りませんでした。

（5）	市内外の被災世帯への支援	取組項目	⑤

・ 市災害対策本部と連携し、救援物資の仕分け活動等や、本会の自主財源や民間財団の助成金を活用した被災世帯のニーズにあった支援を行います。

【実績と成果】

・ 災害ボランティアバスの運行

日時	平成30年7月31日（火）6時～17時
行先	岡山県倉敷市真備町
参加者	21名※スタッフ4名含む
活動内容	5名1組に分かれて被災者宅を訪問し、家財の運び出しと家の中の掃除
備考	第2回を9月5日（火）に実施予定でしたが、台風21号の影響で中止

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2－1
（1）	人材確保に向けた検討の場づくり	取組項目	①

・ 地区ボランティア部会連絡会などを活用し、人材確保に向けてボランティアコーディネーター、コミュニティワーカー、地区福祉委員会、川西市などが参画する検討の場を開催します。

【実績と成果】

・ 地域での人材確保に向け、随時コミュニティワーカーと連携し検討しました。
また、第2層協議体や定期的な川西市との検討の場を開催し、各地区における課題の情報共有を図りました。

（2）	ボランティア講座の開催	取組項目	②

・ 各種ボランティア講座の開催や体験教室を開催し、ボランティア・地域福祉活動の担い手づくりに取り組むとともに、関係団体と連携して活動できる場づくりを行います。また、受講生による新たなボランテイアグループの立ち上げを支援します。

【実績と成果】

・ ボランティア講座開催一覧

	講　座　名	開 催 期 間	回数	受講人数	延べ人数	共催団体・協働団体など
1	手話ボランティア入門講座（夜）	5/14～9/11	15	14	181	川西ろうあ協会・手話サークルクローバ
2	聞こえを学ぶ筆談ボランティア講座（夏季）	6/22～7/20	5	5	18	川西サマリー
3	災害ボランティア研修会（避難所ＨＵＧ）	7/24	1	5	5	かわにし防災士会

4	笑いからはじまるコミュニケーション講座	8/25	1	21	21	ほっとほほえみ
5	音訳ボランティア入門講座	10/2～12/4	10	6	58	神戸女子大学オープンカレッジ 講師　内海　道子
6	手づくり布遊具ボランティア入門講座	10/11、10/18	2	7	11	ボランティアいずみ
7	子育て支援者講座	10/17、10/24	2	25	49	地区担当・ファミサポとの協働
8	聞こえを学ぶ筆談ボランティア講座（秋季）	10/26～11/30	5	6	15	川西サマリー
9	傾聴ボランティア入門講座	11/21、11/28	2	37	67	心理スペース「ぽれぽれ」 いなまつ　ゆか
10	災害ボランティア研修会（避難所ＨＵＧ）	12/11	1	10	10	かわにし防災士会
11	地域ボランティア養成講座	2/27	1	31	31	夢こらぼ　松尾　やよい
12	ボランティア1日体験教室（筆談）	5/19	1	5	5	川西サマリー
13	ボランティア1日体験教室（ネイル）	6/16	1	7	7	個人ボランティア　藤川恵子
14	ボランティア１日体験教室（手話）	9/15	1	4	4	手話サークル　パピヨン
15	ボランティア１日体験教室（車イス）	10/20	1	4	4	車イス介助を学ぶ会
16	出前ボランティア講座（ネイル）	4/26	1	20	20	個人ボランティア　藤川恵子
17	出前ボランティア講座（救急救命）	7/3	1	5	5	かわにし防災士会
18	出前ボランティア講座（救急救命）	7/16	1	6	6	かわにし防災士会
19	出前ボランティア講座（救急救命）	8/6	1	6	6	かわにし防災士会
20	出前ボランティア講座（ネイル）	7/9	1	25	25	個人ボランティア　藤川恵子
21	出前ボランティア講座（ボランティア活動について）	7/18	1	12	12	ボランティア活動センター
22	出前ボランティア講座（手話）	8/1	1	14	14	川西ろうあ協会・手話サークルクローバ
23	出前ボランティア講座（ハンドマッサージ）	8/9	1	15	15	Aroma　prism
24	出前ボランティア講座（視覚障がい）	9/11	1	20	20	山田　敏雄
25	出前ボランティア講座（ハンドマッサージ）	10/31	1	11	11	Aroma　prism
26	出前ボランティア講座（車イス）	11/4	1	15	15	車イス介助を学ぶ会
27	出前ボランティア講座（救急救命）	12/26	1	10	10	かわにし防災士会
28	出前ボランティア講座（知的障がい者）	1/22	1	70	70	川西市手をつなぐ育成会
29	出前ボランティア講座（手話）	1/30	1	22	22	川西ろうあ協会・手話サークルクローバ
30	出前ボランティア講座（点字）	2/5	1	20	20	点字グループりんどう
31	出前ボランティア講座（救急救命）	2/8	1	8	8	かわにし防災士会
32	出前ボランティア講座（車イス）	2/10	1	20	20	車イス介助を学ぶ会
33	出前ボランティア講座（車イス）	2/21	1	15	15	車イス介助を学ぶ会
34	明峰の学び(防災・減災)	11/2～11/30	4	33	132	かわにし防災士会 ボランティア活動センター
35	明峰の学び(車イス)		4	9	36	車イス介助を学ぶ会
36	明峰の学び(手話)		4	21	84	川西ろうあ協会・手話サークルクローバ
37	明峰の学び(点字)		4	10	40	点字グループりんどう
38	ボランティア活動について(レフネック課外授業)	11/14	1	17	17	ボランティア活動センター
39	ボランティア活動について(高齢者大学「りんどう学園」)	1/22	1	300	300	ボランティア活動センター・ ファミリサポートセンター
合　計			85	891	1,409	

(3)	幅広い世代が活動できる場づくり	取組項目	③

・ 幅広い世代が参加しやすい地域のサロンやイベントを、地区福祉委員会やボランティア活動センター登録グループなどとともに検討、企画します。

【実績と成果】

・ 川西市生涯学習短期大学の課外授業などの講師として、ボランティア活動の楽しさ、やりがいなどを講師として担い、地域のサロンやイベントにおいて、幅広い世代が活動に関心を持っていただけるような企画提案を地区福祉委員会役員会やV連代表者会議などで行いました。

（4）	理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目	⑤

・ 本会事業や地域福祉活動の理解がより深まるように研修内容の充実を図ります。地区福祉委員研修については、福祉委員が講師を担うなど、住民同士が共に高め合う研修を企画します。

【実績と成果】

・ 地域の福祉委員や当事者などが、講師を担う福祉委員研修の企画を提案するなど研修内容の充実に向け取り組みました。
研修テーマ:「親が認知症になる前に～子から親へのアドバイス」「大切な誰かを元気に！伝えよう、手と手のぬくもり～癒しのハンドマッサージ」「癌とともに生きる」 等

4	福祉情報の受発信	活動項目	2－2
（1）	地区福祉委員会などと連動した福祉情報の発信	取組項目	④

・ V連と共催で発行しているボランティア情報「にじ」について、ボランティアによる編集という強みを活かし、活動紹介やきっかけづくりとなるような情報を掲載し、人材確保につながる情報発信に取り組みます。

【実績と成果】

・ ボランティア情報にじの発行（V連との共催）

発行回数	年6回（奇数月1日発行）
編集回数	30回
発行部数	1号あたり3，200部（A4版フルカラー4ページ）
配布先	ボランティアグループ、個人ボランティア、市社協、市役所、 公民館など関係機関窓口、小・中・高校、共同募金協力法人 （事業所・商店など）、アステ川西、各スーパー

・ 市社協ホームページや登録ボランティアグループ一覧表の発行による情報発信に随時取り組みました。

5	福祉教育の推進並びに学習機会の提供	活動項目	2－3
（1）	福祉教育の充実	取組項目	①

・ 体験学習を通じて、誰もが地域福祉や高齢者・障がい者などへの理解が深まるよう、新たなメニューの開発など、内容の充実に取り組みます。

【実績と成果】

・ 小学校・中学校の福祉学習への支援

種別	内容	学校数	参加者	種別	内容	学校数	参加者
小学校	車イス	14	1,234	中学校	車イス	3	475
	手話	6	527		手話	3	554
	点字	0	0		点字	1	206
合計		20	1,761	合計		7	1,235

・ 地域に学ぶトライやる・ウィーク体験活動への協力

学校名	人数	期間	内容
明峰中学校 多田中学校	6名	6/4（月）～6/8（金）	・福祉体験学習（手話、点字、車イス介助） ・ボランティア情報にじ編集委員会への参加 ・まちの子育てひろばのお手伝い ・市社協事業の手伝い

・ 高校の福祉学習への支援
県立明峰高校の総合学習の一環として、「防災・減災」「車イス介助」「手話」「点字」をテーマに登録ボランティアグループや職員が参画し、4週にわたり合計16回の授業を行いました。

(2)	若い世代への機会の提供と継続的な支援	取組項目	②

・ 学生が参加しやすい夏休み・春休みにテーマを設定してオープンカフェッジを開催することで、参加者を増やし、ボランティア活動をはじめるきっかけづくりの場となるよう取り組みます。

【実績と成果】
・ 毎月第2金曜日の午後6時～8時に、10代後半から20代後半の若い方を対象としたオープンカフェッジの開催に取り組みました。年間の参加者が15名と少なく、固定化されていることから、広報の方法やテーマを設定した開催への工夫など、課題が残りました。

(3)	地区福祉委員会と連携した研修会などの開催	取組項目	③

・ 地域福祉活動が、より小地域でも広がりを見せるよう、コミュニティワーカーと連携して、研修会などを開催します。

【実績と成果】
・ 地域からのニーズに基づき、傾聴ボランティア入門講座や地域ボランティア育成講座などを開催し、地域福祉活動が広がりを見せるよう取り組みました。

講座名	開催期間	受講 延べ人数	内容
傾聴ボランティア入門講座	11/21・11/28	67名	「聴く」ことの学びと地域活動
地域ボランティア養成講座	2/27	30名	上手なグループ運営のコツ

6	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2－4
(1)	各種助成金の情報発信と支援	取組項目	④

・ 地区福祉委員会や関係団体などにおける民間財団からの助成金の活用について、コミュニティワーカーと連携しタイムリーな情報発信に努めるとともに、申請に係る支援を行います。

【実績と成果】
・ 登録ボランティアグループ活動助成

助成先	助成金額	助成金単価
川西市ボランティア連絡協議会	360，000円	360，000円
V連加入ボランティアグループ（8グループ）	440，000円	55，000円
サポーター登録ボランティアグループ（25グループ）	625，000円	25，000円
一般登録ボランティアグループ（6グループ）	90，000円	15，000円
合計助成金額	1，515，000円	

・ 登録ボランティアグループ中級研修会（フォローアップ）助成

助成先	助成金金額
音訳、手話、要約筆記、点訳の4グループ（各50，000円）	200，000円

・ ひょうごボランタリー基金県民ボランタリー助成金（※1グループにつき25，000円）

平成30年度		平成29年度（参考）	
助成グループ数	助成金総額	助成グループ数	助成金総額
82グループ	2，050，000円	76グループ	1，900，000円

・ 市社協ホームページなどの媒体を活用するとともに、コミュニティワーカーと連携し、地区福祉委員会役員会等において助成金情報の発信に取り組みました。
また、申請団体へは、申請書類に係る見せ方や書き方等の支援も合わせて行いました。

7	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3－1
（1）	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④

・ 多様化・複雑化した課題に対し、地区ボランティア部会やボランティア活動相談などにおいて、当事者や地域のニーズを捉えて必要なコーディネートを行い、地域における関係機関や窓口と連携しながら支援に取り組むための連携強化型相談窓口機能を整備します。

【実績と成果】

・ 市社協内で連携し個別支援に係る検討を行うとともに、課題解決に向けたコーディネートを川西市や民生委員・児童委員など関係機関と行い、連携強化型相談窓口機能の整備に向け取り組みました。

・ ボランティア活動相談の開催
（毎月第3土曜日　13時30分～　ふれあいプラザ及びキセラ川西プラザ福祉棟にて開催）

延べ相談員数	活動相談者数	主な相談内容
24名	6名	・特技を生かした活動相談、ボランティア保険の加入など

B3	地域福祉事業	決算科目	日常生活自立支援事業

主な事業内容・成果

判断能力に不安のある、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者が、住みなれた地域で安心して暮らすために、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行いました。新たな生活課題の発見や、各関係機関と連携し問題解決に取り組みました。解約11件のうち6件は成年後見支援センターと協働し、成年後見制度の利用へつなぎました。また、生活支援員の連絡会や研修会を定期的に実施し、相談援助技術の向上を図りました。

今後の課題

来年度は県社協の実施体制が見直され、あわせて業務受託費の算出方法も見直されます。それに伴いさらに業務受託費が削減される見込みです。限られた予算のなかで、できるだけ多くの方に支援が行えるよう、関係機関と連携を図り、包括的に支援していく取り組みがますます必要となります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	3,448,808	3,319,400	△ 129,408
受託金収入	3,011,750	2,945,000	△ 66,750
その他	437,058	374,400	△ 62,658
（支　　出）	3,521,972	3,241,086	△ 280,886
人件費	2,808,166	2,380,693	△ 427,473
事業費	617,920	744,910	126,990
事務費	78,686	103,483	24,797
その他	17,200	12,000	△ 5,200
予備費	0	0	0

当期資金収支差額	△ 73,164	78,314	151,478
前期末資金収支残高	140,830	67,666	△ 73,164
当期末支払資金残高	67,666	145,980	78,314

主な増減理由
①受託金収入は業務受託費削減による減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3－1
（1）	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④

・ 多様化・複雑化した生活課題に対して包括的な支援に取り組むため、地域包括支援センターや地域における関係機関・窓口等と連携しながら支援に取り組むための連携強化型相談窓口機能を整備しました。

【実績と成果】

・ 川西市や関係機関との連携、障がい児(者)地域生活・就業支援センターや地区担当職員と協働して支援に取り組み、連携強化型相談窓口機能の強化に努めました。

相談対応件数　（単位：件）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約前	6	11	16	7	11	10	28	13	21	13	16	20	172
契約後	85	57	46	68	35	31	23	42	52	96	56	30	621
件数合計	91	68	62	75	46	41	51	55	73	109	72	50	793

（単位：件）

相談内容＼相談の対象	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
福祉サービスの手続き等	608	69	91	18	786
成年後見制度に関して	3	1	0	0	4
その他	0	1	2	0	3
相談内容実数の合計	611	71	93	18	793

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
（1）	職員の資質向上	取組項目	②

・ 県社協で開催される権利擁護に関する研修会へ参加します。
・ 生活支援員研修会を年1回開催します。
・ 生活支援員連絡会を年に数回開催、事例報告や検討会などを実施し、支援の質の向上を図ります。

【実績と成果】

・ 県社協で開催された研修・会議に参加し、個別支援における技術向上に努めました。

開催日	県社協研修・会議等	参加
平成30年4月24日	新任専門員研修会	1人
平成30年7月24日	専門員・担当者研修会	2人
平成30年10月10日	生活支援員研修会	4人
平成31年3月12日	専門員等会議	2人

・ 猪名川町社協も含めた生活支援員連絡会を開催し、勉強会や県社協研修の報告会、各自の支援課題の相談・検討を行い、個別支援における技術向上に努めました。

開催日	川西市社協連絡会・研修会等	講師など	参加
平成30年5月10日	生活支援員担当者連絡会 勉強会「日常生活自立支援事業ってなに？」 他	社協職員	11人
平成30年8月27日	生活支援員担当者連絡会 活動記録簿の記録方法の見直しについて 他	社協職員	9人
平成30年10月2日	権利擁護講演会「成年後見制度ってなに？市民後見人ってなに？」だれもが自分らしく暮らすために私たちができること	大阪市立大学大学院 生活科学研究科 鵜浦直子講師	10人
平成30年11月6日	研修会「相談支援における専門性の理解 ―面接時のコミュニケーションから考える―」	京都府立大学公共政策学部福祉社会学科 中村佐織教授	9人

（2）	権利擁護の推進	取組項目	③

・ 利用者の変化に応じ支援計画の見直しを行い、川西市や地域包括支援センター、介護事業所、民生委員・児童委員などの関係機関と連携して支援を行います。
・ 利用者の持つ能力を尊重しながら支援します。
・ 地域住民や民生委員・児童委員、福祉委員、関係機関などへの広報、周知に取り組みます。
・ 判断能力がより低下した利用者の方へ成年後見制度利用へつなぐ支援を行います。

【実績と成果】

・ 年度末利用者数 20件 （内訳：認知症高齢者 14件 知的障がい者 5件 精神障がい者 1件）
新規契約 4件 （内訳：川西市 4件 猪名川町 0件）
解約 11件 （内訳：成年後見制度の利用 6件 入院・入所 3件 その他 2件）
生活支援員訪問回数 550回（前年度は488回） 総活動時間数868時間
・ 地域包括支援センターや地域における関係機関とケース検討会・担当者連絡会議を6回開催し、連携を図りながら支援を行いました。
・ 利用者の意思を尊重しながら、変化に応じて支援の見直しを行いました。

- 民生委員・児童委員等との連携により、利用者の孤立を防ぎ、安心して暮らせるよう支援しました。
- 社協広報紙へ1回掲載し事業紹介を行いました。
- 成年後見支援センター“かけはし”との協働により出前講座において、計3回延べ70人の市民の方に事業の周知を図りました。
- 平成30年9月19日兵庫県弁護士会本館において、寄り添い弁護士制度研修会に講師として2名参加し、被収容者の出所後の在宅支援に向けた関係機関との連携等の事例報告を行いました。

B4	地域福祉事業	決算科目	成年後見支援センター事業

主な事業内容・成果

成年後見制度の必要な方に対して、家族や支援者と連携し、相談や申立て支援を行いました。申立てが困難な方に対しては、関係機関や市と連携し市長申立て手続き支援を行いました。

市民後見人養成及びフォローアップ研修を実施し、川西市で2人目となる市民後見人を受任しました。また、人材バンク登録された方による成年後見相談会や出前講座（寸劇）、日常生活自立支援事業の生活支援員としての活動を支援しました。さらに、制度の利用促進を図るため、講演会や出前講座を実施しました。

今後の課題

①権利擁護ニーズのある方が地域で安心して暮らせるよう、制度の利用を含めた包括的な総合相談支援体制の充実が必要です。

②成年後見制度の利用や市民後見人の普及・活用がまだ十分でなく、さらなる制度の周知や市民後見人の養成と活動支援が必要です。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	20,227,181	21,046,371	819,190
経常経費補助金収入	143,000	187,976	44,976
受託金収入	20,084,181	20,858,395	774,214
（支　　出）	20,227,181	21,046,371	819,190
人件費	17,544,698	18,117,506	572,808
事業費	802,573	882,854	80,281
事務費	1,879,910	2,046,011	166,101

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高			0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由

① 人件費は職員給与等の増
② 事務費は印刷製本費でパンフレットの印刷を行ったため増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2－1
（1）	市民後見人の養成と活動支援	取組項目	④

・ 成年後見制度の多様なニーズに対応するため、地域の権利擁護の担い手となる市民後見人を養成するための「市民後見人養成研修」を実施し、人材育成に取り組みます。
・ 市民後見人活動等登録者に対し、フォローアップ研修や交流会を開催するとともに成年後見相談員や出前講座などのセンター事業の補助など、活動の場の提供も行います。
・ 市民後見人の受任を進めるとともに、監督人としての適切なサポートと適正な業務を行います。

【実績と成果】
・ 市民後見人養成研修を実施、6名の方が受講され、新たに5名が人材バンク登録を行い、成年後見相談員として活動しました。一方で、市民後見人の候補者登録には至らず、今後はさらに多くの方に参加してもらえるような研修の開催をめざします。

○市民後見人養成研修

【基礎研修】

	内　容	講　師	参加人数	場　所
① 6/26 （火）	開校式・オリエンテーション	川西市社協職員	6人 （過去受講者 5人）	ふれあいプラザ 2階 歯っぴいルーム
	社会福祉の動向と権利擁護			
	成年後見制度の解説	NPO法人「成年後見センター・川西」		
② 7/10 （火）	成年後見人の役割と業務	司法書士	6人 （過去受講者 9人）	ふれあいプラザ 4階 ふれあいルーム
	関係法律の基礎①	弁護士		

③ 7/31 (火)	関係法律の基礎②	川西市職員	5人 (過去受講者 5人)	ふれあいプラザ 2階 歯っぴいルーム
④ 8/28 (火)	対象者の理解 (認知症・知的・精神)	市職員 川西市社協職員	6人 (過去受講者 4人)	ふれあいプラザ 2階 歯っぴいルーム

【実務研修】

	内　容	講　師	参加人数	場　所
① 9/11 (火)	オリエンテーション	川西市社協職員	6人 (過去受講者 3人)	ふれあいプラザ 4階 ふれあいルーム
	健康保険と公的年金制度	川西市職員		
② 10/9 (火)	対人援助技術	専門職	6人 (過去受講者 5人)	総合体育館2階 研修室
③ 10/23 (火)	成年後見人の職務(身上監護)	社会福祉士	6人 (過去受講者 7人)	ｷｾﾗ川西ﾌﾟﾗｻﾞ 福祉棟2階 共用会議室
	成年後見制度の実務①	司法書士		
④ 11/13 (火)	成年後見制度の実務②	司法書士	6人 (過去受講者 8人)	総合体育館2階 研修室
	成年後見制度の実務③	司法書士		
⑤ 11/27 (火)	市民後見人の実際	市民後見人 市民後見人養成研修修了者	6人 (過去受講者 6人)	ｷｾﾗ川西ﾌﾟﾗｻﾞ 福祉棟2階 共用会議室
	交流会			
	オリエンテーション	川西市社協職員		

【見学実習】

日常生活自立支援事業同行訪問(利用者宅)
高齢者施設見学訪問(養護老人ホーム満寿荘)
知的障がい者施設見学訪問(小戸作業所)

各2時間程度　合計6時間

【市民後見人養成研修修了者人材バンク登録】

登録実人数　29人(平成31年　3月31日現在)

内　容	登録者数
市民後見人候補者登録者数	7　人
相談員登録者数	16　人
日常生活自立支援事業生活支援員登録者数	4　人
事業の手伝い等の登録者数	21　人
合　計	48　人

・ 市民後見人活動等登録者に対し、フォローアップ研修を開催しました。また、成年後見相談員や生活支援員、出前講座にて成年後見の寸劇を行うなどの活動支援を行いました。

○フォローアップ研修

実施日	内　容	講　師	参加者	場　所
7/26 (木)	成年後見相談会相談員 相談面接技術	兵庫県社会福祉士会 ぱあとなあ兵庫	13人	ふれあいプラザ 4階 ふれあいルーム

2/22 (金)	「信託を学ぼう！」	司法書士	28人	ｷｾﾗ川西ﾌﾟﾗｻﾞ 福祉棟2階 共用会議室

・ 新たに市民後見人の受任を進め、合わせて2名の監督人として、適切なサポートと監督を行いました。
市民後見人との定期的な面談や、地域ケア会議への参加など、きめ細やかな対応に努めました。

2	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3－1
(1)	地域福祉活動の推進を通したニーズ把握	取組項目	①

・ 法律職による市民向けの相談会を実施することで、成年後見制度の理解が深まるよう支援します。
・ 市民後見人養成研修修了者と専門職である社会福祉士による成年後見相談会を市内老人福祉センター及び地域の会館で実施し、地域の身近な相談窓口としてニーズ把握に努めます。

【実績と成果】

・ 担当職員により、電話や来所、必要な場合は訪問し、制度の説明や申立て手続きなどの相談に対応し、関係機関と連携して支援を行うことで制度利用につなげました。
今後は、さらに地域活動者や見守りにつなぐなどの地域福祉との連携が必要です。

○相談件数 (単位:件)

法定後見の相談・支援	289
任意後見の相談	12
研修・講座等について	64
その他	49
合　　計	414

○相談経路 (単位:件)

本　人	73
親　族	81
関係機関	245
その他・不明	15
合　　計	414

※その他・・・定期相談申込みなど

・ 毎月第3水曜日に司法書士2名による定期相談会を開催しました。センター職員も同席し、福祉的ニーズへのフォローを行いました。
・ 市民後見人養成研修修了者が相談員として、社会福祉士の方と共に、成年後見相談会を実施。
新たに相談会場を増やすなど、地域の身近な相談窓口として相談に応じました。

○成年後見相談会

一の鳥居老人福祉センター	毎月	第3月曜	午後1時～3時
久代老人福祉センター	偶数月	第2水曜	午後1時～3時
久代会館(新会場)	奇数月	第2水曜	午後1時～3時

(2)	”我が事”と捉える意識と受援力の醸成	取組項目	②

・ 権利擁護講演会等の開催による成年後見制度や市民後見人の周知・啓発を行います。
また、NPO法人「成年後見センター・川西」との協働による出前講座を実施し、市民の方へ成年後見制度の理解を促し利用の促進を図ります。

【実績と成果】

・ 権利擁護講演会を開催し、一般市民の方が権利擁護の理解を深め、成年後見制度及び市民後見人の活動に関心を持っていただく機会を持つことができました。
また、NPO法人「成年後見センター・川西」との協働による出前講座を実施し、内容をより分かりやすくするなどの工夫を行い、制度の周知を図ることができました。(8回実施　延べ184人)

○権利擁護講演会

開催日時	内容	場所	参加者
平成30年10月2日(火) 午後1時半～3時半	テーマ:「成年後見制度ってなに？市民後見人ってなに？」 ～誰もが自分らしく暮らすために私たちができること～ 講　師:大阪市立大学大学院生活科学研究科 講師　鵜浦　直子　さん	アステホール	74人

（3）	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③

・ 成年後見制度の利用促進のため関係機関とのネットワークの構築を図り、成年後見制度が必要な方が地域で安心して生活できるような支援体制を強化します。

【実績と成果】

・ 日常生活自立支援事業と一体的に地域の相談機関と連携し、ネットワーク構築を図りながら、権利擁護支援が必要な方が切れ目のない支援を受けて安心して暮らせるように取り組みました。
・ 生活困窮や障がい、介護などの複合化した課題に対し、市や法律職、地域包括支援センターなどの関係機関と連携し、包括的な支援体制づくりを進めました。

（4）	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④

・ 多様化・複雑化した課題に対して包括的な支援に取り組むため、地域包括支援センターや地域における関係機関・窓口などと連携しながら支援に取り組むための連携強化型相談窓口機能を整備します。

【実績と成果】

・ 生活困窮世帯やひきこもりなど社会的孤立の状態にある方やさまざまな生活課題を抱えた方に対して、地域包括支援センターや関係機関と連携しながら対応することで、連携強化型窓口機能の整備に努めました。

3	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
（1）	権利擁護の推進	取組項目	③

・ 年2回運営委員会を開催し、委員からの意見や助言をもとにセンター事業の充実を図ります。
・ 法律職等のバックアップによる市民後見人活動支援体制の強化を図ります。
・ 市長申し立てになったケースに対し、市担当課と連携しながら手続きに関する支援を行います。
・ ホームページや広報紙によるセンター事業の広報を行います。

【実績と成果】

・ 運営委員会を年2回開催し、委員会からの意見や助言を受け、センター事業の充実を図りました。

○運営委員会

	実施日	内容	参加者	場　所
第1回	平成30年11月16日（金）	・事業実施状況 ・市民後見人受任について	13人	ｷｾﾗ川西ﾌﾟﾗｻﾞ 福祉棟2階 共用会議室
第2回	平成31年3月14日（木）	・事業実施状況 ・中核機関設置について	14人	ｷｾﾗ川西ﾌﾟﾗｻﾞ 福祉棟2階 共用会議室

・ 必要に応じて法律職等に相談するなどバックアップ体制を強化し市民後見人活動支援を行いました。
・ 身寄りのない高齢者等で市長申立てが必要な方に対し、市担当課と連携しながら手続きに関する支援を行いました。
・ ホームページや広報紙において、制度の周知や養成研修、成年後見相談会などのセンター事業の広報を行いました。

B5	地域福祉事業	決算科目	民生委員児童委員 協議会連合会事業

主な事業内容・成果

事務局として、民生委員児童委員協議会定例会への出席を通して地域課題の共有や民生委員児童委員の活動の確認を行うとともに、民生委員活動に有益な研修会などを調整し開催しました。

また平成31年度に行う地域児童育成環境づくりフォーラムに向けて実行委員会を開催しました。

今後の課題

民生委員・児童委員が抱える課題に対し、本会の連携強化型相談窓口機能や他機関などとさらなる連携を図っていく必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	2,878,276	2,981,958	103,682
経営経費補助金収入			0
受託金収入	2,878,276	2,981,958	103,682
（支　　出）	2,878,276	2,981,958	103,682
人件費	2,389,498	2,459,627	70,129
事業費			0
事務費	488,778	522,331	33,553

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高			0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由

① 受託金収入は人件費等の増額による増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3－1
（1）	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③

・ 本会が整備を進める相談窓口機能を活かして、民生委員・児童委員と連携を深め、地域課題や個別事例に対応できる支援体制を強化します。

・ 民生委員・児童委員が、地域で連携した見守り活動を行うために活動しやすい環境づくりを検討します。

【実績と成果】

・ 民生委員児童委員が業務を円滑に行えるよう、正副会長会議、役員会、各定例会の出席及び研修会の企画実施などを行い、地域課題の情報共有を行いました。又、個別支援体制を強化するために地域包括支援センター等の関係機関と連携を深めました。

正副会長会議・・・年11回　役員会・・・年11回
主任児童委員部会・・・6回　各地区定例会・・・51回（5民児協）
専門部会研修・・・4部会×1回＝4回　新年合同会議・・・1回

・ 民生委員が相談員になっている心配ごと相談においては、様々な相談を受け付け、傾聴に努めました。又、専門的な相談や他機関を紹介する必要がある場合は市役所の法律相談窓口や地域包括支援センター、社会福祉協議会総合相談窓口等に繋げました。

心配ごと相談日数・・・92日
相談件数・・・・・・・・・・60件

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④

・ 社会的孤立や生活困窮に関する研修会や情報提供などを行うことで、民生委員・児童委員の役割を確認し、社会的に孤立している人々への支援を推進します。

【実績と成果】

・ 定例会で社会的孤立や生活困窮に関する課題を情報共有し、ニーズの把握に努めました。又、各部会研修を開催し、社会的孤立などの課題への理解を深めました。

開催日時	内容	場所	参加者
平成30年6月28日 高年保健福祉部会 研修会 13時30分～15時30分	テーマ:「施設入所の際の選択肢や必要なお金のおはなし」 講　師:川西市　福祉部　介護保険課 主査　勢田　慎一　さん	中央公民館 大集会室	127人
平成30年7月3日 児童等福祉部会 研修会 13時30分～15時30分	テーマ:「未来を担う子どもたち」 ～発達障害って何～ 講　師:心理カウンセラー　くすのき　ゆり　さん	中央公民館 大集会室	139人
平成30年7月23日 人権啓発部会 研修会 13時30分～15時30分	テーマ:「川西市の特別支援教育について」 講　師:川西市教育委員会教育支援センター 主査　三石　基文　さん	中央公民館 大集会室	129人
平成30年7月31日 障害援護福祉部会 研修会 13時30分～15時30分	テーマ:「外見からは分かりにくい障がいをお持ちの方へのかかわり方」 講　師:川西市　福祉部　障害福祉課 課長補佐　斎藤　絹子　さん	中央公民館 大集会室	138人

B6	地域福祉事業	決算科目	共同募金配分金事業

主な事業内容・成果

前年度に実施された赤い羽根共同募金運動の配分金6,953,000円を活用し、ボランティア活動の振興や当事者団体、子育て支援グループへの助成等、地域福祉事業の推進に努めました。歳末たすけあい配分金事業は、持ち寄り金6,179,139円と前年度繰越金を原資に、要援護世帯や、福祉施設、団体等幅広く配分し、支援を行いました。

今後の課題

① 地域住民へのわかりやすい広報・啓発活動の充実を図ることが必要です。

② 配分先に対する共同募金運動への参画促進が必要です。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	15,946,505	16,909,592	963,087
経常経費補助金収入	15,946,505	16,909,592	963,087
（支　　出）	15,946,505	16,909,592	963,087
事業費	9,576,259	10,212,432	636,173
事務費	10,246	19,160	8,914
助成金支出	6,360,000	6,678,000	318,000
当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高			0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由

①事業費は、配分金事業の見直しによる増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	福祉デザインひろばづくりの推進	活動項目	1－1
（1）	小学校区単位でのネットワークづくり～つながりあい～	取組項目	④

・ 歳末たすけあい募金配分金を活用し、地域住民や関係機関・団体、事業所等が連携を深め、福祉のまちづくりが推進されるよう支援します。

【実績と成果】

・ 14地区福祉委員会へ助成を行い、地域の特性に合わせた住民交流等、福祉のまちづくりの推進に役立てられました。

（2）	子育て支援の推進	取組項目	⑤

・ 共同募金配分金と歳末たすけあい募金配分金を活用し、まちの子育てひろばや子育てサークルの運営及び事業推進を支援します。

【実績と成果】

・ 市内の37のまちの子育てひろば・サークルへ助成を行い、クリスマス会やお別れ会等の活動に役立てられました。

2	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1－2
(1)	ボランティア活動センターの機能強化	取組項目	①

・ 共同募金配分金を活用し、ボランティア活動センターのコーディネート機能がさらに強化するよう支援します。

【実績と成果】

・ 毎月第3土曜日にボランティア活動の相談日を設け、学生や勤労者が、自分らしいボランティア活動に参加できるようコーディネート機能を発揮しました。

(2)	ボランティアグループなどへの支援	取組項目	②

・ ボランティア活動センター登録グループやボランティア連絡協議会の活動がさらに広がりを見せるよう、共同募金配分金を活用し支援します。

【実績と成果】

・ ボランティア活動のすそ野が広がるよう助成金を配分した39グループでは、研修会費用など各グループの特性に合わせた取り組みに役立てられました。
また、登録ボランティアグループなどの登録や配分金の基準を見直しました。

(3)	当事者活動への支援	取組項目	④

・ 高齢者や障がい児者、児童・青少年、母子等の当事者組織の主体的な組織運営や事業推進を、共同募金や歳末たすけあい募金の配分金を活用し支援します。

【実績と成果】

・ 共同募金配分金事業では、高齢者、障がい児者福祉、児童・青少年、母子・父子福祉事業において、団体の相互交流だけでなく、地域住民とのつながりを深める貴重な財源として役立てられました。歳末たすけあい配分金事業では、市内の要援護世帯、寝たきり高齢者世帯へ給付金をお渡ししました。また障がい者施設や民間福祉団体、子育て支援に配分し、様々な福祉事業に役立てられました。

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2－1
(1)	ボランティア講座の開催	取組項目	②

・ 共同募金配分金を活用し、各種ボランティア講座を開催し、地域福祉活動の担い手作りに取り組みます。

【実績と成果】

・ 要約筆記、手話、音訳、子育て支援講座などの講座を開催するともに、地域福祉活動の担い手となるようフォローアップ研修を開催しました。

4	福祉情報の受発信	活動項目	2－2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③

・ 本会やボランティア活動をより多くの方に知ってもらい、理解者や協力者、参加者が増えるように、共同募金配分金を活用し、社協かわにしやボランティア情報にじ、啓発チラシ等を発行します。

【実績と成果】

・ 新たな福祉人材の確保と育成のため、「ボランティア情報にじ」の発行や、本会の活動等をより多くの方に知ってもらえるよう、「社協かわにし」の発行に共同募金配分金を活用しました。

5	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2－4
(1)	地域関係団体などと連携・協働した広報活動	取組項目	③

・ 共同募金や歳末たすけあい運動の配分金を受けている組織、団体に、地域住民に共同募金運動の理解が深まるような記事の広報への掲載を依頼し、広報に努めます。

【実績と成果】

・ 「社協かわにし」に、地域住民に、どのように配分金が使われているかわかるよう、配分先の組織や団体の「ありがとうメッセージ」を掲載し、広報の充実を図りました。

B7	地域福祉事業	決算科目	基金事業

主な事業内容・成果

基金の利息をもって、ボランティア活動センター事業の推進や交通遺児への入学祝い等の給付事業に取り組みました。
また、地区福祉委員会と連携した施設整備等に取り組み、地域福祉活動拠点としての機能強化を図りました。

今後の課題

第4次地域福祉推進計画に基づき基金の取り扱いを見直して、より有効に活用できるよう取り組んでいく必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	40,625,021	10,640,709	△ 29,984,312
受取利息配当金収入	632,521	640,709	8,188
積立資産取崩収入	29,992,500	10,000,000	△ 19,992,500
有価証券売却収入	10,000,000	0	△ 10,000,000
その他	0	0	0
（支　　出）	40,679,700	10,675,088	△ 30,004,612
事業費	521,000	535,060	14,060
有価証券取得支出	29,992,500	0	△ 29,992,500
積立資産支出	10,000,000	10,000,000	0
区分間繰入金支出	166,200	140,028	△ 26,172
その他	0	0	0

当期資金収支差額	△ 54,679	△ 34,379	20,300
前期末資金収支残高	6,043,886	5,989,207	△ 54,679
当期末支払資金残高	5,989,207	5,954,828	△ 34,379

主な増減理由

① 満期となった基金の減による収入支出の減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2－4
(1)	基金、積立金の見直しと有効活用	取組項目	⑤

・ 本会の保有する基金、積立金などについて、現在の状況や今後の見込を把握・分析し、有効活用を検討します。

【実績と成果】

・ 基金、積立金などについて市社協内部での検討を図り、それぞれの基金の目的に基づいた事業に充当し、有効活用を図りました。

その他

事業項目	①田中福祉基金事業の推進

・ ボランティア活動センター事業に充当し、ボランティア育成などに活用します。

【実績と成果】

・ 故人の寄付金により基金を設置し、その利息をボランティア活動の推進に充当しました。

事業経理区分	充当額	事業内容
ボランティア活動センター事業	130,200円	ボランティア講座の開催等

事業項目	②谷口交通遺児基金事業の推進

・ 小・中・高等学校並びに大学等へ入学する交通遺児に入学祝金を給付します。
・ 小・中学校に在籍する交通遺児に就学給付金を支給します。

【実績と成果】

・ 川西市の交通政策課と連携し交通遺児に対し入学祝金の給付と修学給付金を支給しました。
（入学祝金　245,000円　修学給付金　120,000円）
大学等進学時への支援も漏れなくできるよう、情報提供に取り組みます。

取組項目	③一井基金事業の推進

・ 地区福祉委員会と連携した事業推進及び運営などへの支援を行います。

【実績と成果】

・ 故人の遺志に基づき、川西市における地域福祉の向上をめざし、一井サロン等の民家を中心とした地域福祉活動拠点について、バリアフリー仕様への改造などの施設整備等に充てることを目的として設置しています。
明峰小地区の一井サロンでは、インターネットの環境を整備し、福祉委員会の活動拠点としての機能強化を図りました。
また、大和地区の大和サロンにおいても、雨戸の改修等を行い、施設整備の管理運営に取り組みました。

B8	地域福祉事業	決算科目	資金貸付事業

主な事業内容・成果

今年度の貸付相談件数は470件で、前年度の194件に比べ、276件増加し、申請件数も13件から21件に増加しました。貸付額も昨年より8,300,400円増額の15,597,800円となりました。貸付額が増えた理由としては、教育支援資金の貸付が増えたこと、熱中症予防のため必要な家電製品の購入のための借入が増加したためです。また、家計の収支の均衡が取れない生活困窮世帯が多く、一時的な相談支援や貸付などでは解決しないため、生活困窮者自立支援事業等につなぐなど、他機関と連携を図りながらその人に合った当事者支援を行いました。

今後の課題

教育支援資金に関して、高校と大学進学との重複した借入や、他機関からも借入している場合があり、卒業後は一斉に償還が始まることから、償還ができないケースが多くみられます。

今後は在学中の現況確認に併せて、卒業時点での今後の進路や就労状況を確認するため、卒業時の現況確認を実施し、状況確認を行うことで継続的な見守りや支援を行います。

資金収支計算書決算額　（単位：千円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	2,629,398	2,379,868	△ 249,530
助成金収入	2,230,000	2,230,000	0
受託金収入	122,600	120,868	△ 1,732
その他	276,798	29,000	△ 247,798
（支　　出）	2,613,482	2,350,944	△ 262,538
人件費	1,350,610	1,863,277	512,667
事業費	995,994	460,317	△ 535,677
事務費	7,838	9,350	1,512
その他	259,040	18,000	△ 241,040
予備費	0		0

当期資金収支差額	15,916	28,924	36
前期末資金収支残高	41,345	57,261	15,916
当期末支払資金残高	57,261	86,185	28,924

主な増減理由

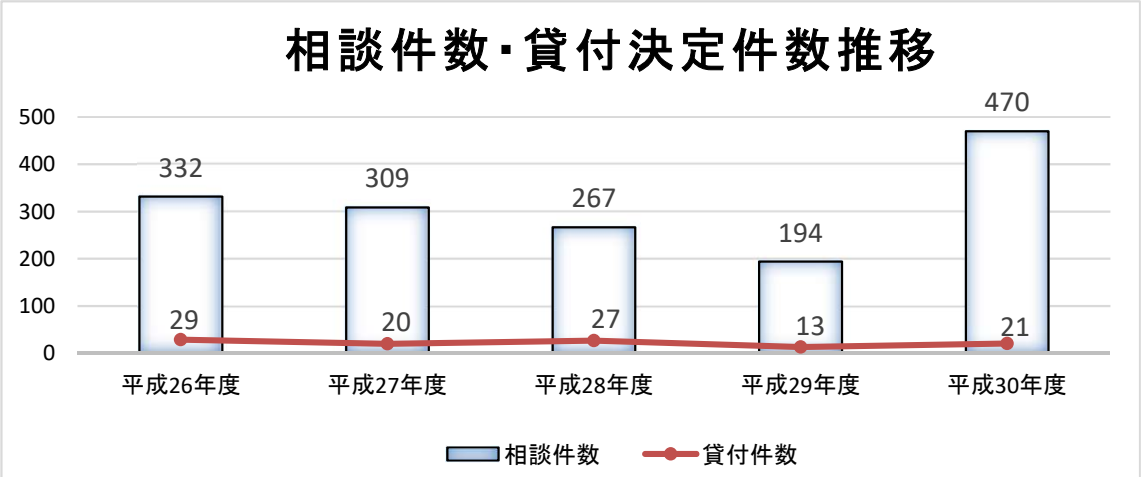
① 人件費は職員給与の変更による増
② 事業費は支出科目の変更に伴う減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3－1
（1）	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④

・ 貸付のみならず、複合化した課題に対し、川西市、民生委員・児童委員、その他の関係機関と連携しながら、支援に取り組むための連携強化型相談窓口機能を活かした権利擁護を図ります。

【実績と成果】



事業項目	生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金等相談内訳						
相談・資金の種類	相談件数(件)	相談延べ件数(件)	申請件数(件)	決定件数(件)	貸付額(単位:円)	
					H29年度	H30年度
教育支援資金	272	546	14	14	7,063,400	15,030,800
教育支援費	137	276	6	6	5,480,400	11,962,800
就学支度費	135	270	8	8	1,583,000	3,068,000
福祉資金	150	222	7	7	234,000	567,000
福祉費	141	213	7	7	134,000	567,000
緊急小口資金	9	9	0	0	100,000	0
総合支援資金	6	6	0	0	0	0
生活支援費	6	6	0	0	0	0
住宅入居費	0	0	0	0	0	0
一時生活再建費	0	0	0	0	0	0
不動産担保型生活福祉資金	0	0	0	0	0	0
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0	0
その他の相談（生活費・債務費等）	42	42	0	0	0	0
合　　計	470	816	21	21	7,297,400	15,597,800

・ 貸付の相談に来られた方の中には、複合化した課題を持っている方も多く、一時的な金銭の借入では解決できない場合があるため、川西市を始め他関係機関と当事者支援を行うため連携を図りました。

・ 低所得世帯等が必要となった家電製品の購入費や、教育に関する資金については、民生委員・児童委員と連携し世帯の状況を見極めながら貸付を行いました。また、熱中症による健康被害が数多く報告されていることを踏まえ、身体の安全確保を図るため、冷房器具購入者の緊急性を県社協に伝えることで貸付件数が増えました。

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④

・ 生活困窮者の経済的な自立のみならず、日常生活における自立や社会生活における自立も必要な方のSOSを見逃さず、その状態に応じた包括的な支援により、支援効果を高めていくように取り組みます。

・ 生活困窮者が地域で安心して生活できるよう、貸付を通じて構築された関係性を持続させるとともに、民生委員・児童委員、その他の関係機関と連携し支援します。

【実績と成果】

・ 貸付可否の判断だけを目的とした相談対応ではなく、生活課題を有する地域住民に幅広く対応する住民支援ツールとして、借入相談者の支援ニーズとはどういうものかを考え、貸付に至らなかった場合においても、社協内の資源や自立相談支援機関、行政等の関係機関への情報提供を適切に行うよう取り組みました。

・ 借入の背景にある生活課題を把握し、貸付後も民生委員・児童委員より伝達していただいた情報をもとに、借受人に対して様子をうかがいながら連絡をとり、信頼関係の維持に努めました。

・ 償還に関して、一旦長期滞納となってしまえば借受人の償還意欲も大きく低下してしまうので、初期滞納者にできるだけ早い段階で電話や文書等で償還を促すことで、遅れていた借受人に償還を行っていただきました。

研修会・連絡会への参加		
平成30年度　生活福祉資金新任担当職員研修会	5月15日	2人
平成30年度　生活福祉資金貸付事業にかかるブロック別意見交換会	7月23日	2人
平成30年度　生活福祉資金貸付事業担当者会議	10月4日	2人

B9	地域福祉事業	決算科目	善意銀行事業

主な事業内容・成果

要援助世帯の児童生徒に対し、修学旅行・小中学校の学校生活にかかる費用の支援をするとともに、各学校の福祉学習にかかる費用への支援や生活困窮世帯への緊急払出等を行いました。また、川西さくら園での春夏冬休みきょうだい児保育への支援やボランティア活動センター事業、日常生活自立支援事業など市社協事業への払出を行うとともに、フードバンク関西には運営支援として払出を行い、要援護者の在宅生活を支えました。

今後の課題

引き続き安定した事業運営が行えるよう、善意銀行の理解者や協力者増に向けた取り組みを行うとともに、現状分析を進め寄付者の善意が活かされる事業の推進に努める必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	1,825,338	2,063,160	237,822
寄付金収入	1,824,880	2,062,675	237,795
積立預金取崩収入	0	0	0
その他	458	485	27
（支　　出）	1,377,250	2,052,631	675,381
給付金支出	183,510	426,640	243,130
助成金支出	347,975	86,335	△ 261,640
区分間繰入金支出	574,000	526,171	△ 47,829
積立資産支出	271,765	1,013,485	741,720
当期資金収支差額	448,088	10,529	△ 437,559
前期末資金収支残高	1,223,831	1,671,919	448,088
当期末支払資金残高	1,671,919	1,682,448	10,529

主な増減理由

① 大口寄付者増による収入の増
② 生活一時つなぎ資金の払出増による支出の増
③ 助成金申請減による支出の減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	福祉情報の受発信	活動項目	2－2
（1）	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③

・ 広報紙やホームページ、地域での活動の場などを通じて、善意銀行への理解者、協力者が増えるよう広報活動を強化します。

【実績と成果】

・ ホームページでは、善意銀行の預託及び払出内容や受付方法を掲載しています。また、広報紙では、毎号、善意銀行だよりに、ご寄付をいただいた方の氏名・金額を掲載しています。本年度、継続してご寄付をいただいている方の寄付に対する思いをお寄せいただき広報紙に掲載しました。寄付額は前年度より13％アップし、5年ぶりに　200万円を超えました。

2	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2－4
（1）	基金、積立金の見直しと有効活用	取組項目	⑤

・ 現状分析やニーズ把握をすすめ善意の寄付や積立金が有効に活用できるよう取り組みます。

【実績と成果】

・ 今年度、善意銀行の支出計画変更を行いましたが、就学支援及び福祉教育活動支援の活用額が減少しました。どこに原因があるのか市の学校教育課と教育現場の状況や情報がどれくらい周知されているのかなど意見交換を行いました。その中で、家庭の状況把握が困難な現状はあるが、善意銀行の事業内容が十分周知されていない面もあるとの指摘がありました。

C・D	介護保険事業 自立支援事業	決算科目	介護保険事業拠点区分 自立支援事業拠点区分

主な事業内容・成果

市内の支援が必要な方々に介護保険、障害者総合支援法に基づき各種サービスを提供しました。

介護保険事業収入の減収が続いています。ヘルパーの確保が難航しているため新規利用者の受け入れが難しい状況となっています。

障害福祉サービスは一年を通してみると大きな変動はありません。

本年度は、川西市介護保険サービス協会が行った「かわにし介護就職フェア」に参加し、1名のヘルパー確保に繋がりました。

今後の課題

収入を増加させるには、ヘルパーの確保が欠かせないため今後も確保に向け努力が必要です。

また、引き続き介護保険事業及び自立支援事業の運営、経営について検討を行っていきます。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	38,687,212	37,559,078	△ 1,128,134
介護保険事業収入	13,851,269	12,674,180	△ 1,177,089
障害福祉サービス等事業収入	24,835,943	24,753,698	△ 82,245
区分間繰入金収入	0	131,200	131,200
（支　　出）	39,924,252	39,404,245	△ 520,007
人件費	36,951,016	36,323,797	△ 627,219
事業費	1,528,105	1,693,423	165,318
事務費	1,438,015	1,255,825	△ 182,190
区分間繰入金支出	7,116	131,200	124,084
その他支出	0	0	0

当期資金収支差額	△ 1,237,040	△ 1,845,167	△ 608,127
前期末資金収支残高	13,381,314	12,144,274	△ 1,237,040
当期末支払資金残高	12,144,274	10,299,107	△ 1,845,167

主な増減理由

① 介護保険事業収入等は、利用者減による収入の減

② 人件費は、利用者減による支出の減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
（1）	職員の資質向上	取組項目	②

・ 各種研修会への参加や毎月行われる定例会等を通し、サービスに係る知識の向上に努めます。また、社協内の様々な情報を積極的に取り込み、社協職員としての資質の向上にも努めます。

【実績と成果】

・ 30年度の計画に基づき研修を含めた毎月の定例会を開催し、情報共有と職員の資質向上に努めました。また、外部研修にも参加し、国の動向や新しい情報の収集に努めました。サービス提供との兼ね合いで、毎回全ての職員が出席できるわけでは無いため、今後も一月に複数回定例会を実施するなどし、多くの職員が参加できるようにする必要があります。

その他

事業項目	①サービスの質向上に向けた取組

・ 利用者や関係者との情報交換や意思疎通を十分図り相互に連携することで、サービスの質を上げ利用者が自分らしい生活を送れるような支援を行います。

【実績と成果】

・　支援時にご利用者と十分コミュニケーションをとりました。また、ご家族とも直接あるいは電話等で情報交換を行いました。他事業所とは担当者会議等で意見交換を行うなど連携に努め、事業所内ではサービス提供責任者を中心に日々打ち合わせを行い情報の共有を行いました。

　高齢化に伴う状態の著しい変化が見られたご利用者もおられ、他事業所との連携の強化とともに職員の気づきの重要性が改めて感じられました。細かな変化も見逃すことが無いよう支援に取り組んでいく必要があります。

事業別報告

（1）介護予防訪問介護、訪問介護事業

内容

介護予防訪問介護・訪問介護事業　月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	35	37	39	39	38	36	38	37	37	35	37	34	442
活動時間数	311:10	348:16	303:20	334:45	326:45	260:05	292:10	299:25	258:35	253:40	257:50	239:45	3485:46
活動回数	313	355	310	336	328	268	298	311	272	259	269	248	3,567

（2）居宅介護事業、重度訪問介護事業、同行援護事業

内容

障害福祉サービス事業　月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	24	26	26	25	23	24	26	27	24	24	20	20	289
活動時間数	454:05	522:55	440:05	429:45	393:05	442:40	524:15	582:15	438:40	464:45	401:40	376:50	5471:00
活動回数	209	240	207	213	217	197	226	247	196	208	176	166	2,502

（3）地域生活支援事業

内容

①全身性ガイドヘルプサービス 月別提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	6	6	5	6	6	7	7	8	5	4	6	8	74
活動時間数	184:15	185:35	220:10	176:00	155:20	169:15	193:30	219:55	178:35	128:45	140:30	155:30	2107:20
活動回数	29	28	32	24	21	26	29	32	24	17	19	24	305

（4）介護保険、障害者総合支援法関連事業の経営について

内容

すこやかサービスセンター利用者状況

事業区分		利用者(人)
介護保険事業関係	訪問介護・総合事業	442
障害者総合支援法関係	障害福祉サービス事業	289
	地域生活支援事業	74
合　計		805

（5）収支（経営）状況

内容

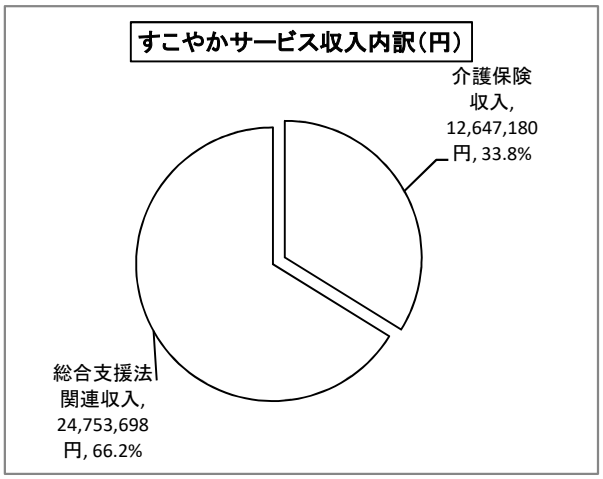
①事業区分別収支状況

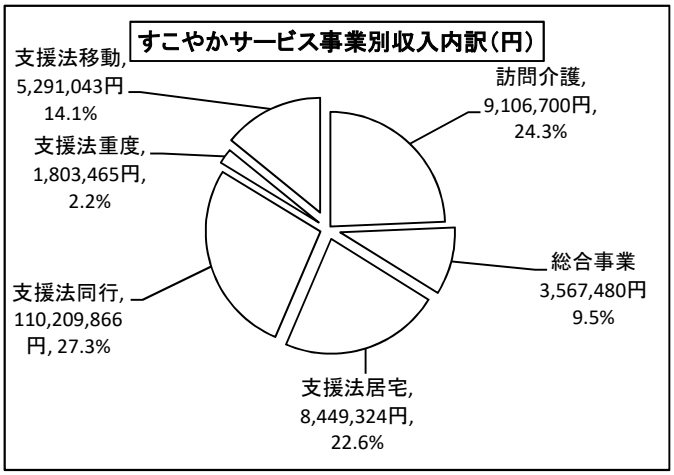
事業区分		収入	支出	差引
介護保険関連事業	訪問介護事業（総合事業含む）（ホームヘルプサービス）	12,674,180	14,138,953	-1,464,773
	小計①	12,674,180	14,138,953	-1,464,773
障害者総合支援法関連事業	居宅介護事業（障害ホームヘルプサービス）	8,449,324	7,731,019	718,305
	重度訪問介護事業（重度障害ホームヘルプサービス）	803,465	492,115	311,350
	同行援護事業（視覚障害サービス）	10,209,866	12,580,153	-2,370,287
	移動支援事業（ガイドヘルプサービス）	5,291,043	4,330,805	960,238
	小計②	24,753,698	25,134,092	-380,394
合計（①＋②）		37,427,878	39,273,045	-1,845,167

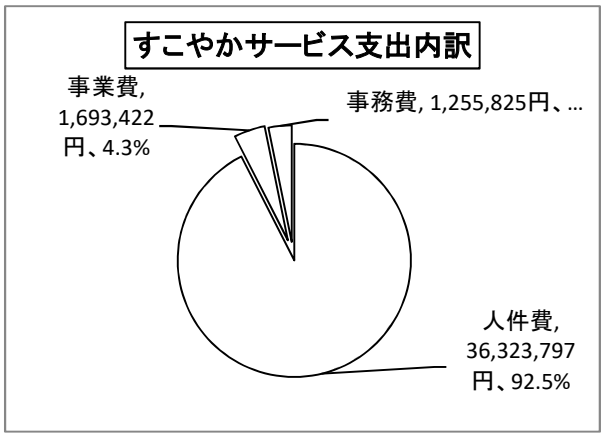
※ 拠点区分間繰入金及びサービス区分間繰入金、前期末支払資金残高は含まない収支です。

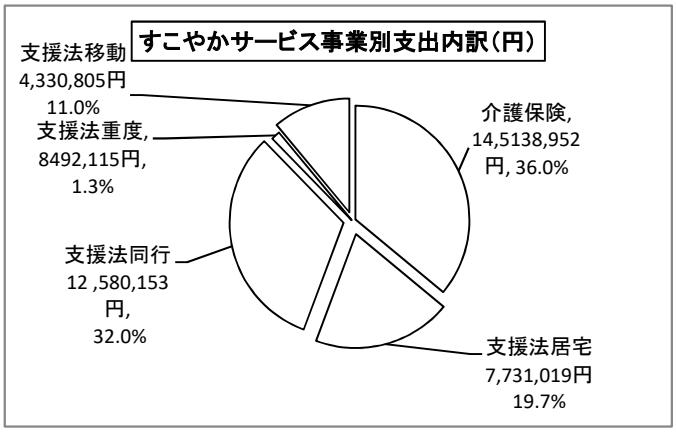
内容

②収入・支出の内訳





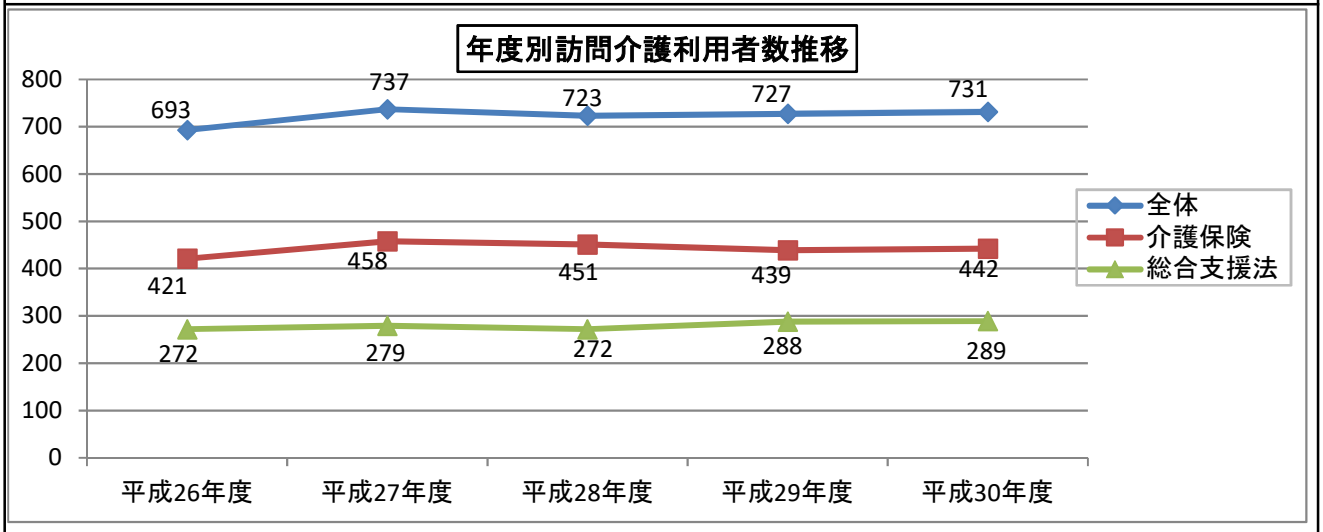




（6）年度別活動実績の推移

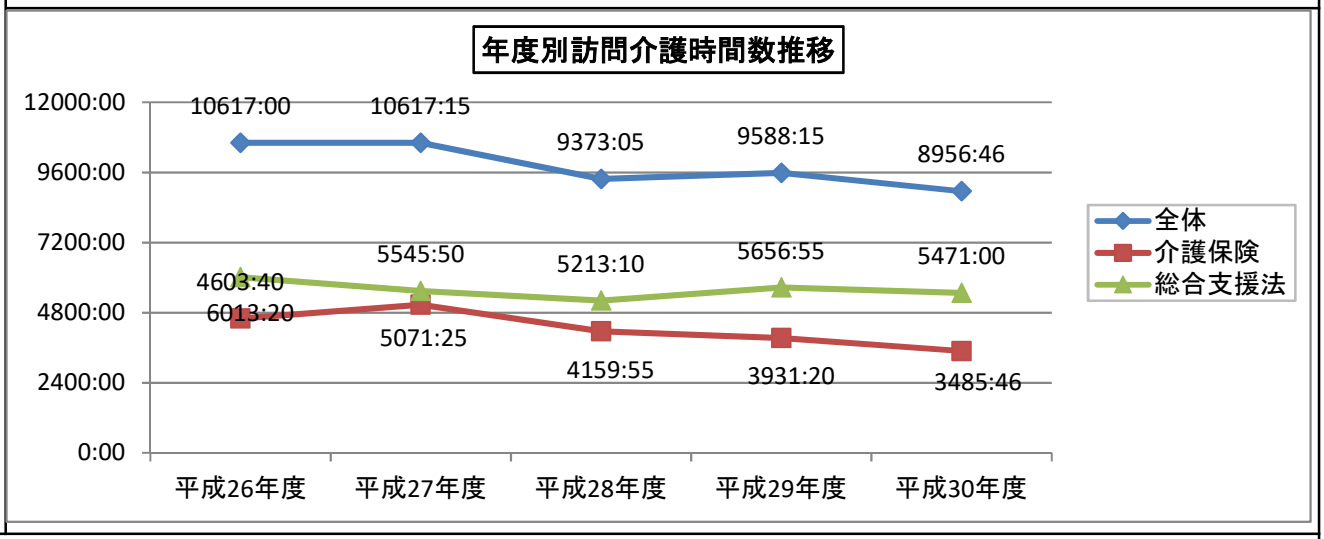
内容

①訪問介護利用者数の推移



内容

②訪問介護活動時間数の推移



（7）専門性及び技術の向上をめざした研修等の充実

内容

①ホームヘルパー関係

毎月開催しているホームヘルパー定例会での研修やアセスメント向上に関する研修会等、14研修会に116名が参加しました。

（8）川西市介護保険サービス協会

内容

47法人133事業所で組織されている川西市介護保険サービス協会において、本会は事務局として運営を支援し、資質の向上及び事業所間の連携等を目的に、次のような研修会等が開催されました。

開催日	内　容	場所	参加者
平成30年 6月20日	○講演 テーマ ：『災害発生時、介護事業所に求められるもの 介護事業者が求めるもの』 講　師 ：川西市役所　危機管理課　職員 地域福祉課　職員	アステホール	67人
平成30年 12月13日	○施設見学会 内　容 ：キセラ川西プラザ福祉棟入居団体の機能や役割 についての説明及び見学 団　体 ：予防歯科センター、子ども若者ステーション 川西こども家庭センター、川西市社会福祉協議会	キセラ川西プラザ福祉棟　会議室	32人
平成31年 2月21日	○介護就職フェア 内　容 ：就職面接会　介護体験　公的職業訓練 福祉用具展示 主　催 ：川西市　ハローワーク伊丹 川西市介護保険サービス協会	アステホール	面接会 参加人数 40人

E	障がい者相談支援事業	決算科目	障がい者相談支援事業

主な事業内容・成果

障がいをお持ちの方やその家族が安心して住み慣れた地域で暮らすために必要な様々な相談に応じ、必要な情報提供や助言などの支援を行います。また、福祉サービスの利用支援業務として、サービス等利用計画書の作成およびモニタリングを実施し、適切なサービスが提供されるように調整します。

行政や関係事業所などと積極的に連携し、生活面・就労面で、安心・安全に生活できるよう継続した支援を行っています。

今後の課題

① 計画相談支援は業務内容の見直しを行うことで利用者および職員の時間的負担並びに心身の負担を軽減することが課題です。

② 多様化している相談内容に寄り添うために職員の資質の向上や社会資源や関係機関とより広く深く繋がっていく必要があります。

③ 指定特定相談支援事業所として、市内相談支援体制のさらなる充実をめざします。

④ 障がい者虐待の抑止力となるよう周知・啓発に取り組みます。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	68,506,549	60,389,275	△ 8,117,274
受託金収入	50,290,195	41,637,258	△ 8,652,937
障害福祉サービス等事業収入	18,200,554	18,749,417	548,863
その他	15,800	2,600	△ 13,200
			0
（支　　出）	68,506,549	60,389,275	△ 8,117,274
人件費	65,154,379	57,079,996	△ 8,074,383
事業費	766,658	805,658	39,000
事務費	2,585,512	2,503,621	△ 81,891
			0
			0
			0

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	15,614	15,614	0
当期末支払資金残高	15,614	15,614	0

主な増減理由

①計画相談支援給付費収入は、新規相談窓口の設置などに伴う計画数の増

②人件費は、人事異動と専門職員1名減および業務内容の見直しによる時間外手当の減

平成30年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1-2
(1)	当事者への支援	取組項目	④

・ 障がい者1日サロンの開催や障がい者団体の運営支援及び自主生産製品販売促進事業の推進等を通じて、当事者及びその家族の自立と社会参加の促進を図ります。

【実績と成果】

・ 12月に開催された障がい者1日サロンに実行委員として参加し、様々な提案や調整を行いました。障がい者団体の運営会議や行事にも参加・支援を行いました。川西市障がい者自主製品販売促進委員会（みんなの店）の事務局として、会議・イベントの調整・支援を行いました。各団体や当事者の取り組みに対して側面的な支援体制で取り組んだことで、さらなる自立や社会参加につなげることができました。

2	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③

・ 障がい者やその家族がかかえる生活課題の解決に向けて、地域における様々な資源や関係機関と連携しながら、自立支援に取り組みます。

【実績と成果】

・ 障がい者やその家族がかかえる課題が多様化している状況で、行政・医療・地域福祉・教育など連携する機関も多様化しています。従来の障がい者相談支援の枠組みでは対応できない問題や様々な枠組みの狭間で取り組みが困難なケースが増加しています。そのような課題に障がい者相談支援の立場と

してできる支援や助言を行ってきました。また新たに「新規相談窓口」を設け、初期相談で相談内容の整理を行い、スムーズに必要な機関につなげたり、利用者の待ち時間の短縮を図りました。

3	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	権利擁護の推進	取組項目	③

・ 障がい者の虐待防止について、住民への周知・啓発に取り組むとともに、虐待防止、早期発見のため、関係機関と連携し、本人の意思に基づく支援が行われるように取り組みます。

【実績と成果】

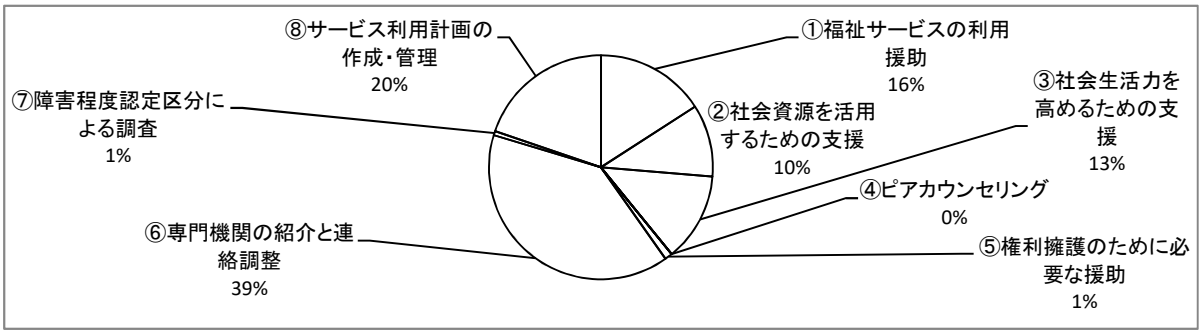
虐待通報が13件、質問・相談が3件、訪問・連絡38回、会議等を149回行いました。うち、虐待認定されたケースが1件でした。成果としては、認定には至らなくても、早期に通報をいただいたことで未然に防止できたことです。当窓口の周知や啓発活動が不十分であるため、さらなる抑止力となるよう取り組みます。

(1)相談・支援利用者の障害別状況

内容

(単位:人)

項　　目	身体障がい	精神障がい	知的障がい児	知的障がい者	不明者	合計
① 福祉サービスの利用援助	481	1,217	0	1,389	75	3,162
② 社会資源を活用するための支援	354	638	0	1,045	33	2,070
③ 社会生活力を高めるための支援	435	813	11	1,252	37	2,548
④ ピアカウンセリング	0	1	0	0	0	1
⑤ 権利擁護のために必要な援助	19	62	0	119	20	220
⑥ 専門機関の紹介と連絡調整	2,229	2,455	7	2,944	204	7,839
⑦ 障がい程度認定区分による調査	43	18	0	58	0	119
⑧ サービス等利用計画の作成・管理	860	632	0	2,439	0	3,931
合　　計	4,421	5,836	18	9,246	369	19,890



(2)サービス調整会議実施回数

内容

(単位:人)

	身体障がい	精神障がい	知的障がい児	知的障がい者	未確認	合計
サービス調整会議	183	264	0	414	4	865

(3)相談方法

内容

(単位:人)

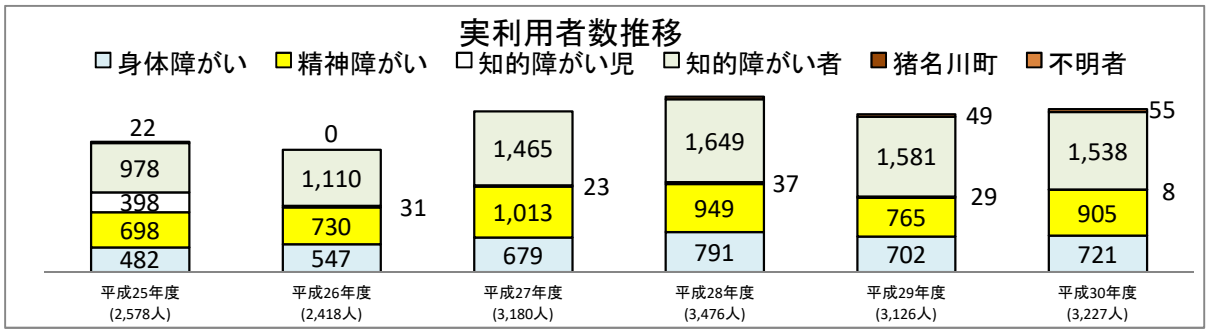
相　談　方　法	身体障がい	精神障がい	知的障がい児	知的障がい者	不明者	合計
電話相談	2,704	2,968	11	4,109	222	10,014
FAX・メール・相談	51	61	0	160	2	274
来所相談	142	214	2	345	18	721
訪問相談(施設訪問も含む)	650	777	3	1,467	39	2,936
その他	89	17	0	70	1	177
合　計	3,636	4,037	16	6,151	282	14,122

(4)実利用者数

内容

(単位:人)

	身体障がい	精神障がい	知的障がい児	知的障がい者	不明者	合計
男　性	352	470	8	910	21	1,761
女　性	369	435	0	628	34	1,466
不　明	0	0	0	0	0	0
合　計	721	905	8	1,538	55	3,227



(5)障がい種別・程度別相談状況

内容

(単位:人)

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明者	合計
身体障がい者	男　性	1,072	349	19	93	56	10	32	1,631
	女　性	1,485	286	143	68	0	22	1	2,005
	合　計	2,557	635	162	161	56	32	33	3,636
精神障がい者		1級	2級	3級	非所持者	不明者	合計		
	男　性	104	1,337	413	0	141	1,995		
	女　性	125	1,359	366	27	165	2,042		
	合　計	229	2,696	779	27	306	4,037		
知的障がい児・者		A	B1	B2	非所持者	不明者	合計		
	男　性	1,646	624	1,053	0	133	3,456		
	女　性	1,367	789	546	0	9	2,711		
	合　計	3,013	1,413	1,599	0	142	6,167		

(6)障がい者就労支援事業

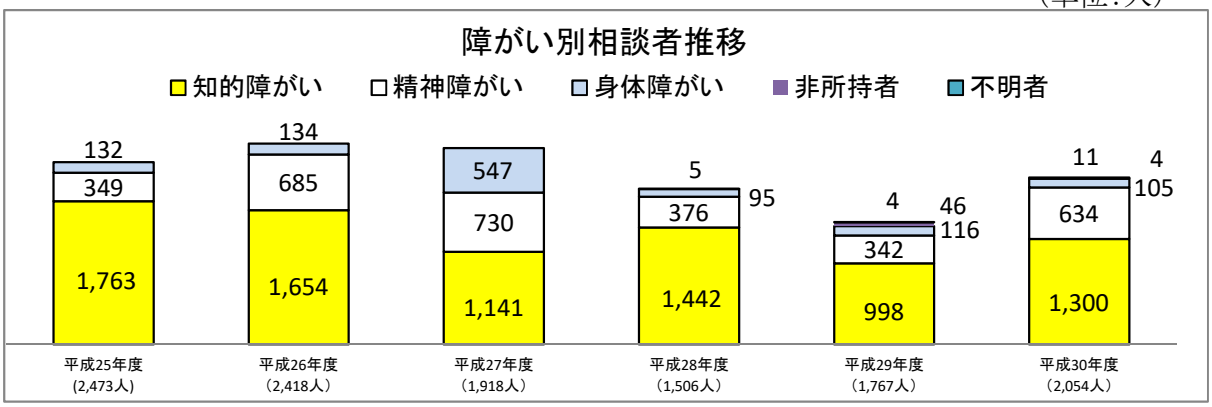
①障がい種別相談者数

内容

(単位:人)

	身体障がい	精神障がい	知的障がい	非所持者	不明者	合計
男　性	43	508	897	3	9	1,460
女　性	62	126	403	1	2	594
合　計	105	634	1,300	4	11	2,054

（単位：人）



内容

②就労相談状況

（単位：人）

	指導助言	情報提供	見学 面接同行	実習支援	その他 （生活相談）	職場 定着支援	合計
① 登録	448	123	10	11	428	129	1,149
② 未登録	28	17	3	0	56	5	109
合計	476	140	13	11	484	134	1,258

内容

③関係機関との連携状況

（単位：人）

	行政 職安 職セン	各支援 センター	施設 作業所	学校	企業	その他 （会議含）	合計
① 訪問	20	7	34	11	129	43	244
② 連絡	149	87	267	42	262	32	839
③ 来所	2	1	6	0	2	4	15
合計	171	95	307	53	393	79	1,098

（7）障がい者虐待防止センター事業

内容

①相談件数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
虐待の通報・相談件数（再来を含む）	2	1	1	1	1	2	1	1	2	0	0	0	12
その内市役所への通報・相談件数	0	0	0	0	1	2	1	1	2	0	0	0	7
制度や虐待についての質問・相談件数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
本人・家族等との面談・訪問・電話等件数	5	4	0	1	7	1	3	5	9	1	1	1	38
市・専門機関との調整・会議等件数	12	16	14	14	18	22	14	13	18	5	3	0	149
虐待と認定された件数（市への通報分も含む）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②通報・相談者数

（単位：人）

養護者	本人	知人	関係者	その他	計
1	1	0	6	4	12

内容

③虐待者

（単位：人）

養護者	施設	企業	その他	計
6	7	0	0	13

④虐待の種類（重複あり）

（単位：人）

身体的虐待	心理的虐待	性的虐待	ネグレクト	経済的虐待	その他	計
10	8	1	0	0	0	19

F1	障がい者施設	決算科目	小戸作業所

主な事業内容・成果

障害者総合支援法に基づき、生活介護・就労継続支援B型事業及び、地域活動支援センター事業を実施しました。利用者の意向に沿ったサービスを提供するため、個別面談や年度末アンケートなどを行い、利用者主体の個別支援計画書の作成に努めました。両サービスともに、年間工賃収入は減少しましたが、生活介護は新規作業を導入することができ、就労継続支援B型は、利用者の特性や状況に合わせた作業提供を行い、利用者の作業意欲の向上につながりました。

今後の課題

① 両サービスともに、安定した作業量の確保が必要です。

② 地域との関りを増やすために、実習生やボランティア、見学等の受け入れを積極的に行う必要があります。

③ 生活介護と地域活動支援センター事業は、定員を満たしていないので、新規利用者の確保が課題です。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	138,203,388	124,046,773	△ 14,156,615
受託金収入	39,295,092	32,194,012	△ 7,101,080
就労支援事業収入	8,443,072	6,519,141	△ 1,923,931
障害福祉サービス等事業収入	82,648,456	82,310,079	△ 338,377
その他	7,816,768	3,023,541	△ 4,793,227
（支　　出）	133,703,388	128,546,773	△ 5,156,615
人件費	104,632,746	97,890,000	△ 6,742,746
事業費	16,272,482	15,265,968	△ 1,006,514
事務費	3,351,927	3,384,544	32,617
就業支援事業支出	8,443,072	6,519,141	△ 1,923,931
その他	1,003,161	5,487,120	4,483,959

当期資金収支差額	4,500,000	△ 4,500,000	△ 9,000,000
前期末資金収支残高	4,898,190	9,398,190	4,500,000
当期末支払資金残高	9,398,190	4,898,190	△ 4,500,000

主な増減理由

① 障害福祉サービス等事業収入は、利用者出席率低下による減

② 人件費は、人事異動や臨時職員の欠員時期があったことによる減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

生活介護事業（定員40人）

・ 利用者の特性やニーズを把握して、個別支援計画書を作成しこれに基づき、日常生活や社会生活を営むうえで適切な支援を行い、生産活動や創作活動等にも取り組みます。

【実績と成果】

・ 生産活動については、1社取引が無くなって以降、工賃が平均3,000円を下回る月が続きましたが、新規開拓に努め、今年1月よりダイハツのワイパーゴムの作業を開始し、3月には平均10,000円を超えました。

生活介護　（単位：円）

	支払総額	最高額	最低額	1人当たり平均	前年度
4月	288,600	16,000	500	8,245	7,574
5月	121,600	4,950	900	3,576	6,317
6月	149,000	5,800	200	4,257	5,874
7月	135,600	5,300	1,000	3,988	5,665
8月	107,700	4,450	600	3,167	8,108
9月	52,400	1,900	100	1,497	6,135
10月	79,790	3,120	110	2,346	5,917
11月	75,100	3,200	100	2,145	5,970
12月	149,600	7,000	300	4,274	7,057
1月	78,500	4,200	100	2,242	3,778
2月	84,640	3,780	120	2,418	5,811
3月	391,730	23,071	202	11,192	7,608
年度	1,714,260	6,898	353	4,112	6,318

・ 創作活動については、季節ごとの絵や造形物を製作し、季節感を味わっていただくことができました。個々の利用者の夢や希望に基づいた支援計画書の作成を実施し、支援にも反映できるように努めました。

・ 特別支援学校等の生徒の実習やトライやる・ウィークを受け入れます。また、所内・外行事（遠足等）において、ボランティアの方にも協力いただきます。

【実績と成果】

・ こやの里特別支援学校の生徒1人と在宅の方1人の実習を受け入れ、1人は利用につなげることができました。トライやる・ウィークは2人、介護等体験実習は8人受け入れました。9月の所外行事では、介護等体験実習生2人とボランティア3人に協力を得て、安全に利用者の方に楽しんでいただくことができました。

・ 障がい児（者）地域生活・就業支援センターと連携して新規利用者の確保に取り組みます。

【実績と成果】

・ 相談支援事業所との連携により、体験実習を経て新規利用者1名を契約につなげることができました。また、新しく立ち上げられた相談支援事業所や施設とも連絡を取り、数か所の事業所の見学を積極的に受け入れました。

就労継続支援B型事業（定員20人）

・ 利用者の特性やニーズを把握して、個別支援計画書を作成しこれに基づき、日常生活や社会生活を営むうえで適切な支援を行い、生活力向上のための工賃向上計画に取り組みます。

【実績と成果】

・ 利用者の状況や思いに沿った計画書を作成し、年度末アンケートでも高評価を得られました。高齢の利用者に対しては、体調面などに配慮した作業提供を行うなど、個々の特性に合わせた支援を行いました。高齢化等による利用者の状況により、年間の月額平均が16,465円で、前年度より2,000円弱の低下となりました。

就労継続支援B型　（単位：円）

	支払総額	最高額	最低額	1人当たり平均	前年度
4月	453,380	40,700	2,260	20,608	22,147
5月	373,760	33,330	1,720	16,989	18,026
6月	420,620	40,900	1,580	19,119	21,295
7月	297,360	28,700	1,560	13,516	18,495
8月	360,640	33,920	1,260	16,392	15,541
9月	324,040	29,260	1,020	14,729	19,645
10月	367,270	34,760	1,620	17,489	21,932
11月	432,540	44,280	1,060	21,627	19,987
12月	331,150	35,950	450	15,769	17,264
1月	290,260	25,700	1,260	14,513	14,282
2月	243,720	24,620	280	11,605	16,396
3月	319,671	32,501	1,844	15,222	15,386
年度	4,214,411	33,718	1,326	16,465	18,366

・ 特別支援学校等の生徒の実習やトライやる・ウィークを受け入れます。また、所内・外行事（遠足等）において、ボランティアの方にも協力いただきます。

【実績と成果】

・ トライやる・ウィークは2人、介護等体験実習は8人受け入れました。9月の所外行事では、介護等体験実習生2人とボランティア3人に協力を得て、安全に利用者の方に楽しんでいただくことができました。

・ 障がい児（者）地域生活・就業支援センターと連携して個々の希望の進路に向けて支援するとともに、新規利用者の確保に取り組みます。

【実績と成果】

・ 相談支援事業所と連携して、ステップアップについての案内をさせていただいた利用者が、就労継続支援A型を目ざされることになりました。ご家族の都合などで具体的な動きにはつながらなかったため、定員に空きが出ることは無く、新規利用者確保については、引き続きの課題となりました。

地域活動支援センター事業（定員10人）

・ 障がいのある方に対して、創作的活動の機会を提供し社会との交流の促進等を行います。

【支援内容】

講座の開講（手話・俳画・陶芸・ちぎり絵・手編み・太極拳・ハングル　7講座）

【実績と成果】

・ 予定通り、7講座を開講することができました。体調不良のため休まれる方もあり、交流の場としての役割は果たせました。

※(　)内は支援費対象外の

（単位：人）

講座名	登録者数	開講回数	延受講者数
陶芸	0(5)	22	0 (103)
手編	3(0)	23	38 (0)
俳画	2(4)	15	32 (82)
太極拳	2(3)	24	37 (62)
手話	0(2)	23	0 (45)
ハングル	2(2)	24	27 (38)
ちぎり絵	0(3)	23	0 (58)
計	9(19)	154	134 (388)

・ 障がい児（者）地域生活・就業支援センターと連携して新規利用者の確保に取り組むとともに、広報紙で募集します。

【実績と成果】

・ 相談支援事業所と連携し、広報紙でも募集した結果、新規利用者を2人契約につなげることができました。

（1）在籍状況

内容

①月別在籍状況　（定員：生活介護 40人、就労継続支援B型 20人）

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活介護	男	28	28	28	28	28	28	27	27	27	27	27	27
	女	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8
	小計	35	35	35	35	35	36	35	35	35	35	35	35
就労継続	男	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	小計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
合計		57	57	57	57	57	58	57	57	57	57	57	57

内容

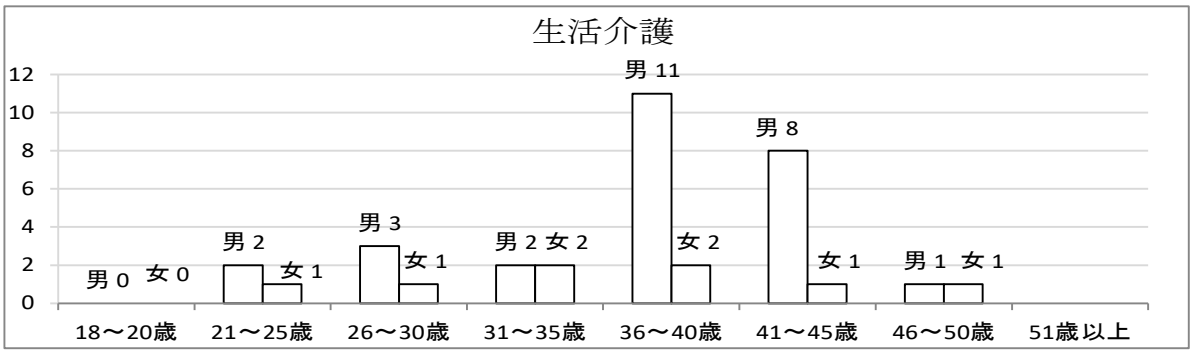
②年齢別在籍状況（3月31日現在）

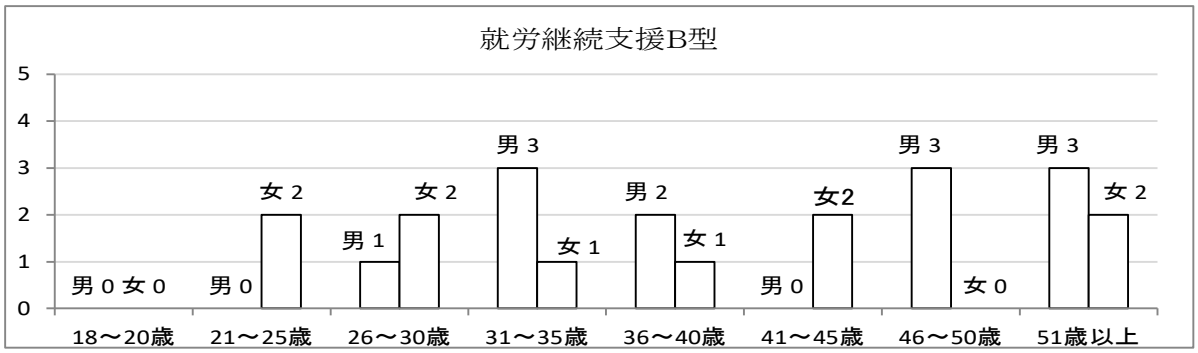
（単位：人）

		18～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳以上	計
生活介護	男	0	2	3	2	11	8	1	0	27
	女	0	1	1	2	2	1	1	0	8
	小計	0	3	4	4	13	9	2	0	35
就労継続	男	0	0	1	3	2	0	3	3	12
	女	0	2	2	1	1	2	0	2	10
	小計	0	2	3	4	3	2	3	5	22
合計		0	5	7	8	16	11	5	5	57

内容

（単位：人）





内容

③生活介護利用者の障がい程度別在籍状況（3月31日現在）

（単位：人）

障がい程度区分	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	9	13	2	3	27
女	0	0	1	4	2	1	8
合計	0	0	10	17	4	4	35

（2）出席状況

内容

年間延出席人数は、前年 12,746人に対し、11,995人でした。

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
生活介護	在籍者数	35	35	35	35	35	36	35	35	35	35	35	35		
	所定作業日数	20	21	20	20	21	16	22	21	19	19	19	20	238	241
	延出席者数	653	682	660	623	671	521	693	662	620	577	577	638	7,577	7,825
	出席率%	93.2	92.7	94.2	89.0	91.2	90.4	90.0	90.0	93.2	86.7	86.7	91.1	90.7	91.8
就労継続	在籍者数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22		
	所定作業日数	20	21	20	20	21	16	22	21	19	19	19	20	238	241
	延出席者数	392	412	392	384	402	314	399	378	331	328	334	352	4,418	4,921
	出席率%	89.0	89.1	89.0	87.2	87.0	89.2	82.4	81.8	79.1	78.4	79.9	80.0	84.3	89.1

（在籍者数に対する出席率を記載）

（3）関係先企業

内容

作業実習に必要な仕事については、下記の各企業より受注を受けました。利用者に働くことの喜びを味わってもらうため、仕事の確保に努めました。

小杉善(株)　（箕面市）・・・・・・・・・・・・・・　タオル等のギフトセットや包装
金本徳(株)　（箕面市）・・・・・・・・・・・・・・　〃
ナイガイ(株)　（箕面市）・・・・・・・・・・・・・・　タオル一本袋入れ、箱の組立
那須梱包(株)　（西宮市）・・・・・・・・・・・・・・　自動車部品袋入れ
(株)ｴｻｶｻｰﾋﾞｽ　（箕面市）・・・・・・・・・・・・・・　ファンシーグッズの袋入れ、値付け
伊丹加工所　（伊丹市）・・・・・・・・・・・・・・　住宅関連部品の組立
エムアイケミカル(株)　（伊丹市）・・・・・・・・・・・・・・　薬杯検品

F2	障がい者施設	決算科目	川西作業所

主な事業内容・成果

障害者総合支援法に基づき、就労継続支援B型事業を実施しました。利用者の意向に沿った支援をするため、個別面談やアンケート調査を実施し、より良い個別支援計画の作成に努めました。特別支援学校の実習生やトライやるウイークの受け入れなどを実施し、情報交換などを行い、地域との交流に努めました。関係機関と連携し、個々の希望の進路に向けて情報提供を行い、2人の方が就労継続支援A型施設へ移行することができました。

今後の課題

① 利用者の高齢化や障がいの重度化に伴い、受託している作業の見直しと新規作業の開拓が必要です。

② 利用者の長期欠席が増えていることなどで利用日数の減少が見受けられるので、関係機関とさらに連携を図り、新規利用者の確保に努める必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	54,031,575	55,782,936	1,751,361
受託金収入	6,137,408	15,142,653	9,005,245
就労支援事業収入	6,956,593	5,612,052	△ 1,344,541
障害福祉サービス等事業収入	37,621,596	34,678,110	△ 2,943,486
その他	3,315,978	350,121	△ 2,965,857
（支　　出）	53,031,290	58,782,936	5,751,646
人件費	35,232,004	41,731,641	6,499,637
事業費	6,366,044	6,246,898	△ 119,146
事務費	2,326,454	2,060,225	△ 266,229
就業支援事業支出	6,956,593	5,612,052	△ 1,344,541
その他	2,150,195	3,132,120	981,925

当期資金収支差額	1,000,285	△ 3,000,000	△ 4,000,285
前期末資金収支残高	2,727,648	3,727,933	1,000,285
当期末支払資金残高	3,727,933	727,933	△ 3,000,000

主な増減理由

① 障害福祉サービス等事業収入は、利用者契約数減少による減

② 人件費は、人事異動による増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

就労継続支援B型事業（定員35人）

・ 利用者の特性やニーズを把握して、個別支援計画書を作成しこれに基づき、日常生活や社会生活を営むうえで適切な支援を行い、生活力向上のための工賃向上計画に取り組みます。

【実績と成果】

・ 利用者の意向に沿った支援をするため、個別面談やアンケートを実施し、より良いサービスと個別支援計画の作成に努めました。 施設利用者の高齢化（利用者の約半数は50歳以上）と障がいの重度化が進んでおり、川西市からの 封入・封緘の受注は継続していますが、難易度の高い作業や納期の短い作業が困難になってきています。今年度のひとり当りの工賃支払い額は平均月額14,416円で、前年度に比べて、1,923円下がりました。

（単位：円）

	支　払　総　額	最　高　額	最　低　額	1人当たり平均	前　年　度
4月	502,670	38,910	670	16,755	16,645
5月	265,270	21,640	660	8,557	11,148
6月	518,170	40,170	3,020	17,272	18,238
7月	560,290	44,160	1,770	18,073	22,216
8月	370,440	29,400	530	11,949	12,186
9月	418,290	29,880	1,540	13,493	14,123
10月	391,870	29,080	4,060	13,062	13,515
11月	442,050	35,775	365	14,735	28,059
12月	474,425	37,115	920	16,359	16,775
1月	339,290	29,115	2,080	11,699	11,579
2月	485,330	42,230	530	16,735	16,465
3月	386,319	33,120	421	14,308	14,689
年度	5,154,414	34,216	1,381	14,416	16,303

・ 特別支援学校等の生徒の実習やトライやる・ウィークを受け入れます。また、所内・所外行事（遠足等）において、ボランティアにも協力いただきます。

【実績と成果】

・ 今年度は特別支援学校の生徒の実習の受け入れを1人（10/16)実施しました。トライやるウィークの受け入れを川西南中学校から2人（5/28～6/1)と明峰中学校から2人（6/4～6/8)行いました。所内・所外行事（遠足等）はボランティアの参加はありませんでしたが、所外行事の時に介護等体験の実習生の参加が1人ありました。実習生（ボランティア）の受け入れを実施することにより、地域との交流が深まりました。

・ 障がい児（者）地域生活・就業支援センターと連携して個々の希望の進路に向けて支援するとともに、新規利用者の確保に取り組みます。

【実績と成果】

・ 相談支援事業所と連携を密にすることにより、個々の希望や特性に応じて一般就労や障害福祉サービスの見直しを行い、今年度は就労継続支援A型事業所へ移行された方が2人退所されました。（10/31付・12/31付）

（1）在籍状況

内容

①月別在籍者状況　（定員 ： 35人）

（単位 ： 人）

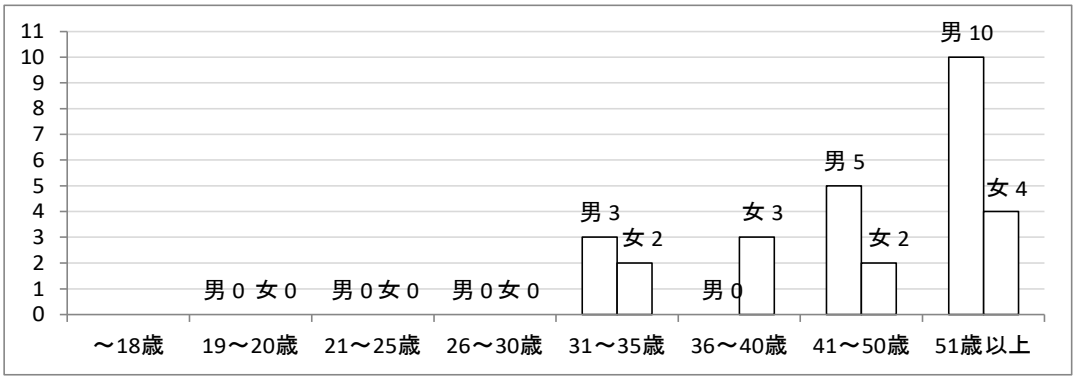
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	20	20	20	20	20	19	19	19	19	18	18	18
女	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11
計	32	32	32	32	32	31	31	30	30	29	29	29

内容

②年齢別在籍状況

（単位：人）

	～18歳	19～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～50歳	51歳以上	計
男	0	0	0	0	3	0	5	10	18
女	0	0	0	0	2	3	2	4	11
小計	0	0	0	0	5	3	7	14	29



内容

③障がい別在籍状況

（単位：人）

手帳等級		1級	2級	3級	4級	5級	6級	小計	計
視覚障がい	男	0	1	0	0	0	0	1	
	女	0	0	0	0	0	0	0	1
聴覚障がい	男	0	1	1	1	0	0	3	
	女	1	0	0	0	0	0	1	4
肢体不自由	男	1	9	0	2	1	0	13	
	女	1	5	1	2	0	1	10	23
内部障がい	男	1	0	0	0	0	0	1	
	女	0	0	0	0	0	0	0	1
計	男	2	11	1	3	1	0	18	
	女	2	5	1	2	0	1	11	29

（2）出席状況

内容

利用者の出席率は、73.9％であり、年間延出席人数は、5,418人でした。

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
在籍者数	32	32	32	32	32	31	31	30	30	29	29	29		
所定作業日数	20	21	20	20	21	16	22	21	19	19	19	20	238	241
延出席者数	490	492	476	463	472	362	539	477	440	402	395	410	5,418	5,995
出席率　％	76.5	73.2	74.3	72.3	70.2	72.9	79.0	75.7	77.1	72.9	71.6	70.6	73.9	73.2

（3）関係先企業

内容

利用者の中には、就労経験のある方もおられ、自立生活のため高工賃を期待されています。付加価値の高い作業の導入を心がけていますが、作業をする上で利用者の重度化傾向がうかがえ、難易度の低い作業の導入にも努める必要があります。

取引先の中で、新規作業開拓等を行いますし、新規企業の開拓も必要と感じていますが、困難でありました。

その中で、川西市からの受注を積極的に取り組みました。

積水マテリアルソリューションズ（株）（大阪市）・・・・・・・・・・・医療用廃棄袋加工
伊丹加工所（伊丹市）・・・・・・・・・・・住宅・建築用資材加工
エムアイケミカル（株）（伊丹市）・・・・・・・・・・・投薬瓶箱詰
林（株）（川西市）・・・・・・・・・・・タオル加工
梶村工業所（伊丹市）・・・・・・・・・・・自動車・機械部品加工
川西市役所（川西市）・・・・・・・・・・・封入・封緘作業
（株）アヌシ（伊丹市）・・・・・・・・・・・生活雑貨加工

（4）他施設等への協力

内容

本年度においては、依頼に応じて、次の施設等へ紹介等を行いました。

ドリーム甲子園（川西市）
就労継続支援事業所　ワークスペースさつき（池田市）

F3	障がい者施設	決算科目	ひまわり荘

主な事業内容・成果

障害者総合支援法に基づき、指定障害福祉サービス事業所として生活介護事業所を実施し、利用者及び家族等からの相談に応じ適切な助言または支援を行いました。

また、機能的訓練として、個別カリキュラムにより心身機能の維持向上が図れるように、歩行訓練・立位訓練等を実施しました。

さらに、看護師による利用日ごとの健康チェックや嘱託医による内科検診（2か月に1回・検尿年に2回）を実施し健康維持に努めました。

支援学校等との交流会参加や地元ボランティアを積極的に受け入れ、社会参加、地域交流を深めました。

今後の課題

① 利用者本人や家族の高齢化が進み、在宅生活の継続に不安を持っておられるため、社会資源の開拓、情報提供等を関係機関と連携し進めていく必要があります。

② 専門的な機能訓練の実施要望があるため、理学療法士等の確保を検討する必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	75,052,086	65,699,740	△ 9,352,346
受託金収入	27,425,989	19,873,839	△ 7,552,150
障害福祉サービス等事業収入	45,615,762	45,825,901	210,139
その他	2,010,335	0	△ 2,010,335
（支　　出）	73,238,011	65,699,740	△ 7,538,271
人件費	61,631,858	54,377,125	△ 7,254,733
事業費	8,432,730	8,332,161	△ 100,569
事務費	3,173,423	2,990,454	△ 182,969

当期資金収支差額	1,814,075	0	△ 1,814,075
前期末資金収支残高	5,780,051	7,594,126	1,814,075
当期末支払資金残高	7,594,126	7,594,126	0

主な増減理由

① 障害福祉サービス費等事業収入は、利用者の重度化や法改正に伴う報酬単価増による増

② 人件費は、人事異動や臨時職員の欠員時期があったことによる減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

生活介護事業（定員20名）

・ 日中活動として、利用者の希望や要望に基づき作成した個別支援計画書に沿って日常生活上の支援を実施します。

【実績と成果】

・ 障害者総合支援法に基づき、サービス管理責任者が定期的に面談を行い利用者の希望や要望を伺い、個別支援計画書を作成し、それに沿った日常生活上の支援を実施しました。

・ 利用者、家族が安心して地域生活を送るための相談支援を実施します。また、相談内容によっては、社協内部や外部の関係諸機関との連絡調整を行います。

【実績と成果】

・ 相談内容により、障がい児（者）地域生活・就業支援センターと連携し地域資源等の情報提供や連絡調整を行い、利用者やご家族が地域生活を安心して送ることができるよう相談支援を実施しました。

・ 養護学校等との実習や交流会、ボランティア受入等を通じ、地域との連携を深めるとともに、障がい児（者）地域生活・就業支援センターとの連携により、新規利用者の確保に努めます。

【実績と成果】

・ 支援学校との交流会参加や地域のボランティアを積極的に受け入れ、地域との連携を図りました。また、障がい児（者）地域生活・就業支援センターとの連携により、新規利用者を2名確保することができましたが、施設入所等により、4名の退所者があったため契約者数は前年度より2名減となりました。

緊急一時保護事業

- 事前登録者を対象として、在宅家庭で、冠婚葬祭その他の理由により介護が困難となった場合、一時的に保護します。なお、一時保護は、午前9時から午後8時まで。

【実績と成果】

- 平成30年度の利用はありませんでした。

(2)	福祉避難所としての役割	取組項目	④

- 災害時、市と協定を締結した4施設のうちの1施設として、市の要請により福祉避難所を開設し、市と協力して円滑な運営に取り組みます。

【実績と成果】

- 平成30年度に福祉避難所としての開設要請は、ありませんでした。
  引き続き、川西市と協力し円滑な運営に取り組みます。

(1)障害福祉サービス事業　生活介護事業

内容

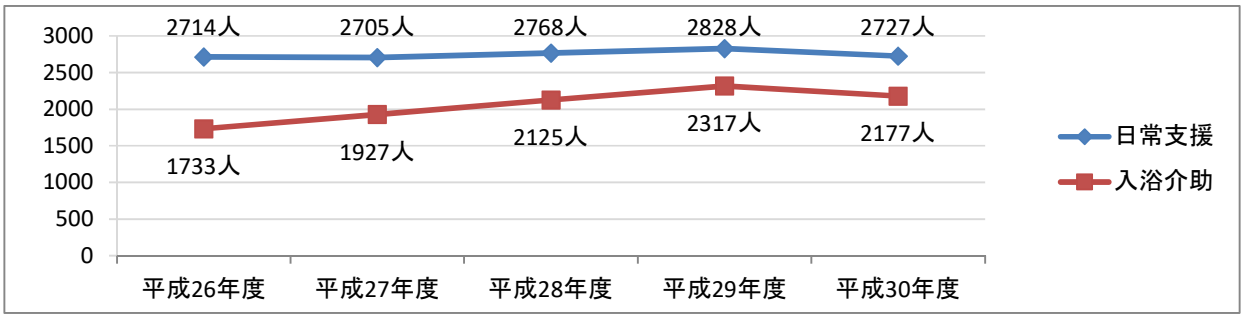
①契約人数(3月31日現在)　(定員 : 20人)

	男	女	計
人数	7人	14人	21人

内容

②事業実施日数及びサービス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	21日	22日	22日	21日	23日	17日	23日	22日	20日	20日	20日	21日	252日
日常支援	231人	260人	241人	236人	262人	182人	234人	243人	209人	213人	210人	206人	2727人
入浴介助	186人	200人	206人	194人	216人	160人	174人	172人	152人	161人	175人	181人	2177人
送　迎	445回	507回	465回	461回	511回	352回	451回	469回	405回	413回	405回	391回	5275回



内容

③主な社会参加・啓発事業

実施月	行事名	参加人数	場所・内容　等
7月	川西養護学校交流会	12	川西養護学校・レクリエーション
8月	ハッピーカーニバル	14	ひまわり荘内・デザート作り・ジュニアコーラス
10月	みんなの体育祭	9	川西市総合体育館
12月	クリスマス会	9	ひまわり荘内・デザート作り・ゴスペル
1月	新春散歩(多田神社)	10	多田神社参拝
1月	肢体不自由児者美術展	4	兵庫県肢体不自由児者美術展に出展

(2)緊急一時保護事業

内容

①保護登録者数(3月31日現在)

冠婚葬祭その他の理由により、一時的に家族が介護できなくなった障がい者(児)について、宿泊を伴わない1日単位での一時保護を実施します。

実施状況

平成30年度の実績はありませんでした。

G1	障がい児施設	決算科目	川西さくら園

主な事業内容・成果

児童発達支援では、園児一人ひとりの発達段階を正しくとらえ、保育・リハビリ職員によるチームアプローチを実施し、園児が心身ともに健やかに過ごせるよう支援しました。保護者に対しても、日常的な相談のほか、定期的な面談や研修会の実施などを通しての支援を実施しました。

また、保育所等訪問支援事業や障害児等療育支援事業、相談支援事業を通して、地域の子どもたちの支援にもあたりました。さらに、職員を地域の会議や研修会に派遣することを通してセンターの機能を地域に還元するよう努めました。

今後の課題

① 保育士・児童指導員・リハビリ職員・相談員等職員個々のスキルをさらに高めていく研修のあり方を工夫する必要があります。

② 児童発達支援では、保護者同伴通園が基本となっていますが、保護者負担をさらに軽減することが必要になってきています。

③ 相談支援事業では、増加する一方の相談者への対応をどのように工夫していくのか市役所・他相談支援事業所と協議しながら進めていく必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	191,248,800	200,009,272	8,760,472
受託金収入	69,182,544	74,584,306	5,401,762
障害福祉サービス等事業収入	121,571,246	125,067,629	3,496,383
その他	495,010	357,337	△ 137,673
（支　　出）	191,422,180	200,009,272	8,587,092
人件費	159,273,578	164,859,965	5,586,387
事業費	16,148,515	18,018,969	1,870,454
事務費	8,863,477	9,395,480	532,003
その他	7,136,610	7,734,858	598,248

当期資金収支差額	△ 173,380	0	173,380
前期末資金収支残高	17,248,732	17,075,352	△ 173,380
当期末支払資金残高	17,075,352	17,075,352	0

主な増減理由

① 受託金収入は、県受託金収入の増加による増

② 障害福祉サービス等事業収入は児童発達支援にて出席率68％の見込みが74．2％になったことによる増

③ 事業費は、経年劣化に伴う事務消耗品費の増加等に伴う増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

児童発達支援（定員50名）・保育所等訪問支援・相談支援

- 児童発達支援事業においては、園児の特性を的確に把握し、療育（保育・リハビリ）を実施し、子どもたちが心身ともに健やかで意欲ある生活が送れるよう支援します。また、保護者同伴通園の特性を生かし、保護者の相談に応じるとともに、発達相談・心理相談・研修会の実施など保護者支援にも力を入れます。

【実績と成果】

- 4月末で作業療法士の欠員等の課題はありましたが、今年度も保育・リハビリ職員によるチームアプローチを実施し　園児の支援にあたりました。保護者に対しては、日常的な相談に応じるとともに、個別面談・発達相談・心理相談を実施したり、外来の講師や職員を講師とした研修会を年間16回実施しました。また、保護者負担を軽減するため、レスパイトや単独通園を前年よりも時期を前倒しして実施しました。

- 保育所等訪問支援事業・療育等支援事業等を通して地域の子どもたちへの支援を充実させます。

【実績と成果】

- 保育所等訪問支援は、年間73件、障害児等療育支援事業は、在宅支援（地域巡回型）が年間253件、施設支援が年間102件となりました。保健センターや地域の保育所・幼稚園・認定こども園・小学校へ職員を派遣し地域の子どもたちのへの支援が実施できました。

・ 相談支援事業では、行政をはじめ福祉サービス事業所や医療・福祉・教育等関係機関との連携を深め、対象となる子どもを適切にサポートできるよう努めます。

【実績と成果】

・ 相談支援事業では、福祉サービスをご利用になる方への計画相談のほか、計画に結びつかない一般相談や困難ケースへの対応を行いました。困難ケースへの対応では、医療・福祉・教育の関係機関と連携し解決に向けて支援を実施しました。

・ 実習生・ボランティア・見学者を積極的に受け入れ、地域に開かれた施設をめざします。

【実績と成果】

・ 見学者やボランティアはもとより、保育や社会福祉士養成課程の学生や、市役所職員、教員を対象とした実習、トライやるウイークでの中学生の実習や高校生のインターンシップ実習を積極的に受け入れました。延べ受け入れ人数は、219名となりました。

・ 支援児保育部会・要観察児親子教室・就学相談委員会・市運動発達相談・町発達療育相談や地域での研修会等に職員を派遣し、センター機能の地域への還元に努めます。また、地域の方を対象とした研修会を今年度の新たな事業として実施します。

【実績と成果】

・ 支援児保育部会・要観察児親子教室・就学相談委員会・市運動発達相談・町発達療育相談や地域での研修会等に職員を派遣し、センター機能の地域への還元に努めました。平成30年度は、教育支援センターとの共催で社協職員や地区福祉委員、教員を対象とした研修会を7月18日に実施しました。

（1）入退園・利用状況　（定員 ： 50人）

内容

川西さくら園の平成30年度入退園児数は、入園児童28人、退園児童30人であり、3月末日現在では、39人が在籍しています。

（単位 ： 人）

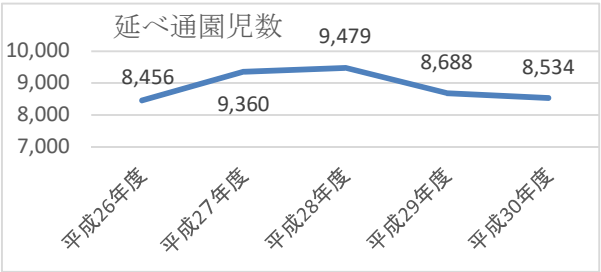
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍者数	52	53	55	58	58	61	63	63	65	66	69	69
月末在籍者数	52	53	55	58	58	61	63	63	65	66	69	39
入園児数	11	1	2	3	0	3	2	0	2	1	3	0
退園児数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30

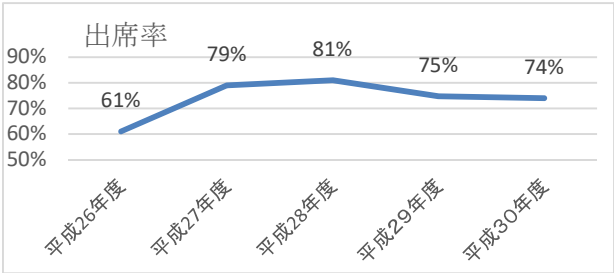
（2）出席状況

内容

開園日数は230日、川西さくら園の出席率は74．2%となりました。　（単位 ： 人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開園日数	18	22	20	20	18	16	22	21	18	18	20	17
延通園人数	641	789	790	724	605	608	793	801	691	664	760	668





（3）日常生活動作別状況(3月1日現在)

内容

①移動

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
ねたきり	0	2	5	1	0	1	0	9
ねがえり可	0	1	1	2	2	0	0	6
はいはい	0	0	1	2	0	0	0	3
つたい歩き	0	0	1	1	0	0	0	2
独　　歩	0	1	10	10	9	10	9	49
計	0	4	18	16	11	11	9	69

内容

②食事

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
全介助	0	3	8	10	1	2	2	26
一部介助	0	1	10	6	10	9	5	41
自　　立	0	0	0	0	0	0	2	2
計	0	4	18	16	11	11	9	69

内容

③着脱衣

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
全介助	0	4	17	13	7	4	3	48
一部介助	0	0	1	3	4	6	5	19
自　　立	0	0	0	0	0	1	1	2
計	0	4	18	16	11	11	9	69

内容

④排泄

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
全介助予告無	0	4	18	14	9	7	1	53
全介助予告有	0	0	0	0	0	0	1	1
一部介助	0	0	0	2	2	3	6	13
自　　立	0	0	0	0	0	1	1	2
計	0	4	18	16	11	11	9	69

内容

⑤会話

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
話せない	0	4	15	12	6	4	6	47
数語程度	0	0	3	3	4	6	2	18
わかりにくい	0	0	0	1	1	0	1	3
会話可	0	0	0	0	0	1	0	1
計	0	4	18	16	11	11	9	69

（4）病類別・診断別・性別・障がい度別状況（3月1日現在）

内容

①年齢別・性別状況

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
男	0	2	15	14	8	7	6	52
女	0	2	3	2	3	4	3	17
計	0	4	18	16	11	11	9	69

内容

②障がい・障がい度別状況

（単位：人）

	プラダーウイリー症候群	ダウン症	自閉症	脳性まひ	運動発達遅滞	発達遅滞	精神運動発達遅滞	ウエスト症候群	自閉症スペクトラム	言語発達遅滞	発達障害	精神発達遅滞	知的障がい	急性脳症	コルネリア・テ・ランテ症候群	低酸素性虚血性脳症	軟骨無形性証	その他	計
軽度	0	5	9	0	0	5	0	0	0	1	10	2	2	1	1	0	0	1	37
中度	0	1	6	0	1	4	1	0	2	0	2	1	1	0	1	0	1	1	22
重度	1	1	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	10
計	1	7	15	3	2	9	1	1	2	1	12	3	3	1	2	1	1	4	69

（5）行事報告

内容

実施日	行事名	場所(園外)・内容
5月 18日	保護者研修会	保育で大切にしていること
19日	保護者研修会	こどもとことば
5日～17日	さつまいも苗植え	
6月 1日	うんどうかい予行練習	
10日	うんどうかい	
15日	保護者研修会	更衣動作について
19日	保護者研修会	子どもたちの理解と支援
19日・29日	延長保育	
7月 21日	なつのつどい	
13日	保護者研修会	次のステップに向けて
19日	歯科講話	
30日	保護者研修会	サポートブックについて
13日・30日	延長保育	
8月 3日	保護者研修会	食事動作について
7日・31日	延長保育	
10日	みんなであそぼう	
21日	療育研修会	
9月 6日	みんなであそぼう	
7日	園外療育	
13日	保護者研修会	食事について
14日	手をつなぐ育成会との交流会	
21日	保護者研修会	偏食について
10月 12日	クラス別園外療育（うさぎ・りすクラス）	平井車庫
15日～18日	さつまいも掘り	
18日	歯科講話	
19日	ペアレントトレーニング①	
24日	ペアレントトレーニング②	
26日	クラス別園外療育（いぬクラス）	
26日	クラス別園外療育（ぞうクラス）	
28日	療育参観日	
11月 2日	さつまいもパーティー	
9日	給食バイキング	
12日	うさぎクラス交通安全教室	
12月 14日	おたのしみ会	
1月 18日	給食模擬店（バイキング）	
25日	給食模擬店（バイキング）	
26日	療育参観日	

2月　1日	うさぎクラスクッキング保育	
5日・7日	給食親子ランチ	
22日	うさぎクラスクッキング保育	
23日	保護者研修会	ほめるためのひと工夫
28日	保護者研修会	こどもとことば
3月　8日・14日	こまあそび	
26日	おわかれかい	

その他　月1回　ひよこのつどい（お誕生日会）、避難訓練

（6）診察状況

内容

	小児科	整形外科	精神科	眼科	耳鼻科	歯科
診察回数（回）	12	0	12	2	2	3
診察延人数（人）	177	0	172	69	58	88

（7）外来専門医等による指導

内容

	児童精神科	小児神経科	理学療法	作業療法	言語聴覚	心理	計
指導回数（回）	12	5	50	3	65	52	187
延人数（人）	84	15	142	4	196	98	539

（8）保育実施人数

内容

（単位：人）

	個別活動	グループ活動	散　歩	課題別療育	個人面談	交流保育
延人数	1,442	24,340	895	687	211	143

（9）訓練実施人数

内容

（単位：人）

	理学療法	作業療法	言語聴覚	グループ	姿勢保持具・自助具製作及び修理
延人数	480	473	536	260	112

（10）看護業務実施人数

内容

（単位：人）

	視　診	投　薬	処　置	病院付添	身体計測	検　尿	ｶﾘｵｽﾀｯﾄ
延人数	8,056	16	330	2	478	47	33

（11）給食

内容

①給食数（カッコ内は、アレルギー食を再掲）

（単位：食）

	普通食	刻み食	ミキサー食	合　計
延食数	7,028（359）	368(56)	121(15)	7,517（430）　食

内容

②1日当り給食数・1日当り単価

1日当たり給食数	36.2　食	1日当たりの給食単価	284円

（12）来訪者状況（延べ人数）

内容

（単位：人）

	視察見学者	ボランティア	実習生	トライやる	その他	合　計
延人数	36	77	51	46	9	219

（13）障害児等療育支援事業

内容

①在宅支援訪問療育等指導事業（県受託契約件数220件）

在宅障がい児を対象に、保育士等が家庭等に出向いて療育及び相談や助言等による支援を行いました。

	訓　練	保　育	合　計
延人数	16	224	240　人

内容

②施設一般指導事業（県受託契約件数96件）

保育所・幼稚園・小学校の職員を対象に、児童とのかかわり方等についての相談や助言を行いました。

	訓　練	保　育	その他	合　計
延人数	34	53	9	96 人

平成30年度の主な施設支援先

施　設　別	名　　称	
市町	川西市	保健センター 川西市立・私立保育所支援児保育部会
	猪名川町	発達相談
小学校	川西市立	東谷小学校 桜ヶ丘小学校 川西北小学校 緑台小学校 けやき坂小学校 多田小学校 陽明小学校 明峰小学校
保育所	川西市立	川西保育所 加茂保育所 多田保育所 川西中央保育所 川西北保育所 小戸保育所
保育所(民間)		かわにしひよし保育園 川西共同保育園 畦野子どもの里保育園 星児園　七夕 パステル保育園 多田子どもの森保育園
幼稚園	川西市立	久代幼稚園 加茂幼稚園 清和台幼稚園 川西幼稚園 多田幼稚園 東谷幼稚園
	私立	藤ヶ丘幼稚園
	猪名川町立	松尾台幼稚園
こども園	川西市立	牧の台みどりこども園
特別支援学校	川西市立	川西養護学校
	兵庫県立	こやの里特別支援学校

（14）相談支援

内容

①相談・支援利用者の状況

（単位：人）

項　　目	障がい児
①福祉サービスの利用援助	4,988
②社会資源を活用するための支援	0
③社会生活力を高めるための支援	1,273
④ピアカウンセリング	4
⑤権利擁護のために必要な援助	2
⑥専門機関の紹介と連絡調整	6,392
⑦サービス等利用計画の作成・管理	1,565
合　　計	14,224

内容

②相談方法

（単位：人）

電話相談	8,721
FAX・メール相談	17
来所相談	1,444
訪問相談(施設訪問も含む)	2,106
その他	369
合　　計	12,657

内容

③実相談者数

（単位：人）

男　　性	2,882
女　　性	1,006
不　　明	2
合　　計	3,890

内容

④障がい度別相談状況

（単位：人）

障がい度	男性	女性	合計
療育手帳 A	1,037	639	1,676
療育手帳 B1	552	187	739
療育手帳 B2	2,201	555	2,756
非所持者	5,414	1,833	7,247
不明者	185	54	239
合　　計	9,389	3,268	12,657

(15)保育所等訪問支援

内容

保育士・専門職が、保育所・幼稚園・小学校などを訪問し、先生方と調整しながら、対象児童が環境に適応できるよう支援しました。

①面談・訪問件数

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
面談	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4
訪問	6	8	6	6	3	10	5	4	2	7	7	5	69

内容

②訪問場所

小学校　明峰小学校・牧の台小学校・東谷小学校・桜ヶ丘小学校
保育園　かわにしひよし保育園・川西共同保育所・星児園七夕・畦野こどもの里保育園
こども園　牧の台みどりこども園
幼稚園　川西幼稚園

G2	障がい児施設	決算科目	さくらんぼ

主な事業内容・成果

利用児が日常生活における基本動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、子どもたちの発達状況に即した支援を実施しました。また、今年度からペアレントトレーニングを実施するなど、保護者支援にも力を入れました。

今後の課題

① 保育士・児童指導員の欠員の補填が困難な状況にあります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	34,539,226	31,572,886	△ 2,966,340
障害福祉サービス等事業収入	28,970,280	24,500,788	△ 4,469,492
その他	5,568,946	7,072,098	1,503,152
（支　　出）	34,539,226	31,572,886	△ 2,966,340
人件費	30,671,812	28,944,736	△ 1,727,076
事業費	2,120,844	1,784,617	△ 336,227
事務費	1,522,838	843,533	△ 679,305
その他	223,732	0	△ 223,732

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由

①障害福祉サービス等事業収入は、児童発達支援の出席率85％の見込みが65．6％にとどまったことによる減

②人件費支出は、非常勤職員の欠員に伴う減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

児童発達支援（定員25名）・放課後等デイサービス（10名）

・ 利用児一人ひとりの発達段階を的確に把握し、個別支援計画に基づき支援を行い、利用児のスキルの向上をめざすとともに、保護者に対しても、日々の相談や心理相談・研修会等を実施し、保護者同伴通園の利点を生かした保護者支援を行います。 また、放課後等デイサービスでは、園外活動の充実を図ります。

【実績と成果】

・ 利用児の発達段階に合わせたカリキュラムを作成し、体系的に実施することにより療育の効果が得られるよう配慮しました。保護者に対しても日常的な相談、年2回の面談のほか、心理相談や研修会の実施により支援を実施しました。放課後等デイサービスでは、今年度も園外活動にも力を入れ、利用児の社会体験が広がるよう支援しました。

・ 見学者等を積極的に受け入れ地域に開かれた施設をめざすとともに、地域の研修会等への職員の派遣を行い施設機能を地域に還元します。

【実績と成果】

・ 見学者等を積極的に受け入れ施設の情報を発信しました。また、特別支援教育相談連携会議や5歳児発達相談等への職員の派遣を行い施設機能を地域に還元しました。

・ ひょうご発達障害者支援センタークローバー宝塚ブランチの指導のもとペアレントトレーニングを実施します。また、外来講師を招いての研修会の回数を増やし充実させます。

【実績と成果】

・ クローバー宝塚ブランチの指導のもと、保護者に対するペアレントトレーニングを実施しました。来年度以降も継続して実施していく予定です。また、外来講師を招いての保護者研修会も実施し保護者支援を行いました。

（1）入退園・利用状況　（定員 ： 児童発達支援 25人、放課後等デイサービス 10人）

内容

児童発達支援　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者数	103	117	119	120	122	122	119	117	114	112	110	110	1,385
月末在籍者数	117	119	120	122	122	119	117	114	112	110	110	102	1,384
登録者数	14	4	5	7	3	2	3	6	3	2	1	0	50
解除者数	0	2	4	5	3	5	5	9	5	4	1	8	51

放課後等デイサービス　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者数	96	115	113	112	110	112	110	109	107	107	104	101	1,296
月末在籍者数	115	113	112	110	112	110	109	107	107	104	101	100	1,300
登録者数	19	3	1	0	3	0	1	1	1	1	0	1	31
解除者数	0	5	2	2	1	2	2	3	1	4	3	2	27

（2）出席状況

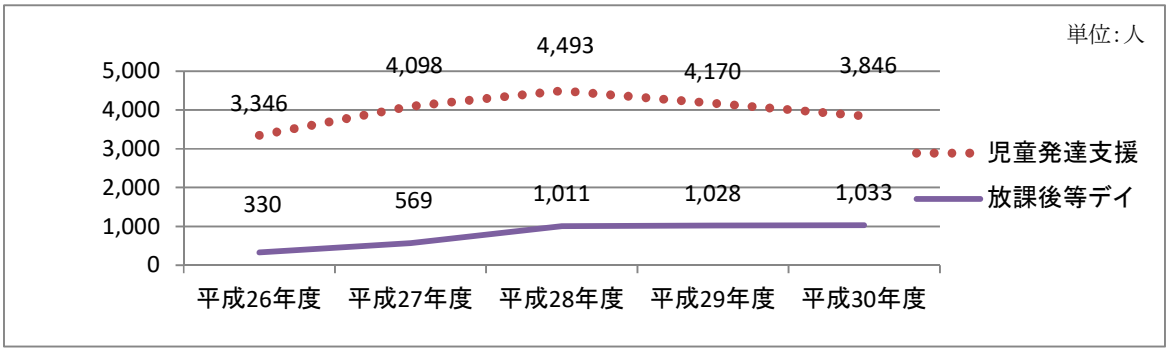
内容

児童発達支援（開所日数234日、1日平均出席者は16.4人）　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	20	21	20	20	18	17	22	21	19	19	19	18	234
延利用人数	330	356	337	334	303	311	364	320	319	307	310	255	3,846
1日平均利用人数	16.5	16.9	16.8	16.7	16.8	18.2	16.5	15.2	16.7	16.1	16.3	14.1	16.4

放課後等デイサービス（開所日数232日、1日平均出席者は4.4人）　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	20	21	20	19	17	17	22	21	19	19	19	18	232
延利用人数	81	82	95	101	71	64	97	99	91	80	87	85	1,033
1日平均利用人数	4.0	3.9	4.7	5.3	4.1	3.7	4.4	4.7	4.7	4.2	4.5	4.7	4.4



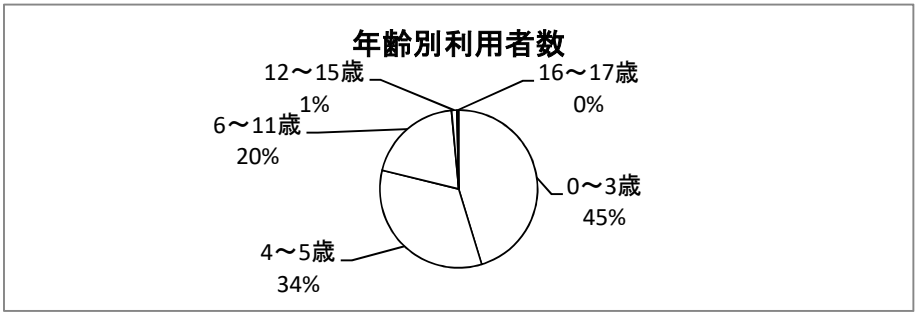
（3）延利用者年齢別・性別状況

内容

（単位：人）

	未就学(児童発達支援)		学齢児童以上(放課後等デイサービス)			計
	0～3歳	4～5歳	6～11歳	12～15歳	16～17歳	
男	1,414	1,352	666	38	8	3,478
女	796	284	295	17	9	1,401
計	2,210	1,636	961	55	17	4,879

（単位：%）



（4）相談別状況

内訳

（単位：人）

児童発達支援

	さくらんぼの利用について	子どもの対応について（幼稚園）	子どもの対応について（保育所）	その他	計
件数	51	7	14	257	329

放課後等デイサービス

	さくらんぼの利用について	子どもの対応について（学校）	子どもの対応について（学校以外）	その他	計
件数	10	13	0	116	139

（5）行事報告

内容

実　施　日	行　　事　　名	場所(園外)・内容
4月2日～6日・9日・12日	保護者説明会（児童発達支援）	保育室・児童発達支援について
5月7日・9日・10日・11日	保護者研修会（児童発達支援）	KIDS記入
7月23日	クッキング保育（児童発達支援）	保育室
7月17日～20日・30日	保護者勉強会（児童発達支援）	保育室・サポートファイル
8月1日～3日	保護者交流会（児童発達支援）	保育室
9月10日・11日・14日	保護者説明会（児童発達支援）	講座室
9月13日	歯科検診（児童発達支援）	保育室
10月11日・25日	ペアレントトレーニング（児童発達支援）	保育室
10月18日・23日・30日	グループ懇談会（放課後等デイサービス）	相談室
11月2日	園外活動（児童発達支援）	インスタントラーメン発明記念館
11月8日・22日	ペアレントトレーニング（児童発達支援）	保育室
11月19日～22日	保護者交流会（児童発達支援）	保育室
12月6日・20日	ペアレントトレーニング（児童発達支援）	保育室
12月10日～14日	懇談会（児童発達支援）	軽作業室又は保育室
12月25日・26日	おたのしみ会（児童発達支援）	保育室
12月27日・28日	クッキング保育（児童発達支援）	保育室
12月25日・26日	お買い物学習・クッキング保育（放課後等デイサービス）	関西スーパー・ハッピー川西・保育室
1月17日	グループ懇談会（放課後等デイサービス）	相談室
2月4日～8日	保護者懇談会（児童発達支援）	保育室・アンケート記入
3月14日	こまあそび（児童発達支援）	講座室
3月25日	園外活動（児童発達支援）	インスタントラーメン発明記念館
3月27日	ミニ運動会（児童発達支援）	加茂ふれあい会館
3月29日	クッキング保育（児童発達支援）	保育室
3月26日・28日	社会体験学習（放課後等デイサービス）	マルミエプラザ

H	満寿荘	決算科目	満寿荘

主な事業内容・成果

身寄りがなく、経済的困窮にある高齢者や身体・知的・精神障がいをもつ高齢者などがいきいきと自立した日常生活が送れるように支援しました。入所者の約4割が要介護・要支援の認定を受けておられ、特定施設として入所者の心身の状況や意向に沿ったサービス計画を作成し、訪問介護・通所介護等の外部サービスを適切に提供しました。入所者の行事への参加やボランティアの受け入れなど、地域住民との交流も積極的に行い生きがいある生活を支援しました。

今後の課題

① 高齢化に伴い、介護の重度化や認知症・精神疾患の利用者への対応の必要性が増加しています。時代の変化に対応していく職員体制の強化が必要です。

② 第三者評価を受診した結果からでた課題に対して職員で共有し、取り組んでいく必要があります。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	175,192,056	174,475,916	△ 716,140
受託金収入	56,962,824	57,381,442	418,618
介護保険事業収入	32,843,976	33,168,893	324,917
老人福祉事業収入	85,347,575	83,896,681	△ 1,450,894
その他	37,681	28,900	△ 8,781
（支　　出）	175,192,056	174,788,536	△ 403,520
人件費	91,415,573	92,924,908	1,509,335
事業費	32,179,443	30,284,847	△ 1,894,596
事務費	51,382,120	51,578,781	196,661
その他	214,920	0	△ 214,920

当期資金収支差額	0	△ 312,620	△ 312,620
前期末資金収支残高	19,202,048	19,202,048	0
当期末支払資金残高	19,202,048	18,889,428	△ 312,620

主な増減理由

① 収入は、介護保険利用者数及び措置費の減少による減

② 人件費は、職員異動による増

③ 事業費は、水道光熱費支出の減

④ 当期資金収支差額は、第三者評価受審料による増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

養護老人ホーム（50人定員）/特定施設入居者生活介護事業/訪問介護事業

・ 入居者の意思を尊重し、いきいきと生きがいのある心豊かな自立した生活が送れるよう支援します。また、入居者が施設外の介護保険サービスを利用しながら、安心して生活が送れるよう援助します。

【実績と成果】

・ 個別サービス計画をもとに、入居者の心身の状況、生活習慣や望む生活等を理解し、一人ひとりの自律、自立に配慮した個別支援を行いました。

・ 年1回のアンケートや月1回の行事説明会においては入居者からの意見・要望を聴き取り、入居者主体の支援を行いました。また、必要に応じ成年後見制度等を活用し、入居者の権利擁護に努めました。

・ 要介護認定・要支援認定を受けた入居者に対して、個別サービス計画をもとに、訪問介護・通所介護などの外部サービスを適切に提供しました。

・ 自治会や幼稚園との行事を通じた地域交流を深め、クラブ活動やレクレーションなどのボランティア受入れを継続し、施設利用者の主体的な生活を地域で支える関係作りに取り組みます。
また、施設スペースの開放や、トライやる・ウィーク受入れなどを通して、施設が持つ資源の活用に努めます。

【実績と成果】

- 地元幼稚園との七夕まつり、自治会との共催による夏祭り、クラブ活動におけるボランティアグループの定期的な来所を通じ地域との交流を図りました。
- 施設行事等で地域ボランティアを受け入れるとともに、地域の小中高に福祉体験学習や交流を行い、学校教育への積極的な参加を行いました。また、テニスコートを地域活動や夏祭り等に開放し、事業所が有する機能を地域に還元しました。

(2)	福祉避難所としての役割	取組項目	④

- 災害時、市と協定を締結した4施設のうちの1施設として、市の要請により福祉避難所を開設し、市と協力して円滑な運営に取り組みます。

【実績と成果】

- 災害時に備え、福祉避難所として円滑に運営できるよう、市と協力してマニュアルの作成などを提案していきます。

(1)入退所状況　(定員：50人)

内容

川西市及び他市町に入所依頼した結果、1人の入所がありましたが、長期入院や施設入所による退所者数が4人となり、3月末現在で男性15人、女性23人、計38人となりました。

(単位：人)

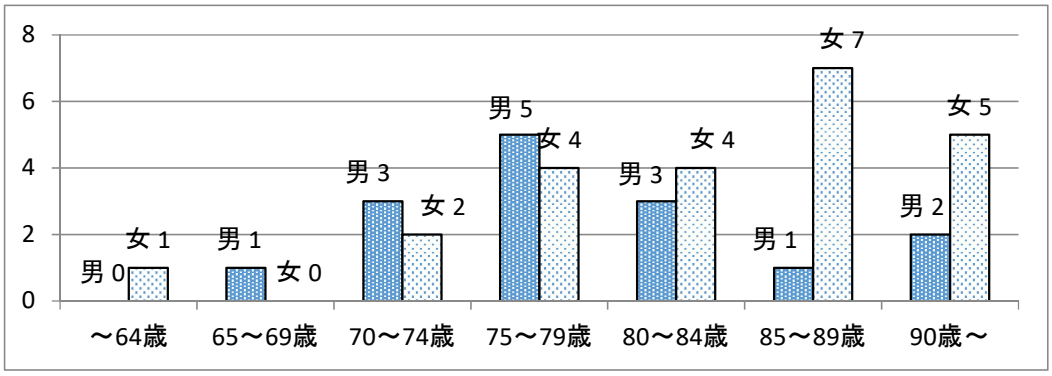
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者数	男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	女	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
月末者数	男	16	16	17	17	16	16	16	16	16	16	16	15	―
	女	25	25	25	25	25	25	24	23	23	23	23	23	―
	計	41	41	42	42	41	41	40	39	39	39	39	38	―

(2)年齢別入所者状況(3月31日現在)

内容

(単位：人)

	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計
男	0	1	3	5	3	1	2	15
女	1	0	2	4	4	7	5	23
計	1	1	5	9	7	8	7	38



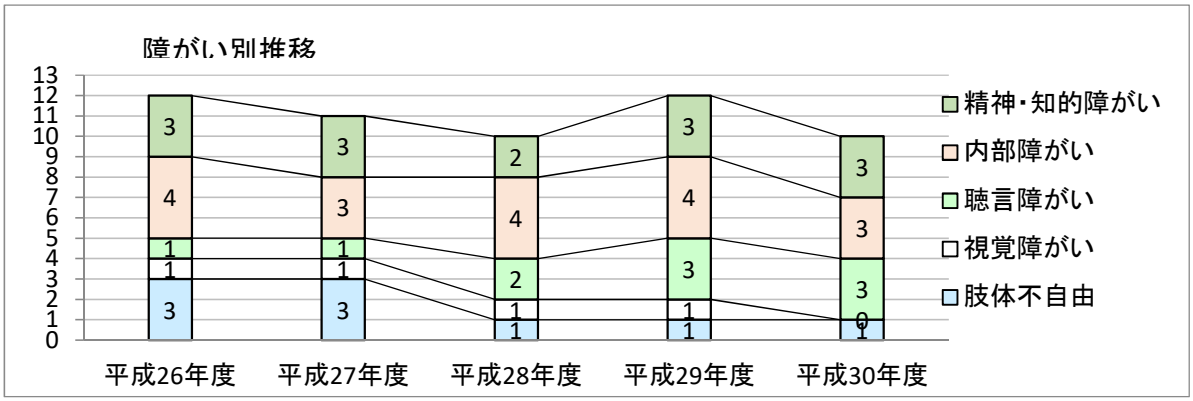
(3)障がい別入所者状況(3月31日現在)

内容

(単位：人)

	肢体不自由	視覚障がい	聴言障がい	内部障がい	精神・知的障がい	計
男	0	0	1	0	2	3
女	1	0	2	3	1	7
計	1	0	3	3	3	10

（単位：人）



（4）理由別退所者状況

内容

（単位：人）

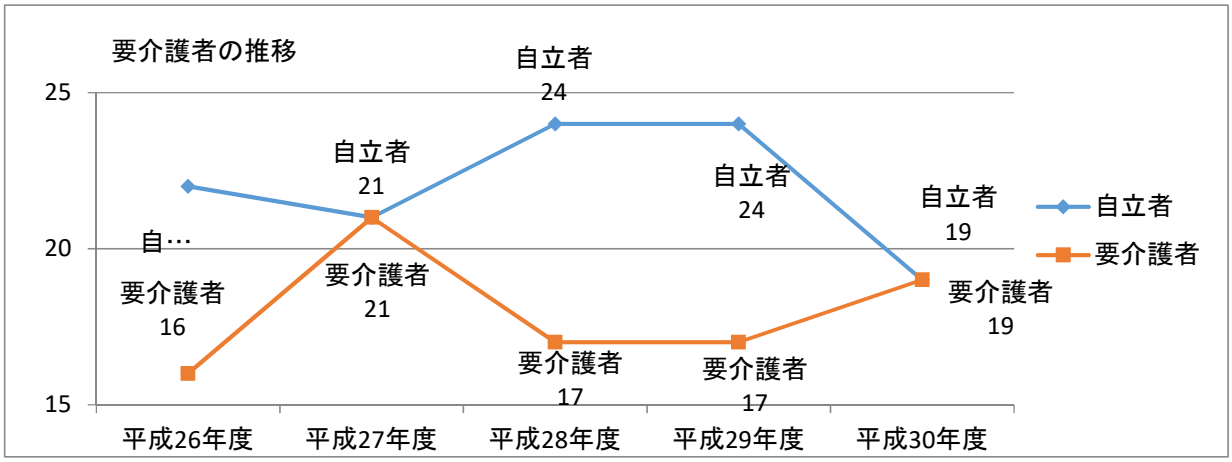
	親族引取	入院治療	特　養	老健施設	死　亡	在　宅	その他	計
男	0	2	0	0	0	0	0	2
女	0	1	0	0	0	1	0	2
計	0	3	0	0	0	1	0	4

（5）介護度別入所者状況（3月31日現在）

内容

（単位：人）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	3	2	1	0	0	6
女	2	0	5	3	2	1	0	13
計	2	0	8	5	3	1	0	19



（6）給食状況

内容

給食数は年間43,317食となり、月別では入院等によって変動しました。栄養量は基準どおりです。また、糖尿病食、減塩食、腎臓食など身体状況に応じた食事を提供しており、四季折々の行事食やにぎり寿司、ご当地メニュー、選択食など趣向を凝らした食事で入所者に喜んでいただきました。

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
給　食　数		3,644	3,778	3,689	3,709	3,786	3,685	3,810	3,630	3,474	3,378	3,185	3,549	3,610
一日当たり平均栄養量	カロリー	1,689	1,691	1,707	1,729	1,705	1,717	1,718	1,713	1,707	1,735	1,717	1,686	1,710
	蛋白質 g	58.2	58.4	58.5	58.8	57.2	57.8	57.9	58.0	57.1	58.9	57.5	57.3	58.0
	脂肪　g	39.6	40.5	41.0	44.0	41.7	40.2	40.7	41.4	41.1	41.3	41.2	38.5	40.9
1人1日当たり材料費(円)		797	804	809	803	829	794	804	805	798	782	821	808	805

(7)保健・診療状況

内容

外来診療は延べ988人が受診しました。主に内科、外科、整形外科です。
4月は嘱託医による血圧測定、聴打診を、10月は嘱託医のクリニックへ付添いのもと健康診断を実施しました。また、服薬管理が必要な利用者が増えたことにより、延べ147,699人の薬の確認及び仕分けを行いました。

（単位:人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
科目別人数	内　　科	0	5	1	0	1	1	3	1	5	6	2	1	26
	外　　科	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	整形外科	1	0	2	0	2	0	1	3	0	0	0	2	11
	脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	皮　膚　科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼　　科	0	1	2	0	0	1	0	0	3	0	0	2	9
	腎臓内科	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	その他	1	1	2	2	0	3	1	0	2	1	1	3	17
	嘱託内科	49	63	61	71	63	50	39	63	69	62	54	37	681
	嘱託心療内科	13	28	14	29	14	28	14	28	12	25	13	13	231
	合　計	65	100	86	103	80	83	58	95	92	97	71	58	988
病院入院者		2	3	3	2	2	1	1	2	6	3	4	2	31
医務室業務	投薬準備	13,571	12,352	10,315	10,427	9,431	9,736	22,452	13,478	12,934	11,808	10,901	10,294	147,699
	バイタル測定	200	157	205	146	207	160	182	155	196	212	197	214	2,231
	身体測定	20	0	40	39	42	39	35	40	37	33	35	0	360
	酸素濃度測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	処置	60	47	44	49	58	53	41	21	33	22	25	32	485
	検査	2	0	2	6	2	0	0	1	0	0	1	0	14
	遠赤外線照射	24	16	20	20	18	17	16	31	38	37	20	21	278
	予防接種	0	0	0	6	0	0	0	39	0	0	0	0	45
	健康診断	39	0	0	0	0	20	18	0	0	0	0	0	77
	合　計	13,916	12,572	10,626	10,693	9,758	10,025	22,744	13,765	13,238	12,113	11,179	10,561	151,190

(8)年金状況(3月31日現在)

内容

（単位：人）

年金受給者	30
無年金者	9

(9)葬祭等状況

内容

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
葬　儀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(10)来訪者状況

内容

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者親族	17	16	6	6	11	10	11	11	7	19	2	13	129
入所者知人	4	4	6	5	5	3	2	7	5	1	2	6	50
ボランテイア	33	29	27	30	11	26	34	23	31	25	24	39	332
行事参加者	0	12	60	60	600	26	0	0	70	0	0	1	829
その他	2	4	10	6	0	5	22	6	8	2	7	2	74
合　計	56	65	109	107	627	70	69	47	121	47	35	61	1,414

※その他・・・幼稚園児、トライやるウィーク中学生、福祉事務所、地域包括、
病院のケースワーカ、施設の相談員など

(11)ボランティアの状況

内容

ボランティア名	活　　動　　内　　容
七　種　　清	2ヶ月に1回来所し、理髪を実施
火　曜　会	毎月2回火曜日に来所し、入所者のよき話し相手
吟　睦　会	月1回来所し、詩吟・カラオケを指導
川西市いけばな協会	年2回行事前に来所し、花を生ける
織田　琴園	月1回来所し、生花を指導
中村時子・相田季久乃	月1回来所し、手芸を指導
川西市茶道協会	年1回来所し、お手前・作法の実施
矢野　啓子	月1回来所し、習字を指導
レインボー	年1回来所し、施設内の清掃を実施
新井　　晋	月1回来所し、俳句を指導
少林寺川西中部支部	年1回来所し、入所者と歌やゲームなどの交流をしたり、施設内の清掃を実施
伊藤　茂代	月1回来所し、茶道を指導
若曽根　初恵	月3回来所し、施設内の清掃を実施
日赤奉仕団	年1回来所し、健康体操を実施
尾市　雅子	月1回来所し、コーラスを指導
写真同好会	園内の写真展示
小林　洋子	月1回来所し、レクリエーションを実施
中野　新子	週2回来所し、シーツ交換や洗濯などの生活支援を実施

(12)月別行事

内容

4月　花見、自治会総会
5月　少林寺拳法交流会
6月　満寿荘まつり(創立記念行事)、川西市茶道協会、川西市いけばな協会、買物ツアー
7月　七夕祭(地域の幼稚園児との交流)、グルメツアー
8月　盆踊り(地域の自治会と共催)
9月　偲び献花、日赤奉仕団、敬老行事(エプロンシアター)
10月　運動会(地域の幼稚園児との交流)雨天のため中止、バーベキュー大会
11月　買い物ツアー
12月　クリスマス喫茶
1月　新年ドライブ(多田神社)、新年会
2月　節分祭
3月　ひな祭り茶会、にぎり寿司、買物ツアー

・その他の行事

誕生会・消防避難訓練・注文買物・トライやるウィーク・選択食・行事説明会・ラジオ体操・介護予防運動・栄養健康教室

・クラブ活動

生花・手芸・茶道・習字・コーラス・農園・俳句・吟睦会・レクリエーション・グラウンドゴルフ・カラオケ

I1	老人デイサービス	決算科目	緑台デイサービスセンター

主な事業内容・成果

当センターは、グリーンハイツ、平野、矢問、湯山台、大和地区の要支援者及び要介護認定者と契約し、ケアプランに基づいた通所介護及び予防通所介護サービスを提供しました。

市の方針により平成30年9月末をもって休所の方向となり、その旨を利用者やその家族、及び担当ケアマネジャーにご理解をいただけるように説明をさせていただき契約者の方々のスムーズな移行ができ、3月末で事業を廃止しました。

今後の課題

平成31年3月31日に事業を廃止しました。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	58,959,510	15,681,518	△ 43,277,992
受託金収入	26,284,965	7,099,788	△ 19,185,177
介護保険事業収入	32,605,013	8,572,504	△ 24,032,509
その他	69,532	9,226	△ 60,306
（支　　出）	58,959,510	25,785,115	△ 33,174,395
人件費	45,558,921	18,438,332	△ 27,120,589
事業費	7,645,236	4,173,923	△ 3,471,313
事務費	5,748,043	3,172,860	△ 2,575,183
その他	7,310	0	△ 7,310

当期資金収支差額	0	△ 10,103,597	△ 10,103,597
前期末資金収支残高	10,103,597	10,103,597	0
当期末支払資金残高	10,103,597	0	△ 10,103,597

主な増減理由

① 受託金収入及び介護保険事業収入は、平成30年9月末休止による減

② 人件費は、臨時職員退職等による減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

【利用者への支援内容】

- 生活支援 （生活相談、担当者会議等）
- 機能訓練 （口腔体操、軽運動、脳トレ、体操、軽作業等）
- レクリエーション （職員行事、ボランティアによる催し、風船バレー、落語等）
- 身体介護・生活介助（移動、入浴、食事、排泄等の介助）
- 健康チェック （利用日の健康状態のチェック、家族への助言）
- 入浴サービス 〔特浴（機械浴）、介助浴（一般浴）〕
- 給食サービス （個別対応食：普通食、一口大、刻み、ミキサー食）（行事食）
- 送迎 （基本はご自宅前まで送迎、必要に応じてベッドまで送迎）
- 介護方法の助言 （家族への支援）

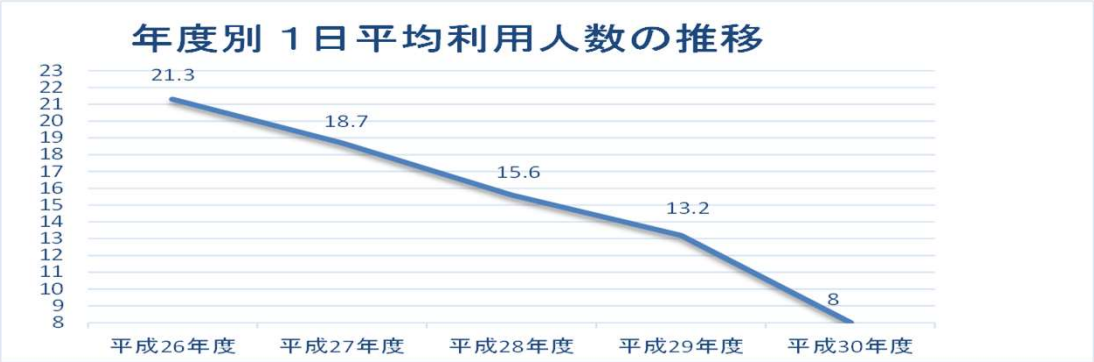
【実績と成果】

- 当施設では、利用者及び家族等からの相談に応じ、適切な助言又は援助を行いました。
- 機能訓練は、体操やゲーム・歌・手芸・ボランティアによる楽器演奏・落語などを実施し、楽しみながら心身機能の維持向上が図れるよう努めました。また、柔道整復師による機能訓練も実施しました。
- 介護サービスは、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所と連携をとりながら、日常生活の維持向上に必要な介護を個々にあった方法で実施しました。また、施設の様子を伝える「みどりのたより」を発行しました。

- 健康チェックは、看護職員が血圧・脈拍・体温等を測定し、身体状況を観察し、健康保持について助言を行いました。
- 送迎サービスは、利用者の身体状況やご自宅周辺の道路状況に配慮して、リフト車又は軽自動車を使用し、必要に応じてベッドまでの送迎も行いました。
- 入浴サービスは、身体状況やご希望に配慮しながら、特別浴槽と介助浴槽で実施しました。
- 食事は、栄養、味付け、形態（きざみ食・ミキサー食等）、適温に配慮しました。

（単位：人）

			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
月間利用延人数			253	260	209	180	145	120							1,167
1日平均利用人数			10.1	9.6	8.4	7.5	5.4	5.0							7.7
サービス別利用状況	給食サービス		253	260	209	180	143	145							1,190
	入浴	特別浴槽	129	134	120	111	113	89	10月以降休止						696
		介助浴槽	41	47	45	33	17	11							194
	生活指導		253	260	209	180	145	120							1,167
	機能訓練		253	260	209	180	145	120							1,167
	介護サービス		253	260	209	180	145	120							1,167
	健康チェック		253	260	209	180	145	120							1,167
	運動器機能向上		0	0	0	0	0	0							0
	送迎	リフト車①	31	38	43	36	96	104							348
		リフト車②	138	131	100	82	24	8							483
		軽バン	12	0	0	0	0	0							12
		軽リフト	67	81	59	60	23	8							298
	自家用車		5	10	7	2	2	0							26



- 上記の介護保険を主としたサービスに加え、ケアマネージャーと連携しながら民間サービスやボランティア活動、地域福祉活動などに適切につなぐことにより、施設利用者並びにその家族の主体的な生活を地域で支える関係作りを行っていきます。

【実績と成果】
- 利用者家族の将来の不安解消のためにNPO法人後見センター川西を紹介しました。

（2）	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②

- 施設職員もコミュニティワークの視点を持ち、「連携強化型相談窓口機能」における相談の入り口としての役割を担い、必要に応じて関係機関との連絡調整を行いながら、地域住民を身近で支える施設運営に取り組みます。

【実績と成果】
- 介護相談に訪れる方に施設の見学説明や、具体的な要介護認定の方法などを伝え、地域包括支援センター等の説明をしました。

（3）	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③

・ 福祉施設が持つ人材や専門的な知識を、出前講座やイベントなどに活用していきます。また、地域の行事へ参加して地域交流を図っていきます。

【実績と成果】

・ 中学生のトライやるウィークや教職員免許取得のための介護体験実習の受け入れをしました。

（4）	福祉避難所としての役割	取組項目	④

・ 災害時、市と協定を締結した4施設のうちの1施設として、市の要請により福祉避難所を開設し、市と協力して円滑な運営に取り組みます。

【実績と成果】

・ 災害発生時に福祉避難所として開設できるように移動式ボイラーの準備や、給食業者による食料確保体制の構築を進めました。

その他

事業項目	①セーフティネットとしのて役割

・ 利用時間や利用回数、必要な介護量等により、市内の他のデイサービスでは受入が難しい方にご利用いただくセーフティネットとしての役割を果たします。

【実績と成果】

・ 看護師による医療的対応が必要な方の移行に対しては、当所看護師が移行先の看護師と連絡を取り、具体的に対応方法を伝えて利用者の不安を解消しました。

I2	老人デイサービス	決算科目	久代デイサービスセンター

主な事業内容・成果

当センターは久代・東久代・加茂・下加茂・南花屋敷・花屋敷・小花・栄根・栄町・小戸・出在家地区の要支援者・要介護認定者と契約し、ケアプランに基づいた通所介護サービス及び介護予防型通所サービスを提供しました。また、他施設で受け入れ困難な利用者も受け入れ、利用者の皆様に満足いただけるよう専門性の高いサービスの提供に努めました。

平成30年度末での市の廃止の方針を受け、利用者及びその家族、担当ケアマネジャーにご理解いただけるように説明させていただき、皆様にスムーズな移行をしていただけました。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	68,715,063	50,194,192	△ 18,520,871
受託金収入	27,775,404	24,351,056	△ 3,424,348
介護保険事業収入	40,143,307	25,451,750	△ 14,691,557
その他	796,352	391,386	△ 404,966
（支　　出）	68,715,063	61,575,991	△ 7,139,072
人件費	51,246,437	44,525,086	△ 6,721,351
事業費	10,575,343	8,905,989	△ 1,669,354
事務費	6,862,835	7,268,817	405,982
その他	30,448	386,666	356,218
徴収不能額	0	489,433	489,433
当期資金収支差額	0	△ 11,381,799	△ 11,381,799
前期末資金収支残高	11,381,799	11,381,799	0
当期末支払資金残高	11,381,799	0	△ 11,381,799

今後の課題

平成31年3月31日に事業を廃止しました。

主な増減理由

① 受託金収入は、H30年度末廃止のため収入減
② 介護保険収入は、利用者減のため収入減
③ 人件費は、臨時職員の出勤減のため支出減
④ 事業費は、利用者減に伴い支出減
⑤ 事務費は、廃止に伴う解約等により支出増
⑥ 徴収不能額は、回収不能未収金の精算

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

【利用者への支援内容】
- 生活支援 （生活相談、担当者会議等）
- 機能訓練 （口腔体操、軽運動、脳トレ、体操、軽作業等）
- レクリエーション （職員行事、ボーリング、風船バレー、ボッチャ等）
- 身体介護・生活介助（移動、入浴、食事、排泄等の介助）
- 健康チェック （利用日の健康状態のチェック、家族への助言）
- 入浴サービス 〔特浴（機械浴）、介助浴（一般浴）〕
- 給食サービス （個別対応食：普通食、一口大、刻み、ミキサー食）（行事食）
- 送迎 （基本はご自宅前まで送迎、必要に応じてベッドまで送迎）
- 介護方法の助言 （家族への支援）

【実績と成果】
- 生活支援は、利用者及び家族からの相談に応じ、社会資源の活用など適切な助言または援助を行い、担当者会議に出席し、介護支援専門員と連携して利用者のニーズ把握に努めました。
- 機能訓練は、食前の口腔体操、専用スペースを使用した介護予防運動、ずんどこ体操を実施し、心身機能の維持向上を図りました。

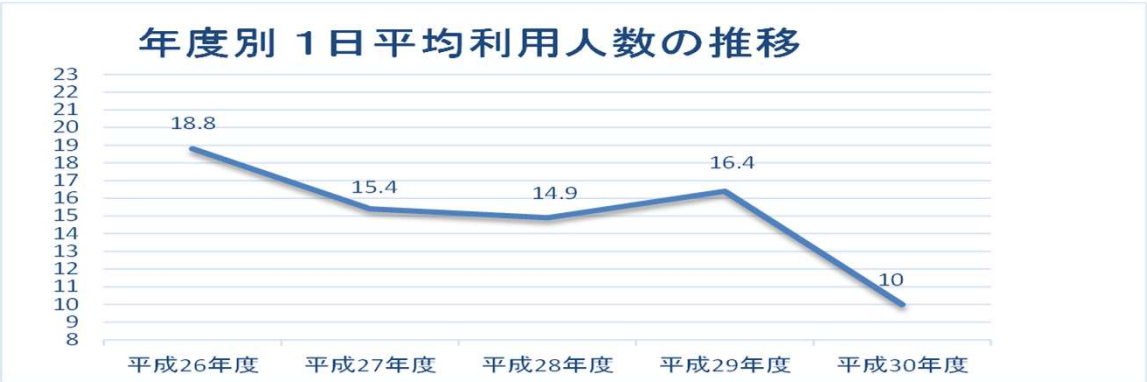
- レクリエーションは、機能回復を意識しながら充実を図り、施設内で実施するボランティア活動などの社会交流にも配慮をしました。
- 介護サービスは、個々の日常生活の維持向上に必要な介護を提供しました。また、デイ便りや利用日毎の連絡ノートを活用し、家族との双方向のコミュニケーションの充実に心がけました。
- 健康チェックは、看護師が利用者の血圧・脈拍・体温等を測定し体調を確認するとともに、身体状況を観察し、健康保持について助言を行いました。
- 入浴サービスは、看護師による体調確認の後、身体状況やご希望に配慮しながら、特別浴槽と介助浴槽を使って実施しました。
- 食事については、栄養、味付け、形態（きざみ食・ミキサー食等）、適温に配慮しました。また、利用者の要望を企画に入れ「花見弁当」、「敬老弁当」、「郷土料理」などを提供しました。
- 送迎サービスは、利用者の身体状況や周辺の道路状況に配慮し、リフト付ワゴン車、軽自動車、車いす対応軽自動車を使用し、必要に応じてベッドサイドまでの送迎を実施しました。レスパイトケアの観点からご家族の都合にも配慮し送迎時間・利用日の変更に柔軟に対応しました。
- 介護方法の助言は、利用者及び家族からの相談を受け、その負担の軽減や解消のため、介護方法や技術の助言を行いました。

【平成30年度利用実績表】

（単位 ： 人）

			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
月間利用延人数			368	358	331	305	351	290	305	280	196	130	80	74	3,068
1日平均利用人数			14.7	13.3	12.7	12.7	13.0	12.1	11.3	10.8	8.2	5.4	3.3	2.7	10.0
サービス別利用状況	給食サービス		368	357	331	305	351	290	305	280	196	130	78	74	3,065
	入浴	特別浴槽	143	135	144	141	160	140	140	133	114	91	63	50	1,454
		介助浴槽	179	178	144	126	148	110	131	127	58	28	12	14	1,255
	生活指導		368	358	331	305	351	290	305	280	196	130	80	74	3,068
	機能訓練		368	358	331	305	351	290	305	280	196	130	80	74	3,068
	介護サービス		368	358	331	305	351	290	305	280	196	130	80	74	3,068
	健康チェック		368	358	331	305	351	290	305	280	196	130	80	74	3,068
	運動器機能向上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	送迎	リフト車①	75	52	47	79	86	61	44	36	18	2	4	13	517
		リフト車②	67	51	71	63	78	54	55	57	32	24	12	16	580
		軽リフト	38	49	50	36	40	32	35	39	37	33	15	12	416
		タント	184	205	161	126	146	142	170	147	109	71	47	33	1,541
	自家用車		4	1	2	1	0	1	1	1	1	0	0	0	12
	内満寿荘		27	25	13	12	14	12	26	24	19	8	4	5	189

（単位：人）



- 上記の介護保険を主としたサービスに加え、ケアマネージャーと連携しながら民間サービスやボランティア活動、地域福祉活動などに適切につなぐことにより、施設利用者並びにその家族の主体的な生活を地域で支える関係作りを行っていきます。

【実績と成果】

- 利用者の社会交流を目的として施設行事に地域のボランティアを受け入れました。また、平成30年度末廃止の方針を受け、ご本人の希望や地域とのつながりを考慮に入れながら、廃止後の選択肢を利用者ご本人や家族と相談して、ケアマネジャー（介護支援専門員）につなぎました。

（2）	地域の福祉拠点としての取組	取組項目	②

・ 施設職員もコミュニティワークの視点を持ち、「連携強化型相談窓口機能」における相談の入り口としての役割を担い、必要に応じて関係機関との連絡調整を行いながら、地域住民を身近で支える施設運営に取り組みます。

【実績と成果】

・ 「連携強化型相談窓口機能」の取り組みを地域住民に向けた相談の入り口として担うべく上げましたが、デイサービスセンター廃止を受けて、地域住民を身近で支える取り組みまでは実行できませんでした。近隣の方で、デイサービスセンターはどんなところかと個別に施設を見学されたり、相談に来られる方はおられ、その都度、介護保険制度等の説明を行いました。

（3）	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③

・ 福祉施設が持つ人材や専門的な知識を、出前講座やイベントなどに活用していきます。また、施設スペースの開放や体験学習などを通して、地域交流を図っていきます。

【実績と成果】

・ デイサービスセンター廃止に向けた取組みに伴い、利用者の移行をスムーズに行うことを主な業務としたため、人材を地域交流に活用できませんでしたが、地域のボランティアグループや趣味活動のグループが施設慰問に来られたり、中学生のトライやるウィークや大学生がボランティア経験等で来られるなど、施設利用者と地域の交流は図れました。

（4）	福祉避難所としての役割	取組項目	④

・ 災害時、市と協定を締結した4施設のうちの1施設として、市の要請により福祉避難所を開設し、市と協力して円滑な運営に取り組みます。

【実績と成果】

・ 川西市久代デイサービスセンターとしては、市と協定を締結して以来、福祉避難所を開設するような災害はありませんでした。

その他

取組項目	①セーフティネットとしのて役割

・ 利用時間や利用回数、必要な介護量等により、市内の他のデイサービスでは受入が難しい方にご利用いただくセーフティネットとしての役割を果たします。

【実績と成果】

・ 30年度末にて廃止になる状況を受け、新規利用はほぼありませんでした。別施設への移行が進まない方や不安を持たれる方をスムーズに移行していただくために、近隣のデイサービスセンターに生活相談員が訪問し、施設の特徴や様子、入浴設備の形状等を視察し、ケアマネジャーと連携して、移行がスムーズにいくように努めました。

J1	老人福祉センター	決算科目	一の鳥居老人福祉センター

主な事業内容・成果

当センターは、地域の方々とふれあいながら、健やかに生活できるように、個人利用者は「憩いの場」として、趣味の会は「活動の拠点」として利用されています。

今年度は、高齢者の生きがいづくり等を支援するため、「絵手紙」と「グラウンドゴルフ」の定期講座を開講しました。

また、トイレ改修工事及び建物耐震補強工事により、2か月間休館となったため、総利用者数は、前年度と比較し大きく減少しました。(4,434人の減)

今後の課題

① 生活スタイルや高齢化による体調の変化等により利用人数は減少傾向にあります。

② 高齢者の関心が高い内容の行事や講座の実施や趣味の会グループの安定的な活動支援が必要です。

③ 浴場及び空調設備などの老朽化に伴う修繕が頻繁に発生しているため、川西市と協議しながら計画的、抜本的な改修等が必要です。

資金収支計算書決算額　(単位:円)

科目	平成29年度	平成30年度	増減
(収　　入)	16,422,864	16,501,701	78,837
受託金収入	16,110,807	16,498,091	387,284
その他	7,612	3,610	△ 4,002
固定資産売却収入	304,445	0	△ 304,445
(支　　出)	16,422,864	16,501,701	78,837
人件費	6,644,121	7,016,072	371,951
事業費	4,754,244	4,056,805	△ 697,439
事務費	4,715,854	5,425,305	709,451
その他	4,200	3,519	△ 681
固定資産取得支出	304,445	0	△ 304,445

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	3,348,267	3,348,267	0
当期末支払資金残高	3,348,267	3,348,267	0

主な増減理由

① 人件費は、時間給単価改正等による増
② 事業費は、休館による水道光熱費等の減
③ 事務費は、浴場機器等修理による修繕費の増
④ 固定資産売却収入・取得支出は、執行なしのため減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

・ 地域で暮らす高齢者の引きこもりを防止するためにも気軽にセンターを利用出来るよう新たな交流機会を創造するため各種講座を拡充し高齢者の生きがい作りを支援します。

【実績と成果】

・ 高齢者の生きがいづくりの支援及び親睦と健康増進を図るため、「絵手紙」と初心者対象の「グラウンドゴルフ」の定期講座を開催しました。

これにより、「グラウンドゴルフ」の講座受講生は、講座終了後、自主的に登録グループ(趣味の会)としての活動を始められ、また、長年、センター主催事業であった健康体操教室の利用者も登録グループ(趣味の会)として活動を始められたことにより、高齢者の生きがい作りの支援の成果が表れています。

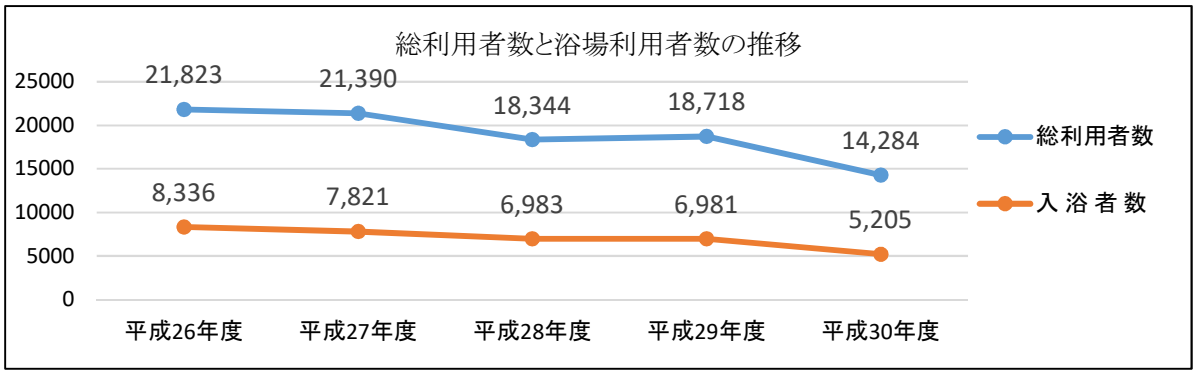
(1)利用者状況　(単位：人)

個人利用者数		南部地区			中部地区			北部地区			全地区		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	60歳代	27	117	144	182	52	234	457	389	846	666	558	1,224
	70歳代	291	254	545	281	48	329	1,122	1,446	2,568	1,694	1,748	3,442
	80歳代	80	33	113	236	66	302	733	938	1,671	1,049	1,037	2,086
	90歳代	0	0	0	2	0	2	6	32	38	8	32	40
	計	398	404	802	701	166	867	2,318	2,805	5,123	3,417	3,375	6,792

各種教室	0	趣味の会	6,591
各種行事	695	定期講座	206
貸し館	0		
総利用人数			14,284

個人利用者数(6,792 人)の内、浴場利用者数　　（単位 ： 人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
641	646	608	453	288	419	636	0	0	507	574	433	5,205



(2) 趣味の会利用状況

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
囲碁1	43	39	996
囲碁2	23	37	599
囲碁3	31	34	670
囲碁研究会	17	29	370
将棋	29	34	687
手芸	7	8	28
和太鼓(はごろも)	10	17	102
自彊術	41	19	471
謡曲	3	15	44
ゲートボール2	6	37	165
カラオケ(北摂会)	11	12	104
カラオケ(友愛会)	12	18	172
カラオケ(りんどう)	15	18	176
カラオケ(カトレア)	17	17	234
カラオケ(楽遊)	9	19	161
茶道	9	19	111
大正琴	6	15	70
表装	6	17	84
川西シルバー童唱会	19	19	246
男声合唱(ｺｰﾛ･ｺﾝﾊﾟｰﾉ)	13	18	179
漢詩吟詠会	7	16	90
パソコン(ﾐｯｷｰﾏｳｽ)	18	20	69
合唱(爺々ダックス)	11	0	0
筆ペン(のぎく)	9	19	119
楽しむフラダンス	10	18	150
健康体操(一の会)	42	11	276
ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ(ことぶき会)	22	18	218
計	446	543	6,591

(3) 定期講座受講状況　　（単位 ： 人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ	18	37	44	24	0	0	0	0	0	0	0	0	123
絵手紙	0	0	11	12	25	6	5	0	0	5	9	10	83
計	18	37	55	36	25	6	5	0	0	5	9	10	206

(4)その他行事等の開催状況

（単位：人）

開催月	開　催　内　容	参加人数
4月	グループ代表者会議（修繕・改修工事について）	24
5月	茶道講座（椅子席でのお茶・お菓子のいただきかた）	24
6月	健康講座（膝の痛みと運動）	33
7月	グループ代表者会議（和輪笑まつり打ち合わせ）	18
	健康講座（いま増え続ける大腸がんについて）	27
8月	第11回 和輪笑まつり（準備・開催2日）	461
9月	健康講座（出前健幸測定会 ～健康講和と体力測定 ～）	13
12月	グループ説明会（下駄箱・トイレ使用方法等 2回）	27
2月	歴史講座（多田地区の伝説と歴史、畝野牧を探る　2回）	46
3月	歴史講座（多田銀銅山の歴史）	22
計		695

J2	老人福祉センター	決算科目	緑台老人福祉センター

主な事業内容・成果

当センターは健康で明るく充実した生活を過ごしていただくことを目的に「個人でも気軽に利用していただける施設」となっております。

利用料が無料であり、入浴や健康機器（マッサージ器・スカイウェル【電位治療器】）が好評で、1人暮らしの方の生きがい、交流、居場所の一つとして利用される方が増えています。

介護予防に役立つ講座や介護相談にも積極的に取り組み、地域包括支援センター等との連携も図れました。

今後の課題

① 高齢化率や一人暮らしの方の増加に伴い介護予防に関する取り組みが必要です。

② 地域の各種団体と連携して安心して住み続けることが出来る地域をめざします。

③ 施設設備、浴場機器設備などの老朽化に伴う修繕が頻繁に発生しているため、川西市と協議しながら計画的な改修等が必要です。

資金収支計算書決算額　（単位:円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	19,183,566	24,310,319	5,126,753
受託金収入	19,182,226	24,306,579	5,124,353
その他	1,340	3,740	2,400
固定資産売却収入			0
（支　　出）	19,183,566	24,310,319	5,126,753
人件費	4,863,066	10,067,540	5,204,474
事業費	9,321,029	8,863,020	△ 458,009
事務費	4,999,471	5,379,759	380,288
その他			0
固定資産売却支出			0

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	4,092,023	4,092,023	0
当期末支払資金残高	4,092,023	4,092,023	0

主な増減理由

① 人件費は、デイ休止で人事異動による増

② 事業費は、修繕中の入浴事業日数減少、水道光熱費削減による減

③ 事務費は、施設設備、浴場機器等の修繕費の増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

・ 地域の高齢者の方々のニーズを把握し、心身機能の向上を図ることで、閉じこもりや社会的孤立を防ぎ、社会参加を図っていきます。生活相談、健康体操・健康講座の開催、趣味の会の活動支援、入浴サービスの実施、囲碁将棋、電位治療器、マッサージ器、機能回復コーナー等の提供を通じて高齢者の生きがい作りを支援します。

【実績と成果】

・ 自発的な有志の活動による、月1回の多彩なイベント開催が始められ、多くの利用者の新たな交流機会を作り、また高齢者の生きがい作りの支援の効果が表れています。

（1）利用者状況

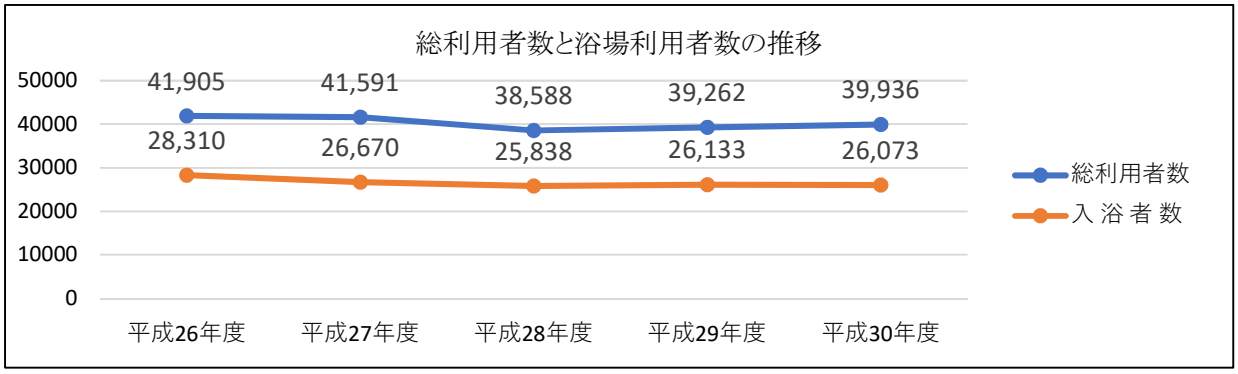
（単位 ： 人）

個人利用者数		南部地区			中部地区			北部地区			全地区		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	60歳代	18	240	258	1,640	2,388	4,028	371	188	559	2,029	2,816	4,845
	70歳代	933	292	1,225	6,763	5,430	12,193	1,145	942	2,087	8,841	6,664	15,505
	80歳代	518	353	871	7,991	3,528	11,519	348	118	466	8,857	3,999	12,856
	90歳代	16	5	21	287	146	433	17	6	23	320	157	477
	計	1,485	890	2,375	16,681	11,492	28,173	1,881	1,254	3,135	20,047	13,636	33,683

貸し室	531	趣味の会	4,890
各種行事	178	定期講座	379
各種教室	275		
総利用人数			39,936

個人利用者数(33,683 人)の内、浴場利用者数　　（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2,138	2,195	2,138	1,909	2,335	1,831	2,479	1,924	2,216	2,186	2,326	2,396	26,073



(2)趣味の会利用人数

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
俳句	15	21	216
生け花	13	21	215
GH盆踊り連	26	11	184
書道	11	23	150
卓球　福祉	23	24	348
卓球　りんどう	38	24	571
社交ダンス　福祉	23	22	422
フォークダンス	20	24	402
気功体操	28	22	459
墨彩画	10	20	134
健康麻雀の会	77	23	1,173
民舞	10	11	62
公民館　気功体操	23	3	38
公民館　健康麻雀	42	11	313
公民館　藤華会	10	5	49
公民館　さざなみ会	11	5	48
公民館　心のうた	16	10	106
計	396	280	4,890

(3)定期講座受講状況

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
囲碁初級講座	18	17	18	18	18	18	18	15	16	17	18	13	204
夢くらぶ				10									10
囲碁ペンギン						20	20	20	18	18	20		116
GH生活学校						12	9	11	5				37
きずな							7						7
脳トレ											5		5
計	18	17	18	28	18	50	54	46	39	35	43	13	379

(4)その他行事等の開催状況

（単位：人）

開催月	開　催　内　容	参加人数
4～3月	地区福祉委員会(貸室月1回)	200
4～6月	からだほぐし体操(月1回)	59
5～3月	ゆう倶楽部(ハワイヤンコンサート・ハンドチャイム演奏会・朗読会等の月1回)	331
7～3月	健康体操(月1回)	216
8月	健康講座(健康寿命をのばす体づくり)	26
10月	趣味の会　活動展(10日～26日)	110
2月	健康講座(出前健幸測定会 ～健康講和と体力測定 ～)	42
計		984

J3	老人福祉センター	決算科目	久代老人福祉センター

主な事業内容・成果

市内在住の60歳以上の老人を対象に健康の増進、教養の向上を図ることを目的に、講座・行事など老人福祉センターB型の事業を実施しました。児童センターとの併設である特色を活かし、児童、幼児とその保護者等との世代間交流行事を実施し、地域の高齢者と児童との心の交流を深めました。健康で明るい充実した生活を過ごしていただくため、身体や生活に密着した内容のテーマでセンターの主催講座を企画しました。身近な問題を取り上げ、利用者から高い評価を得ました。

今後の課題

① 施設利用者の高齢化が進むにつれて、体調の変化などを理由とする趣味の会の脱会など利用者の減少が続いています。

② 新たな利用者の参加を求め、ポスター掲示や口コミ依頼などによる啓発を継続するとともに、新規利用者獲得のための新しい取り組みが必要となってきています。

資金収支計算書決算額　（単位:円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	16,229,611	12,465,964	△ 3,763,647
受託金収入	16,226,321	12,462,464	△ 3,763,857
その他	3,290	3,500	210
（支　　出）	16,229,611	12,465,964	△ 3,763,647
人件費	13,699,884	5,888,134	△ 7,811,750
事業費	947,754	942,438	△ 5,316
事務費	1,581,973	1,365,619	△ 216,354
拠点区分間繰入金支出	0	4,269,773	4,269,773
その他			

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	1,662,257	1,662,257	0
当期末支払資金残高	1,662,257	1,662,257	0

主な増減理由

① 受託金収入は、総合職員異動対応による減
② 人件費は、総合職員異動による支出減
③ 拠点区分間繰入金支出は、総合職員異動対応による増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

【利用者への支援内容】
- 個人利用者（電磁治療器利用者等）への支援
- 趣味の会への支援
- 児童クラブの指導（囲碁クラブ、大正琴教室）
- 各種教室
- 健康相談

【実績と成果】
（1）利用者状況

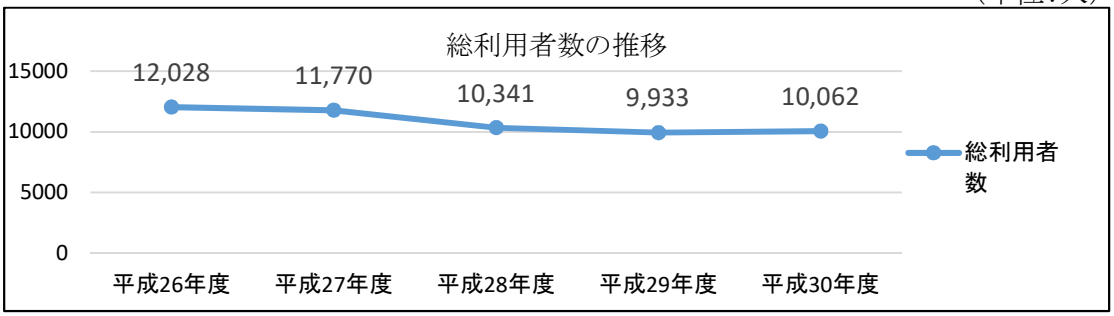
（単位：人）

		南部地区			中部地区			北部地区			全地区		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
個人利用者数	60歳代	83	624	707	0	0	0	0	0	0	83	624	707
	70歳代	272	1,787	2,059	0	0	0	0	0	0	272	1,787	2,059
	80歳代	269	1,012	1,281	0	0	0	0	0	0	269	1,012	1,281
	90歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	624	3,423	4,047	0	0	0	0	0	0	624	3,423	4,047

定期講座	452	世代間交流	355
趣味の会	4,495	各種行事	202
各種教室	227	その他（貸し部屋等）	284
総利用人数			10,062

・ 主な個人利用は、スカイウェル（交流電圧電位治療器）利用者です。グループは、20種類の趣味の会が利用され、各々生きがい作りや健康のための定期的な活動となっています。 また、久代児童センターとの併設を活かした”高齢者と児童とのふれあいの場”としての世代間交流事業では、囲碁や大正琴を児童に指導する各種教室などを実施しました。

（単位：人）



（2）趣味の会利用人数

	会員数	活動回数	参加人数
南りんどう（卓球）A	10 人	44 回	249 人
南りんどう（卓球）B	9	44	54
MTC（卓球）	16	23	182
卓球友の会	14	24	127
歌謡ダンス同好会	13	42	357
楽しむフラの会（フラダンス）	10	24	201
はつらつ会(体操)	21	23	378
ひまわり（骨盤体操）	22	24	347
シニアヨガ	21	23	411
碁友会（囲碁）	13	47	182
囲碁同好会	10	47	392
七草グループ（大正琴）	9	19	165
銀唱会（カラオケ）	13	22	196
センター会（カラオケ）	8	23	135
吟好会（詩吟）	5	22	88
すみれ会	9	23	184
なでしこ会（生花）	8	11	84
エコの会（エコクラフト）	10	21	131
将棋同好会	12	46	370
ダーツ愛好会	17	22	262
計	250	574	4,495

（2）	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③

【年間事業計画】
- 定期講座、教養講座（いきいき歌声講座年10回、シニア・ピラティス年18回、マジック講座年1回）
- 健康体操（月1回）
- その他の行事（敬老のつどい、カラオケグループ発表会、どんとまつり等）

【実績と成果】
- 今年度の定期講座、教養講座は、人気講座となり、年452人の参加者がありました。
- 健康体操は、毎年安定した利用があり、年227人の参加者がありました。
- 敬老のつどいは、世代間交流事業の位置づけで、幼児との交流と趣味の会の舞台発表を行い、155人の参加がありました。発表は、練習意欲に繋がっています。児童センター事業のクリスマス会や節分などにも世代間交流でお手伝いいただいています。

(3)定期講座受講状況

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
いきいき歌声講座				14	13	11	14	14	13	15	12	15	121
シニア・ピラティス	29	29	27			33	32	28		32	35	34	279
マジック講座												52	52
計	29	29	27	14	13	44	46	42	13	47	47	101	452

(4)その他行事等の開催状況

各種行事・その他（貸し部屋等）の開催内容は下記一覧表となりました。

（単位：人）

開催月	開　催　内　容	参加人数
4月	南りんどう（卓球）A、B総会	16
7月	健康講座（ファインクラブ）総会	29
8月	敬老のつどい代表者会議	7
11月	どんとまつり（作品展とバラエティーショー出演）	127
12月	あまゆーずコンサート	47
1月	カラオケ発表会（趣味の会2グループ、個人参加）	48
1月	百歳健康体操（南包括）地域住民参加の健康体操	33
2月	百歳健康体操（南包括）地域住民参加の健康体操	47
3月	百歳健康体操（南包括）地域住民参加の健康体操	67
3月	趣味の会グループの年度末総会3件	45
3月	健康相談事業「誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア」	20
計		486

K1	子育て支援事業	決算科目	久代児童センター

主な事業内容・成果

児童福祉法及び川西市条例に基づき、地域の児童を対象に健全な遊びを通して体力増進を図り、社会適応能力を高め、情操を豊かにするための支援を行いました。児童クラブ・幼児クラブ・母親クラブなどを実施し、地域の子育て支援へのニーズに対応しました。老人福祉センターとの併設である特色を活かし、地域の高齢者との世代間交流行事を実施し、心の交流を深めました。幼児・保護者の年間を通した利用者数は減少しましたが、児童の利用者数が増加しました。

今後の課題

① 児童センターからの情報や事業のPRを、川西市の広報紙に掲載していただくだけではなく、もっと地域の子育て世代に伝わるようにしなければならないという課題があります。また、事業内容の充実も図りたいと考えています。

② 施設の設備・備品の経年劣化が進んでいます。30年度は、前年度と比較し修繕費が減少しましたが、計画的な修繕が必要です。

資金収支計算書決算額　（単位：円）

科目	平成29年度	平成30年度	増減
（収　　入）	16,245,220	19,935,831	3,690,611
受託収入	16,200,720	15,621,558	△ 579,162
その他	44,500	44,500	0
拠点区分間繰入金収入	0	4,269,773	4,269,773
（支　　出）	16,245,220	19,935,831	3,690,611
人件費	12,958,043	17,035,403	4,077,360
事業費	1,434,828	1,305,170	△ 129,658
事務費	1,852,349	1,595,258	△ 257,091

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	1,694,241	1,694,241	0
当期末支払資金残高	1,694,241	1,694,241	0

主な増減理由

① 拠点区分間繰入金収入は、人事異動による人件費に相当する収入増

② 人件費は、人事異動による支出増

③ 事業費は、水道光熱費の節約による支出減

④ 事務費は、修繕費の減少による支出減

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
（1）	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

【利用者への支援内容】

- 児童クラブの実施（囲碁クラブ・詩吟教室・大正琴教室等）
- 幼児クラブの実施（にこにこひろば、赤ちゃん交流会、パパと遊ぼう等）
- 母親クラブの実施（お菓子作り、骨盤体操等の母親リフレッシュ講座）
- のびのびクラブの実施（入園前1年コースの開催）
- その他の行事の実施（プール、夏祭り、敬老のつどい）

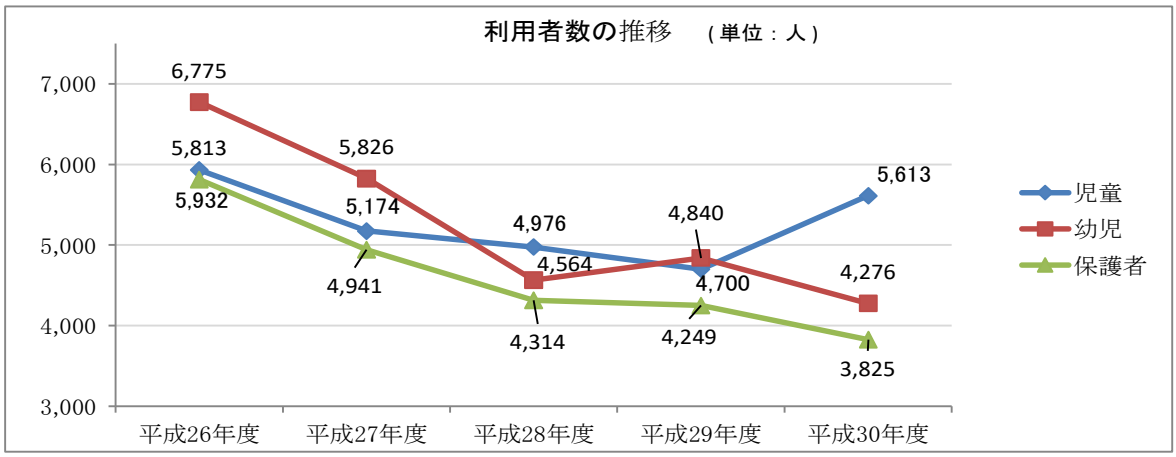
【実績と成果】

- 18歳未満の児童を対象に、遊び場を提供するとともに、児童クラブは各種教室を開催しました。特に、小学生高学年が多く利用されました。
- 幼児クラブは就学前の幼児を対象とし、にこにこひろばなどを実施しました。
- 母親クラブは母親リフレッシュ講座やお菓子作りなどを実施し、好評を得ました。
- 入園前1年コースののびのびクラブは、延べ利用者数1,600人を見込んでいましたが、前年比利用者数が減少し、1,048人の利用数でした。
- パパと遊ぼう、マタニティ交流会、中高生と赤ちゃんのふれあい交流会、中高生のお菓子作り、3年生からの料理教室などを実施しました。
- 恒例の夏まつりは278人、プールは延べ324人の参加がありました。

1．利用者状況

（単位：人）

		男	女	計		男	女	計
児童	1年生	214	195	409	幼　児	2,033	2,243	4,276
	2年生	162	272	434				
	3年生	333	610	943	保 護 者	161	3,664	3,825
	4年生	213	220	433				
	5年生	1,075	1,183	2,258				
	6年生	418	401	819				
	中学・高校	164	153	317				
	小　計	2,579	3,034	5,613	合　計	4,773	8,941	13,714



・ 施設内での行事や企画（クラブの実施）を実施するにあたって、地域のボランティア団体の協力を得て、児童、乳幼児、母親、高齢者等の世代間交流にもつながるよう支援します。

【実績と成果】

・ 世代間交流事業として、囲碁クラブや大正琴教室のほか季節の行事のクリスマス会や節分、ひなまつりなどを実施しました。また、老人福祉センター行事の敬老のつどいや春のミニコンサート、マジック講座などにも幼児、児童の参加があり、微笑ましい時間となっていました。

（2）	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②

・ 幼稚園、小学校、中学校、高校と必要に応じて連携し、施設行事への参加協力をいただき、また、どんと祭りなどの地域行事に参加し、地域の中で必要とされる施設をめざします。

【実績と成果】

・ 幼稚園で遊ぼうは、久代幼稚園と加茂幼稚園の協力のもと、実施いたしました。久代児童センターでの夏まつりは、川西南中学校生の吹奏楽部や北稜高校生のダンス部の協力を得るなどしており、久代小学校、加茂小学校から多くの児童に楽しんでいただきました。川西南中学校生、明峰中学校生のトライやるウィークや北稜高校生のインターンシップを受け入れるなど、地域の学校との連携を心がけました。地域のどんとまつりの舞台発表へも参加し、地域の皆様と協力して行事を行うことができました。

（3）	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③

・ 平成30年度からは、積極的に子育て支援団体への支援協力も視野に入れて、施設活用をします。

【実績と成果】

・ これまでできていなかった子育て支援団体への支援等を視野に入れて、検討しました。育児グループへの部屋貸しを開始しましたが、利用日時等の調整から1回のご利用のみとなりました。今後は、既成の行事等に影響のない範囲で、検討調整をしていきたいと考えています。

K2	子育て支援事業	決算科目	ファミリーサポートセンター事業

主な事業内容・成果

「子育ての応援をしてほしい」(依頼会員)、「子育ての応援をしたい」(協力会員)、「子育ての応援をしてほしいし、応援もしたい」(両方会員)という人が会員に登録し、地域の中で育児の相互援助活動を行う会員制の組織です。ファミサポの理解者、協力者を増やすために、ファミサポ通信の印刷部数を増やしたり、高齢者大学等で積極的にPRを行い、会員が59名増えました。また、講習会の内容の充実を図るとともに、センター運営やサポート内容の検討、見直しを行い、安心、安全なサポートの充実に努めました。

今後の課題

地域の中で安全で安心した子育ての相互援助活動が行えるよう、魅力ある内容の講習会や研修等を実施し、資質の向上をめざします。また、これまでつながりのなかった層への働きかけを通して、協力会員増の取組みを進める必要があります。

資金収支計算書決算額　(単位:円)

科目	平成29年度	平成30年度	増減
(収　　入)	7,855,458	8,200,706	345,248
受託金収入	7,855,458	8,200,706	345,248
(支　　出)	7,852,241	8,203,897	351,656
人件費	6,199,515	6,207,118	7,603
事業費	721,927	906,255	184,328
事務費	870,799	1,030,524	159,725
その他	60,000	60,000	0

当期資金収支差額	3,217	△ 3,191	△ 6,408
前期末資金収支残高	0	3,217	3,217
当期末支払資金残高	3,217	26	△ 3,191

主な増減理由

① 事業費は、ファミサポ通信の部数増や事前打合せ用紙変更に伴う印刷製本費の増
② 事務費は、キセラへの移転案内等の送付に伴う通信運搬費の増

平成30年度事業報告　※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2－1
(1)	幅広い世代が活動できる場づくり	取組項目	③

・ 様々な子育てに関する依頼に対応していくために、コミュニティ組織等の地域組織や団体と連携し、ファミリーサポートセンター事業の周知を図りながら、協力会員の拡充につながるよう新たな人材の発掘と育成に努めます。

【実績と成果】

・ ファミサポ通信や市社協ホームページで情報発信するとともに、高齢者大学でのPRやサブリーダーからの声掛けなど行った結果、会員数は前年度より59名増え、1,148名になりました。
会員が59名増えた内、子どもを預かる側(協力会員、両方会員)が25名おり、わずかですが需給バランスが良くなりました。今後も協力・両方会員の増にむけた取組みを進める必要があります。

地域別会員登録者数

	地　　区	依頼会員	協力会員	両方会員	合　計
川西市	川西南	67	17	20	104
	中央	188	36	36	260
	多田	131	53	40	224
	多田西	109	56	38	203
	東谷	111	43	26	180
	猪名川	93	29	31	153
広域	宝塚	12	4	2	18
	伊丹	4	0	0	4

その他	2	0	0	2
合　　計	717	238	193	1,148
入　　会	83	18	18	119
退　　会	49	7	4	60

講習会の開催

開　催　日	内　　容	参加者（人）
平成 30 年 5 月 18 日	見つけて防ごうサポート中の事故　安全講習 1 回目	6
平成 30 年 6 月 6 日	ステップアップ研修　1 回目　救急救命講習	20
平成 30 年 7 月 6 日	見つけて防ごうサポート中の事故　安全講習 2 回目	3
平成 30 年 7 月 10 日	第 1 回講習会　助産師さんのおはなし	23
平成 30 年 8 月 3 日	第 2 回講習会　手作り木製パズル作り	29
平成 30 年 9 月 10 日	見つけて防ごうサポート中の事故　安全講習 3 回目	7
平成 30 年 10 月 17 日	子育て支援者講座　1回目 「川西の子育て支援って？どんな活動があるのかな」	25
平成 30 年 10 月 24 日	子育て支援者講座　2 回目　「子育て支援の「なぜ」「こまった」「どうしよう」をちょっと解決」	24
平成 30 年 11 月 16 日	ステップアップ研修 2 回目　小児看護	24
平成 31 年 1 月 16 日	第 3 回講習会　調理実習	18
平成 31 年 1 月 29 日	見つけて防ごうサポート中の事故　安全講習 4 回目	8
平成 31 年 2 月 6 日	「発達が気になるこどもへの関わり方」（市と共催）	30
平成 31 年 3 月 7 日	見つけて防ごうサポート中の事故　安全講習 5 回目	6

交流会の開催

開　催　日	内　　容	参加者(人)
平成 30 年 6 月 30 日	感謝祭	23
平成 30 年 12 月 9 日	クリスマス会	77

2	福祉情報の受発信	活動項目	2－2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③

・ ファミリーサポートセンターを多くの方に知ってもらい、地域における子育ての援助活動が円滑に推進できるよう、魅力ある情報紙等を作成し、発信します。

【実績と成果】

・ ファミサポ通信の内容の充実に努めるとともに、発行部数を増やし、より多くの方に情報をお届けしました。また、子育て支援関係NPO主催イベントや高齢者大学に参画し、これまでつながりのなかった方々にPRを行いました。
年3回のファミサポ通信の発行と市社協ホームページ等で随時、情報発信を行いましたが、まだ十分とは言えません。これまでつながりのなかった新たな層への働きかけが求められます。

広報紙（ファミリーサポート通信）の発行

号数	発行月	部数
第 44 号	平成 30 年　6 月	1,500
第 45 号	平成 30 年　10 月	2,000
第 46 号	平成 31 年　3 月	2,000

3	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3－1
(1)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③

・ 育児と介護など同時に直面する世帯の複合化した課題等に対し、地域の様々な資源を活用し、関係機関と連携しながら、世帯の自立を支援します。

【実績と成果】

・ かわにし子育てフェスティバルやいながわキッズフェスティバル、子育て支援のNPO主催イベント等に参画し、多様な担い手との連携・協働に努めました。これらの取組みにより、行政や関係機関との連携・協働は広がりましたが、今後は自治会やコミュニティ、福祉委員会などの地域組織とのつながりが必要です。

子育て関係行事等への参画

開　催　日	内　　容	参加者(人)
平成 30 年 5 月 13 日	猪名川町子育てキッズフェスティバル	5
平成 30 年 10 月 17 日	子育て支援者講座でのファミサポ PR のための説明	2
平成 30 年 10 月 21 日	ファミリーハロウィン☆ブーケ 2018 に PR のための参加	3
平成 30 年 11 月 11 日	川西市主催　かわにし子育てフェスティバル	5
平成 30 年 11 月 15 日	ファミリーサポートアドバイザー等研修会	2
平成 30 年 11 月 28 日	ファミリーサポートセンター事業の広域連携にかかるワーキング会議	4
平成 31 年 1 月 22 日	高齢者大学でのファミサポ PR のための説明	3

サブリーダーとの連絡会議の開催

開催	参加者（人）
11回	126

4	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3－2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④

・ 既存の制度やサービスでは充足できない子育てに関するニーズや課題に対し、関係機関と連携しながら地域住民ならではの支援につながるよう、きめ細やかな調整に努めます。

【実績と成果】

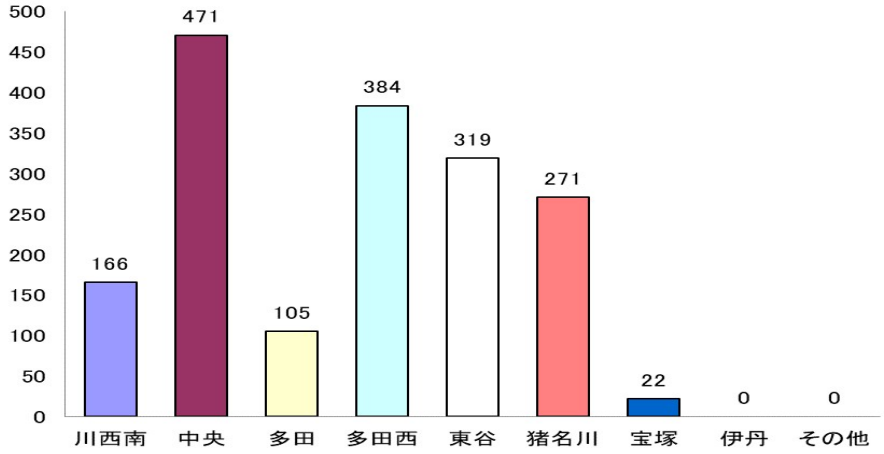
・ 川西市こども・若者ステーションや保健センター、川西さくら園等からの依頼が増え、ケース会議への参画や家庭訪問等を行い、関係機関と連携しながらファミサポとして可能なサポートにつなげました。今後は、近くに住む地域住民ならではの支援が展開できるよう調整を行う必要があります。

地域別依頼受付数と活動件数

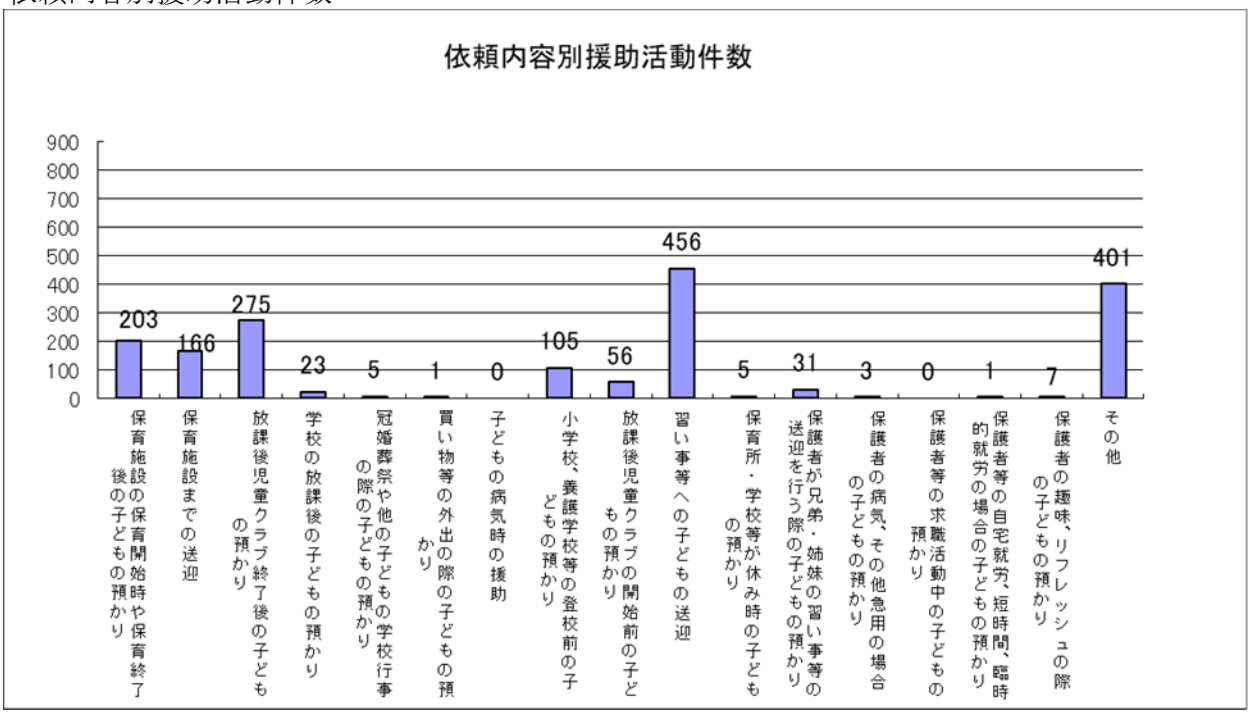
地域区分		依頼受付数			活動件数
		受付	キャンセル	不成立	
川西市	川西南	186	19	1	166
	中央	508	35	2	471
	多田	122	17	0	105
	多田西	437	51	2	384
	東谷	456	127	10	319
	猪名川	297	25	1	271

広域	宝塚	26	4	0	22
	伊丹	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
合　　計		2,032	278	16	1,738

地域別援助活動件数



依頼内容別援助活動件数



※その他（401件）の内訳

249件	放課後児童クラブの送迎	97件	療育施設への送迎
39件	保育所に入所前の預かり	16件	その他